

令和8(2026)年度入学生

# 履 修 の 手 引

奈良学園大学  
NARAGAKUEN UNIVERSITY

人 間 教 育 学 部

令和8(2026)年度

この「履修の手引」は、学生の皆さんが4年間にわたって本学で学修し、授業を履修して単位を修得するうえで必要な事項をまとめた手引です。

奈良学園大学では、学修に必要な教育科目を、数多く開設しています。学生の皆さんは、自分の目標や興味・関心に基づき、本学の定める一定の規則やルール(履修規程)に従って、履修する授業科目を選択し、時間割を編成してください。主体的に立案した履修計画に従って、授業を欠くことなく履修を完遂することが重要です。自己責任において計画を立て学修することは、大学教育の大きな柱の一つです。

学修においては一定の成果を修め、卒業認定に必要な単位を修得していかなばなりません。この「履修の手引」を熟読して、効果的な履修計画を立て、有意義な学習ができるよう期待しています。

令和8（2026）年度 学年暦及び行事予定表 【人間教育学部】

2026.3.17版

前期

日	月	火	水	木	金	土	行事予定		
3月	8	9	10	11	12	13	14	3月23日（月）～25日（水）	後期面談及び成績開示
	15	16	17	18	19	20	21	23日（月）	履修登録（新4年次生）
	22	23	24	25	26	27	28	24日（火）	履修登録（新3年次生）
4月	29	30	31	1	2	3	4	25日（水）	履修登録（新2年次生）
	5	6	7	8	9	10	11	<1年次生>	
	12	13	14	15	16	17	18	4月3日（金）	入学式
	19	20	21	22	23	24	25	4月4日（土）	履修登録(新入生)
	26	27	28	29	30			6日（月）	新入生学外研修
								<全年次生>	
								4月4日（土）	健康診断 2・3・4年次生
								7日（火）	不開講科目・抽選科目結果 決定(対象者変更登録申込)
								8日（水）	前期授業開始
									履修登録変更期間（～4/14まで）
									教科書販売（～4/15まで）
								15日（水）	履修登録取消期間（～5/20まで）
								18日（土）	健康診断 1年次生
								29日（水・祝）～5月6日（水・祝）	一斉休講
5月						1	2	20日（水）	履修登録取消申請締切
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								
6月		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30						
7月				1	2	3	4	20日（月・祝）	授業実施日
	5	6	7	8	9	10	11	29日（水）	前期授業終了
	12	13	14	15	16	17	18	30日（木）・31日（金）	補講期間
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			
8月							1	8月3日（月）～8月7日（金）	前期定期試験
	2	3	4	5	6	7	8	10日（月）～9月20日（日）	夏期休業
	9	10	11	12	13	14	15	17日（月）・18日（火）	前期追試験手続き
	16	17	18	19	20	21	22	19日（水）	前期再試験対象者発表
	23	24	25	26	27	28	29	19日（水）～21日（金）午前中まで	前期再試験手続き
	30	31						24日（月）～28日（金）	前期追・再試験
9月			1	2	3	4	5	10日（木）～15日（火）	前期面談及び成績開示
	6	7	8	9	10	11	12	10日（木）	履修登録（4年次生以上）
	13	14	15					11日（金）	履修登録（3年次生）
								12日（土）	保証人個別懇談会（1, 2年次生）
								14日（月）	履修登録（2年次生）
								15日（火）	前期卒業式
									履修登録（1年次生）

令和8（2026）年度 学年暦及び行事予定表 【人間教育学部】

後 期

	日	月	火	水	木	金	土	行 事 予 定
9月								16日（水） 不開講科目・抽選科目結果 決定(対象者変更登録申込) 21日（月・祝） 後期授業開始・授業実施日 22日（火・祝） 授業実施日 23日（水・祝） 授業実施日 28日（月） 履修登録変更期間（～9/25まで） 教科書販売（～9/28） 履修登録取消期間（～10/23まで） 3年次専門科目 後期授業開始日
				16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
10月					1	2	3	12日（月・祝） 授業実施日 18日（日） 大学祭 23日（金） 履修取消申請締切
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	3	4	5	6	7	1日（日） 創立記念日 2日（月） 創立記念日の振替休日※ただし授業実施日 3日（火・祝） 授業実施日 14日（土） 保証人個別懇談会（3年次生） 23日（月・祝） 授業実施日
	8	9	10	11	12	13	14	
	16	17	18	19	20	21	22	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
12月			1	2	3	4	5	5日（土）,19日（土） 3年次生補講期間①（水・月曜日15回目） 25日（金） 年内授業最終日 26日（土）～1月7日（木） 冬期休業（3年次専門科目以外）
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
1月						1	2	7日（木）,9日（土）,22日（金） 3年次生補講期間②（木・火・金曜日15回目） 8日（金） 年明け授業開始（3年次専門科目以外） 15日（金） 大学入学共通テスト準備（全日休講-キャンパス入構禁止） 16日（土）～17日（日） 大学入学共通テスト（キャンパス入構禁止） 18日（月） 後期授業終了 19日（火）～21日（木） 補講期間 22日（金） 卒業論文提出期限 25日（月）～29日（金） 後期定期試験
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
2月		1	2	3	4	5	6	1日（月）～3月31日（水） 春期休業 1日（月）・2日（火） 後期追試験手続き 5日（金） 卒業論文発表会 8日（月） 後期再試験対象者発表 9日（火）・10日（水） 成績開示（卒業年次生） 9日（火）・10日（水）・12日（金）午前中 後期再試験手続き 15日（月）～19日（金） 後期追試験・再試験 24日（水） 後期追試験・再試験成績開示（卒業年次生）
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28							
3月		1	2	3	4	5	6	15日（月） 卒業証書・学位記授与式 24日（水）～26日（金） 後期面談及び成績開示 24日（水） 履修登録（新4年次生） 25日（木） 履修登録（新3年次生） 26日（金） 履修登録（新2年次生）
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

## 2026年度 授業スケジュール

### 【前期】授業スケジュール

①②…：授業回数スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
4月				4/1	4/2	4/3	4/4	
						入学式		
	4/5	4/6	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	
			抽選科目 抽選日	①	①	①		
	4/12	4/13	4/14	4/15	4/16	4/17	4/18	
		①	①	②	②	②		
	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	
		②	②	③	③	③		
	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30			
		③	③	-	-			

	日	月	火	水	木	金	土	備考
5月						5/1	5/2	
						-	-	
	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	
	-	-	-	-	④	④		
	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	
		④	④	④	⑤	⑤		
	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	
		⑤	⑤	⑤	⑥	⑥		
	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	
		⑥	⑥	⑥	⑦	⑦		
	5/31							

	日	月	火	水	木	金	土	備考
6月		6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	
		⑦	⑦	⑦	⑧	⑧		
	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	
		⑧	⑧	⑧	⑨	⑨		
	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	
		⑨	⑨	⑨	⑩	⑩		
	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	
		⑩	⑩	⑩	⑪	⑪		
	6/28	6/29	6/30					
		⑪	⑪					

## 2026年度 授業スケジュール

### 【前期】授業スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
7月				7/1	7/2	7/3	7/4	
				⑪	⑫	⑫		
	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	
		⑫	⑫	⑫	⑬	⑬		
	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	
		⑬	⑬	⑬	⑭	⑭		
	7/19	<b>7/20</b>	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/20 : 授業実施日
		⑭	⑭	⑭	⑮	⑮		
	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31		
		⑮	⑮	⑮	補講期間			

	日	月	火	水	木	金	土	備考
8月							8/1	
	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	
		前期試験						
	8/9	8/10	<b>8/11</b>	8/12	8/13	8/14	8/15	
	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	
		前期追再試験						

	日	月	火	水	木	金	土	備考
9月	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	
	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	前期 : 9/15まで
					履修登録4年	履修登録3年		

### 【後期】授業スケジュール

①②… : 3年次専門科目及び「キャリアスキルアップII」の授業回数スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
9月	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/15 : 前期卒業式
		履修登録2年	履修登録1年	抽選科目 抽選日				後期 : 9/16から
	9/20	<b>9/21</b>	<b>9/22</b>	<b>9/23</b>	9/24	9/25	9/26	9/21、22、23 : 授業実施日
		①	①	①	①	①		
	9/27	9/28	9/29	9/30				
		②①	②①	②①				

## 2026年度 授業スケジュール

### 【後期】授業スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
10月					10/1	10/2	10/3	
					②①	②①		
	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	
		③②	③②	③②	③②	③②		
	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/12 : 授業実施日
		④③	④③	④③	④③	④③		
	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	
		⑤④	⑤④	⑤④	⑤④	⑤④		
	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	
	⑥⑤	⑥⑤	⑥⑤	⑥⑤	⑥⑤			

	日	月	火	水	木	金	土	備考
11月	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/2・3 : 授業実施日
		⑦⑥	⑦⑥	⑦⑥	⑦⑥	⑦⑥		
	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	
		⑧⑦	⑧⑦	⑧⑦	⑧⑦	⑧⑦		
	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19	11/20	11/21	
		⑨⑧	⑨⑧	⑨⑧	⑨⑧	⑨⑧		
	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/23 : 授業実施日
		⑩⑨	⑩⑨	⑩⑨	⑩⑨	⑩⑨		
11/29	11/30							
	⑪⑩							

	日	月	火	水	木	金	土	備考
12月			12/1	12/2	12/3	12/4	12/5	
			⑪⑩	⑪⑩	⑪⑩	⑪⑩	3年専門補講 水曜⑤	
	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	
		⑫⑪	⑫⑪	⑫⑪	⑫⑪	⑫⑪		
	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	
		⑬⑫	⑬⑫	⑬⑫	⑬⑫	⑬⑫	3年専門補講 月曜⑤	
	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	
		⑭⑬	⑭⑬	⑭⑬	⑭⑬	⑭⑬		
	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31			

## 2026年度 授業スケジュール

### 【後期】授業スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
1月						1/1	1/2	
	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	
					3年専門補講 木曜⑮	⑮⑭	3年専門補講 火曜⑮	
	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	
		-	⑮⑭	⑮⑭	⑮⑭	共通テスト準備	共通テスト	
	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	
	共通テスト	⑮⑭	補講期間			3年専門補講 金曜⑮		
	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	
		後期試験						
	1/31							

	日	月	火	水	木	金	土	備考
2月		2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	
	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	
	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	
		後期追再試験						
	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	

	日	月	火	水	木	金	土	備考
3月	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	
	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	
	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	
		卒業式						
	3/21	3/22	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	
				履修登録新4年	履修登録新3年	履修登録新2年		3/24～26後期面談、成績開示
	3/28	3/29	3/30	3/31				

## 目 次

建学の精神 教育理念 教育目的(人間教育学部・保健医療学部) .....	1
奈良学園大学 教育のポリシー .....	2
1. ディプロマ・ポリシー	
2. カリキュラム・ポリシー	
3. アドミッション・ポリシー	
1. 大学の授業 .....	3
(1) 教育課程(カリキュラム)	
(2) 単位制	
(3) 単位数と授業形態 付【学修時間】	
2. 履修登録 .....	4
(1) 履修登録	
(2) 履修の流れ	
(3) 履修制限(CAP)	
(4) 履修登録者数制限	
(5) 不開講科目	
(6) 履修登録の変更・取消	
3. 授 業	
(1) 開講期間 .....	6
(2) 授業時間 .....	6
(3) 休講・補講 .....	6
(4) 臨時休講、緊急時対応 .....	7
(5) 出席・遅刻・早退・欠席について .....	7
(6) 公欠等の手続きについて .....	8
(7) 感染症にかかった場合の取り扱い .....	10
4. 成績評価	
(1) 定期試験 .....	11
(2) 論文(レポート) .....	12
(3) 定期試験受験上の注意事項 .....	12
(4) 不正行為(カンニング) .....	12
(5) 追・再試験 .....	13
(6) 成績評価、単位認定、成績発表 .....	15
5. 他大学等で修得した単位の認定について .....	16
6. 卒業の要件 .....	16
7. GPA制度 .....	17
8. オフィスアワー .....	18

(資料)【公欠に関する申し合わせ】 .....	19
【定期試験時の不正行為に関する申し合わせ】 .....	21
【入学前既修得単位認定細則】 .....	23
【GPA制度に関する細則】 .....	24
学生用履修登録マニュアル .....	27

## (人間教育学部)

人間教育学部 教育のポリシー .....	32
人間教育学部の講義を受けるにあたって .....	33
人間教育学部 学生の公欠についての取り扱い .....	34
卒業所要単位一覧 .....	35

### 9. 履修規程

#### (1) 令和8年度入学生対象 人間教育学部 人間教育学科 履修規程

〈1〉 奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻 履修規程 .....	36
〈2〉 奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻 履修規程 .....	40
〈3〉 表1 人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻 .....	44
表2 人間教育学部 人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻 .....	49
表3～6 (幼一種免関連) .....	53
表7～10 (小一種免関連) .....	54
表11～13 (中一種免(国語)・高一種免(国語)関連) .....	55
表14～17 (中一種免(数学・音楽)・高一種免(数学・音楽)関連) .....	57
表18 (特支一種免関連) .....	63
表19 (幼・小・中・高一種免関連) .....	63

10. 人間教育学部 人間教育学科 保育士養成課程 履修細則 .....	64
2026年度入学生 人間教育学部 人間教育学科 保育士養成課程 .....	65

11. 人間教育学部 人間教育学科 転専攻規程 .....	67
-------------------------------	----

### 12. 教職課程共通

(1) 教職課程の概要 .....	68
(2) 免許状の種類と免許教科 .....	69
(3) 教育実習 .....	69
(4) 介護等体験【小学校教諭・中学校教諭】 .....	70

### 13. 教育職員免許状の授与を受ける基礎資格と最低修得単位数

(1) 幼稚園教諭一種 .....	71
(2) 小学校教諭一種 .....	72
(3) 中学校教諭一種 .....	73
(4) 高等学校教諭一種 .....	74
(5) 特別支援学校教諭一種(2023年度以降入学生) .....	75

## 14. 教職課程の科目

(1) 幼稚園教諭一種	76
(2) 小学校教諭一種	78
(3) (a)中学校教諭一種[国語]	80
(4) (b)中学校教諭一種[数学]	82
(5) (c)中学校教諭一種[音楽]	84
(6) (a)高等学校教諭一種[国語]	86
(7) (b)高等学校教諭一種[数学]	88
(8) (c)高等学校教諭一種[音楽]	90
(9) 特別支援学校教諭一種	92

## 15. 保育士養成課程

(1) 保育士養成課程の概要	93
(2) 保育士資格の取得要件	93
(3) 保育士養成課程の科目の履修要件	93
(4) 保育士養成課程登録者の選考方法	93
(5) 保育実習について	93
(6) 保育士養成課程の科目	94

## 16. 学校図書館司書教諭

(1) 学校図書館司書教諭の概要	
(2) 学校図書館司書教諭資格の取得要件	
(3) 学校図書館司書教諭講習規程に相当する授業科目	
(4) 学校図書館司書教諭講習修了証書取得までの流れ	

## 17. 2026年度入学生対象 人間教育学部 人間教育学科 授業科目表

(1) 人間教育学部人間教育学科 人間教育学専攻〈乳幼児教育専修〉	97
(2) 人間教育学部人間教育学科 人間教育学専攻〈小学校専修〉	100
(3) 人間教育学部人間教育学科 人間教育学専攻〈国語専修〉	103
(4) 人間教育学部人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻〈数学専修〉	106
(5) 人間教育学部人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻〈音楽専修〉	108

## 18. 人間教育学部 人間教育学科 専攻間相互に履修を認める専門科目表

2022年度以降入学生対象 人間教育学部 人間教育学科

専攻間相互に履修を認める専門科目表	111
-------------------	-----

## 19. 「育成したい学生像」能力指標一覧

## 20. 人間教育学部カリキュラムツリー

(1) 乳幼児教育専修	115
(2) 小学校専修	116
(3) 中等国語専修	117
(4) 中等数学専修	118
(5) 中等音楽専修	119

## 建学の精神

高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有する有能な人材を教育・養成し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献する。

## 教育理念

現実に立脚した学術の研究と教育を通じて、明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成を目指し、時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をつちかい、誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材を養成する。

## 教育目的

### 人間教育学部

「社会の中で一人の人間」として生き抜く力となる豊かな「人間力」を基盤とする、柔軟な「教育力」と高度な「実践力」を備えた「教育者」（広く社会の教育活動にかかわる人材）の養成を目的とする。

### 保健医療学部

幅広い教養と豊かな人間性、国際性、変化に対応できる汎用的能力など確かな学士力をそなえ、「人」を中心に据えた専門的知識と高度な技術、創造力、実践力、倫理性、協調性などを身につけた質の高い保健医療職者を育成することを目的とする。

## 奈良学園大学 教育のポリシー

### (1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

奈良学園大学は、高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献できる人材を育成するため、学士課程に定める所定の単位を修得し、以下のような「実践力」を身につけた学生に、学位を授与します。

1. 高度な学識と実務能力に基づく実践力
2. 時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をもつ実践力
3. 社会に貢献することのできる実践力

### (2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

奈良学園大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げる高度な知識・技能などを修得させるため、共通教育科目と各分野の専門科目を設け、これらを段階的に学べるよう科目を配します。

1. 4学年8 Semesterに分け、段階的に知識・技能などを修得できるよう科目を配します。
2. 教養や社会人としての基礎的・汎用的能力を身につけ、専門学術知識に裏付けられた実践力を修得するための授業科目を体系的に編成します。
3. 高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を育むため、講義・演習・実験・実習など多様な授業形態を組み合わせた授業を行います。

### (3) 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

奈良学園大学は、高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献できる人材を育成するため、次に掲げる人を受け入れます。

1. 大学教育を受けるに相応しい基礎能力や体験を備え、本学での教育を通じて社会人としての一層の成長が期待できる人
2. 実践を重視した演習課題に、積極的にとりくむ意欲のある人
3. 地域社会との交流に関心を持ち、将来、社会全体の発達・発展に貢献する事に使命感を持つ人

各学科のポリシーについては、本学HPを参照のこと  
[http://www.naragakuen-u.jp/introduction/ed\\_policy.html](http://www.naragakuen-u.jp/introduction/ed_policy.html)

## 1. 大学の授業

### (1) 教育課程(カリキュラム)

大学において開設される授業科目は、学部・学科の専門に関する科目と、幅広く深い教養を培う科目に分類されます。これらの授業科目を履修区分ごと(必修科目・選択科目)に分けたり各年次に配当したり、一週間あたりの時間数を決めたりするなどして編成されたものを教育課程(カリキュラム)といいます。

#### ① 学期

1年を二つの期に分けています。

前期：4月1日～9月15日

後期：9月16日～3月31日

#### ② 授業時間

1限目：9:00～10:30

2限目：10:40～12:10

(昼食)

3限目：13:00～14:30

4限目：14:40～16:10

5限目：16:20～17:50

### (2) 単位制

「単位」とは、学修に要する時間を表す基準です。

本学で開講している各授業科目には、それぞれに「単位数」が定められています。

各授業科目を履修し、その成績が合格点(60点以上)であれば、設定された単位数の学修ができたとして認定され、その科目の単位を修得できたことになります。

修得した単位数の履修区分ごとの合計が卒業に必要な単位数を満たし、かつ、在学期間が4年以上となった時点で卒業することができます。

### (3) 単位数と授業形態

単位数については、文部科学省の省令である大学設置基準によって、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とすると定められています。ここで言う学修とは、授業時間に加えて、予習・復習及び研究等のための自学自習の時間を含みます。

以下に学修の典型的なパターンのいくつかを示します。

[1単位に必要な学修時間]

	必要な学修時間	授業時間	自学自習時間
クォーター科目	45時間	2時間×7.5回＝15時間	30時間以上
半期1単位科目	45時間	2時間×15回＝30時間	15時間以上
半期2単位科目	90時間 (1単位45時間×2)	2時間×15回＝30時間	60時間以上
通年4単位科目	180時間 (1単位45時間×4)	2時間×30回＝60時間	120時間以上

## 2. 履修登録

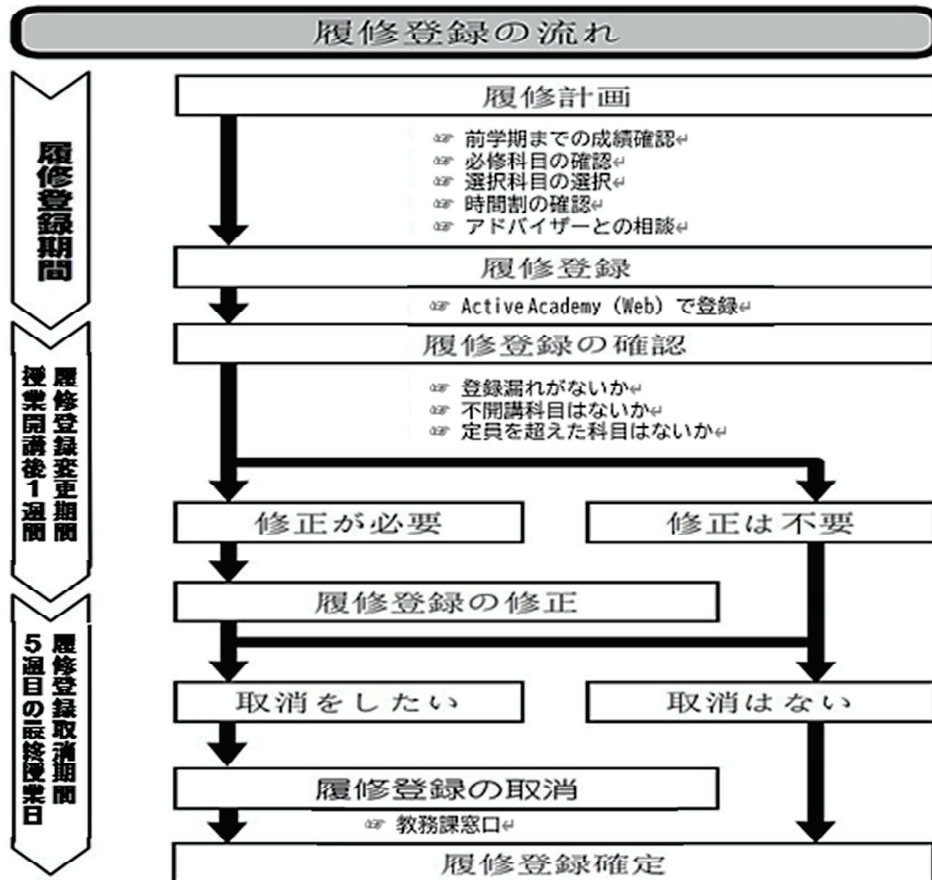
### (1) 履修登録(p.27 マニュアル参照)

大学では、授業を受講するにあたって、履修登録期間内に履修登録をしなければなりません。履修登録をしていない科目を受講しても単位は修得できません。履修登録にあたっては、各自の履修計画に基づいて十分に検討してください。

#### 【履修計画の注意点】

- ・「履修の手引」(本書)をよく読み、履修のルール(履修方法や履修規程)をよく知ること。
- ・「シラバス」をよく読み、授業の内容や概要をつかむこと。
- ・将来の目標に合わせて、必要な授業科目を選択すること。
- ・アドバイザー(担任)との面談には必ず出席すること。
- ・成績発表後、修学ポートフォリオの「成績表」を確認し、結果をふまえて履修計画を立てること。
- ・必修科目は必ず登録すること。前年度の必修科目が修得できなかった場合は再履修すること。
- ・選択科目についてもそれぞれの履修区分や単位修得条件について注意すること。必修科目ではないからといって安易に履修放棄しないこと。
- ・卒業必要単位数ギリギリで履修するのではなく、余裕ある履修計画を行うこと。

### (2) 履修の流れ



### (3) 履修制限(CAP)

1単位の授業科目は45時間の学習を必要とする内容をもって構成されており、授業時間に加え、自学自習の時間を含んでいることから、一定期間に受講できる授業科目の数は限られています。したがって、履修登録した科目の適切な学修時間確保のため、1年間に履修できる単位数には上限(CAP)があります。

#### ○履修上限の緩和(2023 年度入学生以降)

2年次生以上で、前年度40単位以上を修得し、前年度GPAが3.000以上の者については、各学科履修規程に定める履修制限を2単位緩和します。

1年次生で前期20単位以上を修得し、前期GPAの値が3.000以上の者については、各学科履修規程に定める履修制限を当該年度2単位緩和します。

#### ■履修制限単位数

学科	履修制限単位数
人間教育学科	年間48単位
看護学科	年間48単位
リハビリテーション学科	年間48単位

### (4) 履修登録者数制限

選択科目では履修登録者数制限(受講人数の制限)を行う場合があります。その場合は、履修登録変更期間前に抽選を行います。抽選の結果、当選した科目の取消はできません。

### (5) 不開講科目

履修登録期間終了時に登録者が0名の科目は、開講されません。また、履修登録変更期間中であっても、その科目に変更(登録)することはできません。

### (6) 履修登録の変更・取消

#### ① 変更・取消したい場合

「履修登録変更期間」内に、各自で Active Academy にアクセスし、変更してください。期間を過ぎての変更や取り消しはできません。また、抽選後の履修登録制限科目や不開講科目への変更もできません。変更前に出席していなかった授業については、欠席扱いとなります。

#### ② 登録確定後に取消したい場合

前期・後期ともに、5回目※の授業最終日(16時30分まで)までに教務課窓口で申請してください。ただし、理由によっては認められない場合もあります。(期間については、学年暦・行事予定で確認してください)

※クォーター科目(8回で終了する科目)の場合は3回目

### 3. 授業

原則として、休講、補講、教室変更等の連絡はActive Academyで行います。  
必ず確認してください。

#### (1) 開講期間

それぞれの科目は、開講される期間で「通年科目」「半期(セメスター)科目」「クォーター科目」「集中科目」に分かれます。

科目	内容
通年科目	1年間で授業を修了する科目
半期科目	前期、または後期のいずれか半期で授業を修了する科目
クォーター科目	7.5回(15時間)で修了する科目
集中科目	夏季・冬季休業期間中等、短期間に集中して授業を行う科目

#### (2) 授業時間

1回の授業時間は90分です。

通常、月曜日～金曜日は1～5時限で、土曜日は1～2時限で授業を行います。ただし、集中講義や補講などでこれ以外の時間帯にも授業を行う場合があります。Active Academy で確認してください。

【校時表】

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	13:00～ 14:30	14:40～ 16:10	16:20～ 17:50	18:00～ 19:30

#### (3) 休講・補講

##### ◆休講

大学側の事情(入学試験等)や担当教員のやむを得ない理由(病気、出張等)により、休講になることがあります。

休講通知は、原則として1週間前にActive Academyにてお知らせします。ただし、急な事情のときは、やむを得ず当日にお知らせすることもありますので、登下校時には必ずActive Academyを確認するようにしてください。

##### ◆補講

休講によって授業時間数が規定に満たない場合は、必ず補講を行います。補講の日時・教室は、Active Academyでお知らせします。

#### (4) 臨時休講、緊急時対応

下記のア～ウの場合は、臨時休講となります。各自で情報を的確に収集し、以下の定めに従って行動してください。その際、大学への連絡は不要ですが、後日、教務課で必要な手続きをしてください。

##### ア.交通機関ストライキの場合

鉄道会社	対象になる路線
近鉄	全線

上記に示す交通機関がストライキを行った場合、次の時限が休講となります。

- ①午前7時の時点で実施されている場合:午前の授業(1・2時限)を休講とする。
- ②午前10時の時点で実施されている場合:午後の授業(3・4・5・6時限)を休講とする。

##### イ.気象警報が発表された場合

対象となる地域	対象となる気象警報の種類
奈良県北西部又は大阪府	特別警報・暴風警報(大雨洪水警報は対象外)

上記に示す警報が発令された場合、次の時限が休講となります。

- ①午前7時の時点で発表されている場合:午前の授業(1・2時限)を休講とする。
- ②午前10時の時点で発表されている場合:午後の授業(3・4・5・6時限)を休講とする。  
※通学途中に、通学が危険かつ困難となった場合は、各自の判断で危険等を回避し、後に教務課に届け出てください。

##### ウ.公共交通手段が計画運休を発表した場合

下記①あるいは②の場合、臨時休講となります。

- ①近鉄のけいはんな線、奈良線のいずれかで計画運休を実施する場合
- ②奈良・大阪・京都のJR、近鉄(京都線・大阪線・生駒線のいずれか)、南海、京阪、阪急、大阪市高速電気軌道(OsakaMetro)のうち、4社以上が計画運休を実施する場合

#### (5) 出席・遅刻・早退・欠席について

##### ◆出席

単位を修得するためには、履修登録した科目への毎時間の出席が必要です。

授業時間の3分の2以上(保健医療学部の実習は5分の4以上)の出席がない場合は、評価の対象とならず、単位修得にあたっては再履修となります。

##### ◆遅刻・早退

遅刻及び早退について、原則として、20分未満の場合は3分の1回の欠席扱いとし、20分以上の場合は1回の欠席扱いとします。

##### ◆欠席

次の(6)(7)のような、やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、大学事務室(教務課、学生支援センター、キャリアセンター)へ申し出て「公欠届」、「公欠願」及び「欠席届」の手続きを行ってください。授業における出欠の取り扱いは各科目の担当教員に委ねられます。

## (6) 公欠等の手続き

下表に従って手続きをしてください。

なお、公欠届または公欠願は登学次第、速やかに提出し、許可を得て、当該授業科目担当教員に提出してください。「公欠願」が認められるのは、1科目につき、原則3回までです。

### 【公欠届】(注1)

欠席理由	種類	必要書類等	手続先
忌引 〔父母(養父母を含む)・祖父母・実兄弟 または実姉妹〕	公欠届 (忌引)	公的証明書(写し可)と印鑑 ・父母(養父母を含む)3日以内 ・祖父母1日以内・実兄弟または 実姉妹2日以内]	教務課
感染症 (学校保健安全法施行規則第18条に規定)	公欠届 (感染症)	学校感染症治癒証明書 〔書式は本学ホームページから ダウンロード〕	学生支援 センター
交通機関の事故・ストライキ等	公欠届 (交通)	遅延証明書等と印鑑	教務課
災害等	公欠届 (災害等)	官公庁による被災証明書と 印鑑	教務課
実習	公欠届 (実習関係)	印鑑	教務課
単位互換協定大学等の試験	公欠届 (単位互換)	印鑑	教務課
国または都道府県を代表して、諸行事に参加	公欠届 (特別)	印鑑	教務課
警報発表に基づく欠席	公欠届	通学証明書・遅延証明書等 と印鑑	教務課

### 【公欠願】(注1)

本学課外活動において学長が認めた 公式試合及び行事等に参加(注1)	公欠願	事前に学生支援センターに 届け出ておくこと (同好会は対象外)	学生支援 センター
本学が認めるボランティア活動に参加 (注2)	公欠願	印鑑	学生支援 センター
就職試験等を受験	公欠願 (注3)	企業が発行した就職試験 を証明するもの	キャリア センター

### 【欠席届】

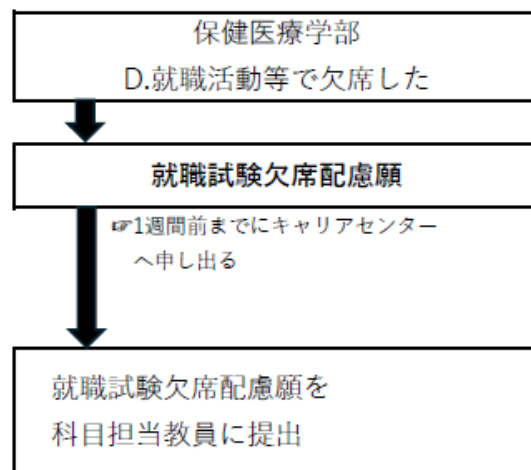
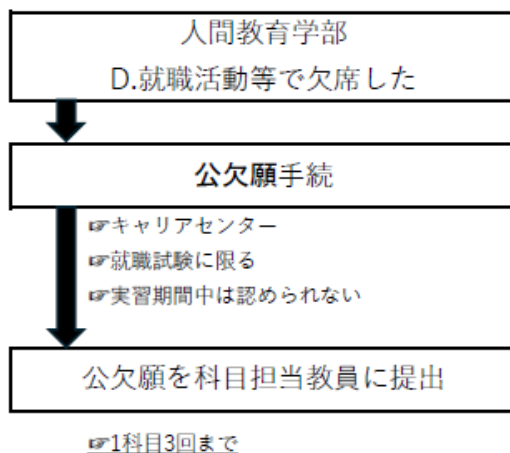
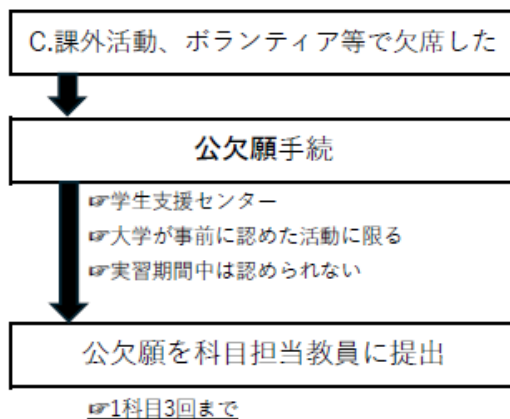
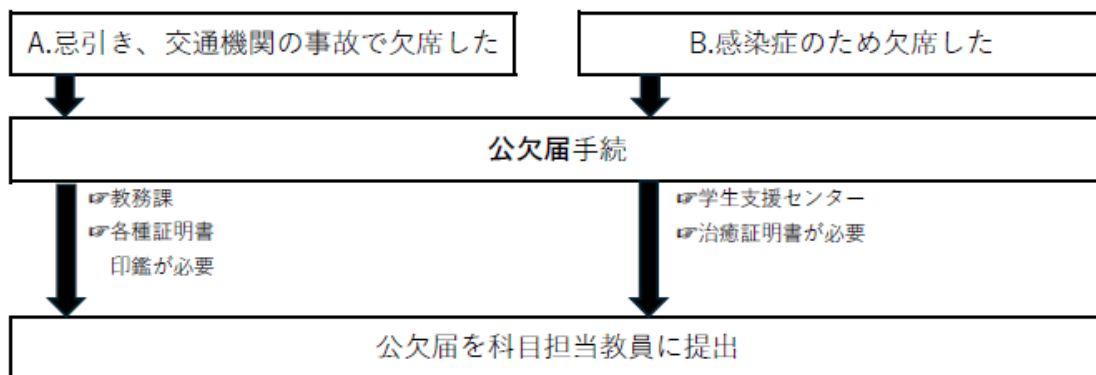
病気・怪我等による1週間以上の長期欠席	欠席届	医師の診断書と印鑑	教務課
---------------------	-----	-----------	-----

(注1) 手続きの最終期限は、当該科目実施期における定期試験期間開始日の前日(土日祝を除く)16時30分とし、この期日を過ぎた場合は認めない(最終授業に関する手続きは、その期日までの申し出で書類提出を猶予する)。

(注2) 実習期間中の公欠願は認めません。

(注3) 保健医療学部は就職試験欠席配慮届

## 公欠手続きの流れ(例)



(7) 感染症にかかった場合の取り扱い

学校において予防すべき感染症(第2種)の種類と出席停止期間の基準が決まっています。  
(学校保健安全法施行規則第 18 条・第 19 条)これらの感染症にかかった場合は、以下の手続をしてください。

分類	感染症名	出席停止期間の基準
第二種	新型コロナウイルス感染症 他	発症した日を0日として5日を経過し、かつ、症状が軽快した後、1日を経過するまで
	インフルエンザ	発症した日を0日として5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗菌療法が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
	風疹	発疹が消失するまで
	水痘(みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後、5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	感染のおそれがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	感染のおそれがないと認められるまで
第三種	腸管出血性大腸菌感染症 他	医師において感染のおそれがないと認められるまで

※出席停止の期間は、学校医、その他の医師において、感染のおそれがないと認めるときは、この限りではありません。

- ①医療機関で感染症と診断されたときは、必ずアドバイザー(担任)と学生支援センターに連絡してください。
- ②出席停止期間は、医師の指示に従って療養し、他者との接触は避けてください。  
また、医師から感染の恐れがないと診断されたら、医師に「治癒証明書」(大学ホームページ「在学生の方へ」のページにあります)を記入してもらい、学生支援センターに提出してください。

## 4. 成績評価

成績評価の方法として、定期試験、論文(レポート)試験、実技試験等を実施します。なお、この他に科目担当教員の判断で小テスト等の臨時試験を行う場合もあります。

詳しくはそれぞれの科目のシラバスで確認してください。

### (1) 定期試験

定期試験とは期間を定めて行う試験のことであり、試験期間は原則として以下のとおりです。

- ・前期試験 7月末～8月初め
- ・後期試験 1月下旬 (※保健医療学部4年次生は12月中旬)

試験期間は毎年度、学年暦・行事予定で確認してください。

#### ◆定期試験の流れ

##### <1> 試験日程・教室発表

試験の1週間前までにActive Academyで発表します。

※講義や演習科目は授業時間の3分の2以上(保健医療学部の実習は、5分の4以上)の出席がない場合は評価の対象となりません。試験を受けられない学生は、科目担当教員から直接通知される場合があります。

##### <2> 試験当日

次の場合は試験を受けることができませんので注意してください。

- ①履修登録をしていない授業科目。
- ②試験開始時刻から20分以上遅刻したとき。

※規程により、出席時間数不足のため再履修になる場合は、定期試験を受験しても評価されません。

### (2) 論文(レポート)試験

授業科目によっては、論文(レポート)試験や実技試験等によって成績評価を行う場合があります。提出期限や条件等は厳格に守ってください。なお、論文(レポート)試験や実技試験は、科目担当教員が直接授業中に説明する場合と、Active Academyを通して連絡する場合があります。また、試験とは別に、レポート課題が課せられることがあります。

提出期限	指定された提出期日・時刻は厳守すること。 締切後の提出は一切、受付できません。
提出先	指定された方法で提出すること。 (指定された提出先以外では受付できません)
受付時間	◎平日 8:30～16:30 Active Academy等オンラインで提出の場合はこの限りではありません。 また、上記時間内でも特に科目担当教員の締切時刻がある場合は、その締切時刻以降は一切受付できません。

### (3) 定期試験受験上の注意事項

- ・ 学生証を机の上に置いて試験を受けること。  
(忘れた場合は証明書自動発行システムで仮学生証を発行してください)  
※仮学生証は発行当日のみ有効、年間10枚まで発行(1枚100円)
- ・ 学生証、筆記用具、時計等の許可された物品以外は、全てかばんの中に入れる。
- ・ 許可された物以外のものが机上または机の中にある時は、不正行為とみなす場合がある。  
また、試験開始後の物品の貸借は認めない。
- ・ 携帯電話は必ず電源を切り、かばん等の中に入れる。
- ・ 試験開始時後20分が経過した場合は入室することができない。
- ・ 退室可能時間は、試験開始から30分経過した時刻から試験終了の5分前までとする。
- ・ 質問がある時は、手を挙げて試験監督者に知らせる。

### (4) 不正行為(カンニング)

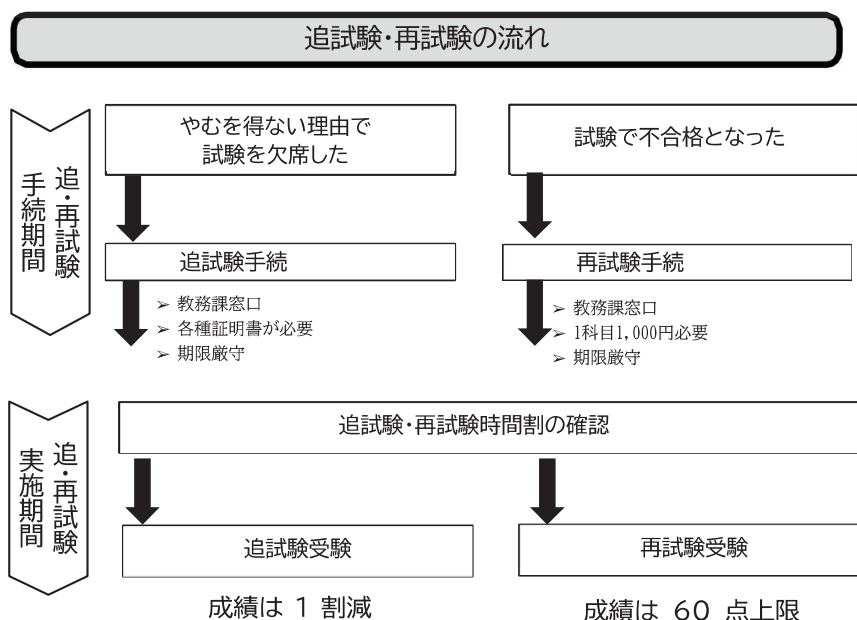
次の行為は、不正行為とみなします。

- ・ カンニングペーパーまたはこれに類似するものを試験中に所持又は使用すること。
- ・ 持込みを許可されていない物品を使用したり参照したりすること。
- ・ 他人に受験させる、または他人の代わりに受験すること。
- ・ 他人の答案をのぞき見ること、または故意に見せること。
- ・ 答案用紙を交換すること。
- ・ 他の受験者と私語をすること。
- ・ 物品の貸借をすること。
- ・ 試験終了を告げられたあとも筆記用具を持っている場合。
- ・ 持ち出しを許可されていない問題用紙や解答用紙を試験教室外に持ち出すこと。
- ・ 盗用、剽窃、代筆を行う、またはさせること。
- ・ 試験監督者の指示に従わないこと。
- ・ その他、当該試験において不正行為と認められる行為をすること。

不正行為をした者については、当該学期に履修登録した演習科目・実技科目をのぞく全授業科目の単位を無効とします。

## (5) 追・再試験

学年暦・行事予定を参照のうえ、各自で追・再試験の受験手続きが必要か判断してください。  
追・再試験日程はActive Academyで発表します。



### ◆追試験

追試験とは、【追試験対象事由】(次ページ)のようなやむを得ない理由によって、成績評価に該当する試験を未受験の学生に対して、定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。

#### ・目的

【追試験対象事由】のようなやむを得ない理由によって、成績評価に該当する試験を未受験の学生に対して、定期試験期間後に試験を実施し、成績評価の機会を保障するため。

#### ・追試験を許可される科目

【追試験対象事由】のようなやむを得ない理由によって、成績評価に該当する試験を未受験となった科目。

#### ・受験手続き

- ①受験希望者は期日内に必要な証明書を添えて「追試験願」を教務課に提出してください。
- ②追試験料は不要です。
- ③追試験時間割はActive Academyにより発表します。

【追試験対象事由】

欠席理由	証明書	備考
疾病等(病気・怪我等)	医師の診断書	自身が病気、怪我等で入院・加療が必要な場合に限りです。
忌引	公的証明書(写し可)と印鑑	父母(養父母を含む)3日以内 祖父母1日以内 実兄弟姉妹2日以内 法事による欠席は認めません。
就職試験等を受験	企業等が発行した就職試験受験を証明するもの	会社訪問、セミナー、研修等は認めません。
交通障害	遅延証明書・事故証明書	20分以内の遅延は認めません。 バイク、マイカー使用に起因する交通事故及び交通渋滞による遅刻は認めません。
災害 (地震・台風・火災・水害等)	官公庁による被災証明書	本人又は家族の居住地が被災した場合に限りです。
その他(本人の不注意による理由であること)	公的な証明書	事前に判明している場合は、教務課に問い合わせてください。 資格試験等は認められません。

◆再試験

再試験は、成績評価に該当する試験を受験して、合格点に達していない学生に対してのみ実施することがあります。再試験の機会設定の有無は、科目担当教員が決定します。

・目的

成績評価に該当する試験を受験し、その成績が不可となった科目について、定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。

・再試験を許可される科目

成績評価に該当する試験を受験し、その成績が不可となった科目で、当該科目に再試験が設定されており、かつ、担当教員が受験を認めた科目。

再試験前には、補習が行なわれることがあります。

・受験手続き

①受験希望者は期日内に証明書発行機にて「再試験願申請書」を発行し、教務課に提出してください。

②再試験料は1科目1,000円です。

③再試験時間割はActive Academyにより発表します。

(6) 成績評価、単位認定、成績発表

① 成績について

成績は、下表のように 5 段階で表されます。

なお、履修した科目の成績評価は科目担当教員の定める評価基準により行われます。

詳細はシラバスで確認してください。

点数	評価	成績証明書の記載	単位
90点～100点	秀	秀	単位認定 (修得)
80点～89点	優	優	
70点～79点	良	良	
60点～69点	可	可	
0点～59点	不可	表示しない	単位不認定 (未修得)

② 成績発表

学期末の成績発表は、学期末(前期末および後期末)に Active Academy で発表します。成績発表の日程については、学年暦で確認してください。保証人には、学期末(前期末および後期末)に成績を通知します。

成績に関する問い合わせについて

成績に関する問い合わせは、成績発表後、2週間以内に教務課に申し出て、「成績評価問い合わせ票」に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。

電話やメールでの問い合わせは受け付けません。

## 5. 他大学等で修得した単位の認定について

本学に入学する前に他の大学・短期大学および高等専門学校の特攻科で修得した単位のうち、本学で開講している授業科目と内容が同等であるものについて、本学において修得した単位として認定しています。

単位が認定された科目は、60単位を上限として卒業要件等に算入することができます。ただし、成績評価は通常の「秀」「優」「良」「可」ではなく、「認定」となります。

入学前修得単位認定の申請期日は、入学年度の4月22日です。手続きの詳細は、教務課にお問い合わせください。

申請に必要な書類

- 1)既修得単位認定申請書(教務課窓口に所定の様式があります)
- 2)在籍していた他大学等の成績証明書
- 3)認定を受けようとする授業科目の講義概要(シラバス)の写し

## 6. 卒業の要件

卒業するためには次の要件を満たす必要があります。

- ・休学期間を除き4年以上の在学期間があること。
- ・履修規定に定められた卒業に必要な科目を履修し単位を修得していること。

※卒業に必要な科目及び単位数については、各学科「履修の手引」の該当ページを参照してください。

学科・専攻		入学年度	ページ
人間教育学科	人間教育学専攻	2020年度～	p.
	中等(数学・音楽)専攻	2020年度～	p.
看護学科		2020年度～	p.
		2022年度～	P
リハビリテーション学科		2019年度～	p.
		2023年度～	P

※各自、対象項目の掲載ページを記入すること

## 7. GPA制度

### (1) GPA制度導入の趣旨

本学では成績評価に加えて、GPA(Grade Point Average)を導入しています。GPAとは成績評価方法の1つで、履修科目の成績の平均を数値化したものです。また、ただ単位を修得すればいいということではなく、その質(成績の評価)も重要となるため、学生の皆さんが自主的・意欲的に学修し、自分の学修成果を正確に把握して、計画的な履修ができるよう制度を設けています。

### (2) GPAの算出方法

GPAの種類およびそれぞれの計算方法は、以下の通り定められています。

#### 1) 学期GPA: 当該学期における履修科目を対象としたGPの平均値

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{当該学期における(履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{当該学期における履修科目の総単位数}}$$

#### 2) 年度GPA: 当該年度における履修科目を対象としたGPの平均値

$$\text{年度GPA} = \frac{\text{当該年度における(履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{当該年度における履修科目の総単位数}}$$

#### 3) 累積GPA: 在学中の全期間における履修科目を対象としたGPの平均値

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{在学中全期間における(履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{在学中の全期間における履修科目の総単位数}}$$

※数値は、小数点以下第4位を四捨五入して第3位までを表記する。

※単位を修得することができなかった授業科目を再履修して成績評価を受けた場合のGPは、その成績評価を受けた学期を対象とした学期GPAの算出に含める。この際、当該授業科目の過去に得たGPについては、累積GPAの算出に含める。

(再履修する前のGPと再履修後のGPのいずれもが、GPAの算出に含まれます)

### (3) GPAの算定基準

判定	得点	評価	評価点(GP)
合格	90~100点	秀	4
	80~89点	優	3
	70~79点	良	2
	60~69点	可	1
不合格	0~59点	不可	0
その他	他大学等で修得し、 本学で認定された単位	認定	-

(4) GPAの算出例

授業科目名	単位数	成績	評価点(GP)	単位数×評価点
言葉の理解	2	秀	4	8
教育原理	2	優	3	6
教職入門	2	良	2	4
スポーツ実技 I	1	可	1	1
情報機器の操作	2	不可	0	0
合計	9			19
	[単位数×評価点(GP)の合計]÷[単位数の合計] = 19 ÷ 9 = 2.111 (※ 小数第4位を四捨五入)			

(5) GPAの確認方法

GPAはActive Academy上で、学期GPA、年度GPA、累積GPAを確認できます。

## 8. オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が指定した曜日・時間帯に学生が自由に研究室を訪れ、授業内容・学修上の問題等について質問や相談ができる制度です。

各教員が指定した曜日・時間帯は、新学期当初に掲示します。授業科目担当の教員を始め、多くの教員に、授業や学生生活に関することなどを相談してください。なお、相談に際してはマナーを心がけ、有効に活用してください。

## 奈良学園大学公欠に関する申し合わせ

〔 制 定 平成20年 8月22日 〕  
〔 最近改正 平成30年 4月 1日 〕

(定義)

第1条 奈良学園大学(以下「本学」という。)において、公欠は、「公欠届」及び「公欠願」に分けて、次の通り定義する。

(公欠届)

第2条 公欠届の適用は、次の各号に掲げる場合とし、手続きを行った者に対して、当該授業を欠席したものとして扱わないものとする。

- (1) 父母(養父母を含む)、祖父母、実兄弟または実姉妹が死亡したとき
- (2) 学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症に感染したとき
- (3) 交通機関の事故・ストライキ等により登学が不能もしくは遅延したとき
- (4) 災害等により被災したとき
- (5) 実習及び実習に係る事前訪問で、学部長が許可するとき
- (6) 単位互換協定大学等の試験を受けるとき
- (7) 国または都道府県を代表して、諸行事に参加するとき
- (8) その他特別の事由により学長または学部長が許可するとき

(公欠願)

第3条 公欠願の適用は、次の各号に掲げる場合とし、手続きを行った者に対して、原則3回まで、当該授業を欠席したものとして扱わないものとする。

- (1) 本学課外活動において学長が認めた公式試合及び行事等に参加するとき
- (2) 本学が認めるボランティア活動に参加するとき
- (3) 就職試験等を受験するとき(説明会、ガイダンス等は含まない)
- (4) その他特別の事由により学長または学部長が許可するとき

(期間)

第4条 公欠を許可する期間は、次のとおりとする。

- (1) 父母(養父母を含む)が死亡したときは3日以内、祖父母のときは1日以内、実兄弟または実姉妹のときは2日以内
- (2) 第2条第2号のときは、学校保健安全法施行規則第19条に規定された期間
- (3) その他の時は、原則その当日

2 遠隔地のとき、その他特別の事由のあるときは、前項第1号または第3号の日数に必要日数を加えることができる。

(手続き)

第5条 公欠の取扱いを受けようとする者は、所定の用紙に必要事項を記入し、次の各号によってすみやかに提出しなければならない。

- (1) 第2条に該当するときは、事務局教務課、学生支援センターまたはキャリアセンターに提出する。
- (2) 第3条に該当するときは、学生支援センターまたはキャリアセンターに提出する。

(取扱い)

第6条 授業科目担当教員は、公欠届を受けたときは第2条、公欠願提出を受けたときは第3条によ

り取扱う。

- 2 学部長は、受け取る際の条件等を学部毎に付与することができる。
- 3 授業科目担当教員は、学生に補講の実施またはその授業時間を補うための課題等により、学生の指導を行うものとする。
- 4 当該時間に試験があったときは、本学学則及び各学部履修規程による。

(改廃)

第7条 本申し合わせの改廃は、教務委員会または学生委員会の発議により、企画運営会議においてこれを行う。

附 則

この申し合わせは、平成20年8月22日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成30年4月1日から施行する。

## 奈良学園大学定期試験時の不正行為に関する申し合わせ

〔 制定 令和4年4月1日  
最近改定 〕

(目的)

第1条 定期試験時における不正行為の防止を目的とし、奈良学園大学学生懲戒手続規程第1条第2項に定める、定期試験時(定期試験として定められた期間外に行われるもの

を含む。)における不正行為に関する対応、措置及び処分について、必要な事項を申し合わせる。

(定期試験の種類)

第2条 定期試験時における不正行為の形式を次の通りとする。

- (1) 対面形式で行われる試験における不正行為
- (2) 対面形式をとらない試験における不正行為

(不正行為)

第3条 試験中の次の行為は、不正行為とみなす。

- (1) 持込みを許可されていない物品を参照すること。
- (2) 物品の貸借をすること。
- (3) 他人に受験させ、または他人の代わりに受験すること。
- (4) 他人の答案をのぞき見することまたは故意に見せること。
- (5) 答案用紙を交換すること。
- (6) 他の受験者と私語をすること。
- (7) 盗用、剽窃、代筆を行う、又はさせること。
- (8) 試験監督者の指示に従わないこと。

(対面形式で行われる試験における不正行為に対する措置)

第4条 試験監督者は、不正行為があったと判断した場合には、次の各号の措置を行うも

のとする。ただし、疑わしい行為の場合は、即時に不正行為とみなすのではなく、一度警告を与えて改善が見られない場合に、次の各号の措置を行うものとする。

- (1) 当該受験者の受験を直ちに中止し、学生証、答案用紙を回収する。
- (2) 不正行為の証拠物品がある場合は押収する。
- (3) 不正行為の証明を確認後、試験終了時刻まで着座のまま待機するよう伝える。
- (4) 試験終了後、当該受験者を教務課に引率する。
- (5) 当該受験者の所属学部教務委員は、当該受験者及び試験監督者への聞き取り調査を行い、「不正行為調書」を作成し、学部長に報告する。
- (6) 学部長は、教授会の議を経て、不正行為の認定を行う。

(対面形式をとらない試験における不正行為に対する措置)

第5条 科目担当者は、不正行為があったと判断した場合には、試験終了後1週間以内に教務課を通じて、当該受験者の所属学部調査依頼を行うこととする。この時、不正行為が疑われる証拠となる資料を提出する。

2 当該学部の教務委員は、教務課が受理した証拠書類を基に、不正行為に関する聞き取り調査を行い、「不正行為調査書」を作成し、学部長に報告する。聞き取り調査の構成員は次の通りとする。ただし、科目担当者が以下の(ア)及び(イ)に該当する場合は、学部長が指名した他の教員に代えることができる。

(ア) 教務委員1名(別の教務委員1名は陪席することができる)

(イ) 当該学生の所属学科または専修の長

(ウ) 教務課長

3 学部長は、教授会の議を経て、不正行為の認定を行う。

(不正行為に対する処分)

第6条 不正行為と認定された場合は、原則、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目・実技科目についてはこの限りではない。

(処分の通知)

第7条 学部長は、処分決定後すみやかに不正行為を行った学生に対して処分内容を通告知、教育的指導を行うものとする。

(学生の弁明)

第8条 学部長は、当該学生に対し、口頭又は文書による弁明の機会を、前条の通告後1週間以内に与えるものとする。この場合において、当該学生が正当な理由なく口頭による弁明の場に出席しなかった場合又は弁明書を提出しなかった場合には、弁明する権利を放棄したものとみなす。

2 学部長は、当該学生からの弁明が妥当であると判断した場合には、再調査を行うことができるものとする。

(改廃)

第9条 この申し合わせの改廃は、大学評議会においてこれを行う。

## 奈良学園大学入学前既修得単位認定細則

制 定 平成28年 4月 1日  
最近改正

(趣旨)

第1条 この細則は、奈良学園大学学則第21条の規定に基づき、奈良学園大学（以下「本学」という。）に入学した者が、入学前に他の大学、短期大学、高等専門学校の専攻科等（以下「他大学等」という。）において修得した単位（以下「既修得単位」という。）の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(認定の申請)

第2条 第1年次に入学し、既修得単位等の認定を受けようとする者（以下「第1年次入学者」という。）は、入学した年度の指定の期日までに、次の書類を学長に提出するものとする。

- (1) 既修得単位認定申請書（別記様式第1号）
- (2) 単位認定に係る他大学等の成績証明書
- (3) 認定を受けようとする授業科目の講義概要を記載した書類

2 編入学し、既修得単位等の認定を受けようとする者（以下「編入学者」という。）は、入学の日までに、次の書類を学長に提出するものとする。

- (1) 単位認定に係る他大学等の成績証明書
  - (2) 認定を受けようとする授業科目の講義概要を記載した書類
- (認定の基準)

第3条 単位認定は、他大学等で履修した授業科目が、本学の授業科目と科目名又は講義内容に類似性があり、かつ単位数が同等以上で、本学の授業科目として読み替えが可能であるかどうかによって判断するものとする。

2 単位認定にあたっては、必要に応じて、当該授業科目担当教員の意見を求めることができるものとする。

(認定の方法)

第4条 第1年次入学者の単位認定は、既修得単位認定申請書及び関係書類に基づき、学部長が承認し、学長がこれを認める。なお、学部長は教授会の意見を徴することができる。

2 編入学者の単位認定は、教務委員会が原案を作成し、編入学予定の学部長が承認し、学長がこれを認める。なお、学部長は教授会の意見を徴することができる。

(認定の通知)

第5条 学長は、単位認定の結果を、既修得単位認定通知書（別記様式第2号）により申請者に通知するものとする。

(認定科目の成績評価)

第6条 認定された授業科目の成績評価は、学則第26条の規定に関わらず「認定」と表記する。

(事務)

第7条 この細則に関わる事務は、事務局教務課においてこれを行う。

(改廃)

第8条 この細則の改廃は、企画運営会議においてこれを行う。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

## GPA制度に関する細則

制定：令和8年4月1日  
最近改訂：年 月 日

(目的)

第1条 この細則は、奈良学園大学人間教育学部人間教育学科人間教育学専攻履修規程（以下「人間教育学専攻履修規程」という。）第22条、奈良学園大学人間教育学部人間教育学科中等（数学・音楽）専攻履修規程（以下「中等（数学・音楽）専攻履修規程」という。）第22条、奈良学園大学保健医療学部看護学科履修規程（以下「看護学科履修規程」という。）第21条及び奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科履修規程（以下「リハビリテーション学科履修規程」という。）第21条の各規定に基づき、奈良学園大学（以下「本学」という。）におけるグレード・ポイント・アベレージ（以下「GPA」という。）制度に関し必要な事項を定めることにより、客観的かつ公平な成績評価を行うとともにその成果を活用することで、適切な修学指導を行い、もって本学の教育の質保証に資することを目的とする。

(成績評価およびグレード・ポイント)

第2条 学生が履修した授業科目の成績評価における評語及びグレード・ポイント（人間教育学専攻履修規程第17条、中等（数学・音楽）専攻履修規程第17条、看護学科履修規程第16条及びリハビリテーション学科履修規程第16条の各規定に基づき試験等の成績評価により与えられる評語を数値に置き換えたものをいう。以下「GP」という。）は、次表のとおりとする。

評語	GP
秀	4
優	3
良	2
可	1
不可（不合格）	0

(GPAの対象授業科目)

第3条 次条において定めるGPA算出の対象となる授業科目（以下「履修科目」という。）は、履修登録を行い、素点により成績評価が行われたものとし、「不可（不合格）」となったものを含むものとする。ただし、次の各号に掲げる授業科目については、その算出の対象から除くものとする。

- (1) 本学以外の大学で修得した授業科目または入学前に他大学等において修得した授業科目
- (2) GPA算出期日に成績が保留または未確定の科目

(GPAの種類及び算出)

第4条 GPAの種類は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるものとする。

- (1) 学期GPA 当該学期における履修科目を対象としたGPの平均値
  - (2) 年度GPA 当該年度における履修科目を対象としたGPの平均値
  - (3) 累積GPA 在学中の全期間における履修科目を対象としたGPの平均値
- 2 前項各号のGPAを算出する計算式は次の各号に掲げるとおりとし、算出された数値に小数点以下第4位未満の端数がある場合は、これを四捨五入し、小数点以下第3位までを算出する。

(1) 学期GPAの算式  
学期GPA =  $\frac{\text{当該学期における(履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{当該学期における履修科目の総単位数}}$

(2) 年度GPAの算式  
年度GPA =  $\frac{\text{当該年度における(履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{当該年度における履修科目の総単位数}}$

(3) 累積GPAの算式  
累積GPA =  $\frac{\text{在学中の全期間における(履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{在学中の全期間における履修科目の総単位数}}$

3 GPAの算出は、次の各号に掲げる計算期日までに確定した成績に基づき行う。

- (1) 前期 9月15日
- (2) 後期 3月20日

(再登録による履修時のGPAの取扱い)

第5条 単位を修得することができなかつた授業科目を再登録し履修して成績評価を受けた場合のGPは、その成績評価を受けた学期を対象とした学期GPAの算出に含める。この場合において、当該授業科目の過去に得たGPについては、累積GPAの算出に含めるものとする。

(GPAの開示)

第6条 GPAは、学生本人に学期末ごとに開示するものとする。

(成績証明書への記載)

第7条 成績証明書には、累積GPAを記載するものとする。

(GPAの活用)

第8条 本学は、GPAを、次の各号に掲げる事項に活用することができる。

- (1) 成績優秀者の選定及び学生表彰対象者の選考
- (2) 奨学金及び授業料給付等の選考
- (3) 特定の授業科目及び選択課程の受講資格確認
- (4) 留学・交換留学並びに留学奨学金の選考
- (5) 教育活動の分析・改善
- (6) その他、学長が必要と認めた事項

(修学指導)

第9条 本学の人間教育学部人間教育学科及び保健医療学部看護学科並びにリハビリテーション学科は、GPAを含む学業の成績に基づき、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める修学指導を行う。

- (1) 年度GPAが2.000未満の学生指導及び助言を行う。
  - (2) 2学次生以上で累積GPAが1.000未満の学生保証人を交えて面談等を実施するとともに、継続的に指導及び助言を行う。
- 2 学長は、前項各号による指導を経ても改善が見られず、かつ、修得単位数が在学年数に10を乗じた数値未満の学生に対し、各学部の教授会及び教務委員会の議を経て、退学を勧告することができる。

(履修制限緩和に関する特例)

第10条 人間教育学専攻履修規程第8条第4項、中等(数学・音楽)専攻履修規程第8条第4項、看護学科履修規程第7条第3項及びリハビリテーション学科履修規程第7条第3項の各規定に基づく授業科目の履修制限の緩和について、学生が次の各号に掲げる条件を全て満たす場合、当該年度の履修登録可能上限単位数を2単位増加して認めることができる。

- (1) 2年次以上の学生が次の条件を全て満たす場合
  - ア 前年度において40単位以上を修得していること。
  - イ 前年度のGPAの値が3.000以上であること。
- (2) 1年次の学生が次の条件を全て満たす場合
  - ア 前期において20単位以上を修得していること。
  - イ 前期のGPAの値が3.000以上であること。

(制定及び改廃)

第11条 この細則の制定及び改廃は、各学部の教授会及び教務委員会の議を経て、大学評議会がこれを行う。

附 則

この細則は、令和8年4月1日から施行する。

## 学生用履修登録マニュアル

履修登録を行う前に、時間割をもとに履修すべき科目の曜日・時限を確認してください。Active Academyにログインします。

[https://tango.naragakuen-u.jp/aa\\_web/](https://tango.naragakuen-u.jp/aa_web/)



① 左のメニューから授業支援>履修登録 を選びます。




例) リハビリテーション学科「基礎ゼミⅡ」の科目を登録する場合  
(リハビリテーション学科時間割)

2019年度後期 リハビリテーション学科

後期		理学療法専攻			作業療法専攻		
曜	時間	科目	担当	教室	科目	担当	教室
月	1						
	2	12511 基礎ゼミⅡ	山崎 隆夫・大塚 昌彦・藤野 浩行・藤本 剛志・野村 博之	演習室	12511 基礎ゼミⅡ	山崎 隆夫・大塚 昌彦・藤野 浩行・藤本 剛志・野村 博之	演習室
	3	13511 運動学Ⅰ(総論)	③ 浅田 誠野・志村	403	13511 運動学Ⅰ(総論)	③ 浅田 誠野・志村	403
	4	14511 人			14511 人	③ 浅田 誠野・志村	403
	5	15511 人			15511 人	③ 浅田 誠野・志村	403

② 時間割をもとに授業の曜日と時限を確認します。



③ Active Academy の画面で、月曜 2 限の鉛筆マーク  をクリックします。

■ 履修一覧からの選択

対象学生：19

2019年度 後期

④ 履修したい科目にチェックをつけて「登録して戻る」を押します。

※ 履修する場合は、チェックをつけて下さい。 ※ 履修を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

曜日	時間	科目	授業名	期間	担当教員	出席	単位	定数	入試	その他
月曜	2時	<input type="checkbox"/>	22511	基礎化学I	後期	山崎の全	必修	1	-	0

※ 履修する場合は、チェックをつけて下さい。 ※ 履修を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

登録して戻る 履修して戻る



■ 履修一覧(時間) 履修一覧

対象学生：19

2019年度 後期

⑤ 時間割表示に科目が入力されます。取り消す時はチェックを外します。

曜日	時間	科目	授業名	期間	担当教員	出席	単位	定数	入試	その他
月曜	2時	<input type="checkbox"/>	22511	基礎化学I	後期	山崎の全	必修	1	-	0




⑥ 他の科目についても、自分の履修計画をもとに入力していきます。  
※必修科目は必ず登録してください。

曜日	時間	科目	授業名	期間	担当教員	出席	単位	定数	入試	その他
1時		<input type="checkbox"/>	21111	基礎化学I	後期	山崎の全	必修	1	-	0
2時		<input type="checkbox"/>	22511	基礎化学I	後期	山崎の全	必修	1	-	0
3時		<input type="checkbox"/>	21111	基礎化学I	後期	山崎の全	必修	1	-	0
4時		<input type="checkbox"/>	21111	基礎化学I	後期	山崎の全	必修	1	-	0

※複数の曜日、時限にわたる科目は、時間割コードの入った曜日・時限で登録してください。  
登録画面上には授業コードが入った科目のところ1ヶ所しか表示されませんので、注意してください。

集中科目及び実習科目の登録について

履修登録画面の下部「集中など」にある鉛筆マークをクリックし、チェックしてください。

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
1限	<input type="checkbox"/> 21511 匿名学概論 藤田政彦 必修 1	<input type="checkbox"/> 21512 経済スゴーズ(実務) 岡部修一 選択 1	<input checked="" type="checkbox"/> 41511 人体構造学Ⅱ(内臓・生殖系) 平野文男 必修 1	<input type="checkbox"/> 51211 歴史学 選択 2		
2限	<input checked="" type="checkbox"/> 12511 基礎ゼミⅢ 山形力生 必修 1	<input type="checkbox"/> 22511 チーム医療演習 辻下守弘 必修 1	<input type="checkbox"/> 42511 臨床看護 河合和崇 必修 2			
3限	<input type="checkbox"/> 15511 人体構造学Ⅲ(神経・運動器) 飯沼照史 必修 1		<input type="checkbox"/> 45511 臨床実習 西山隆 必修 1			
6限						

⑦ 履修したい集中講義の科目を選び、「登録して戻る」をクリックすると、この画面に戻ります。  
下部の欄に 集中講義の科目が表示されていることを確認します

集中など	選択	授業	授業名	担当教員	必修	単位	エラー
<input checked="" type="checkbox"/>	70311		マテリアルデザインⅡ	西山敦子	選択	1	
<input checked="" type="checkbox"/>	70312		行動の科挙	吉岡隆之	選択	2	



履修登録(職員) 履修登録確認

対象学生: 2020年度前期 看護学 看護学専攻

履修登録の登録内容を確認して下さい。

よろしければ「登録確定」のボタンを押して下さい。登録された授業単元にのみ表示されます。  
変更する場合は「登録変更」のボタンを押して下さい。登録済みの授業単元のみ表示されます。  
今回の登録内容を中止する場合は「登録中止」のボタンを押して下さい。その日限りです。

登録確定 登録変更 登録中止

⑧ 履修すべき科目が表示されていることを確認して、「表示内容で登録」をクリックし、履修登録の内容を確認してください。内容が正しければ「登録確定」、変更する場合は「登録変更」、登録を中止する場合は「登録中止」をそれぞれクリックしてください。

登録確定 登録変更 登録中止

※「登録確定」で履修が確定します。



履修登録印刷

STEP-4 履修登録印刷

履修登録が完了しました。

履修登録の確認のために当画面の「確認表を印刷」ボタンを押して、PDF出力を行ってください。  
終了ボタンを押して下さい、終了画面へ進みます。

期次	科目	期数	授業	授業名	担当教員	必須	単位				
前期	月曜	1期	11015	社会学	○◎ 春一		0				
前期	月曜	2期	20315	情報数学基礎	○◎ 成統	選択	2	特選			
前期	火曜	2期	02006	プログラミング	○◎ 徳美	選択	2				
前期	水曜	1期	01016	創造工学入門(PM社)	○◎ 光沢	必修	1				
前期	水曜	2期	20305	線分幾何/演習	○◎ 厚代	必修	3				
前期	木曜	1期	13011	中国語1	○◎ 夕志	選択	2				
前期	木曜	2期	13012	中国語2	○◎ 夕志	選択	2				

履修登録の確認のため  
終了ボタンを押して



履修登録完了

STEP-1 履修登録画面 STEP-2 履修登録確認 STEP-3 履修登録印刷 STEP-4 履修登録完了

履修登録が完了しました。  
おつかれさまでした。

TOP画面へ戻る場合はこちらへ → [トップページ](#)

ログアウトする場合はこちらへ → [ログアウト](#)

# 人 間 教 育 学 部

令和8(2026)年度 入学生

## 人間教育学部 教育のポリシー

### (1)学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟している
2. 教職に対する使命感をもち、児童生徒に教育的な愛を持って接することができる
3. 学校現場の様々な教育課題に適切に対応し、チームとして行動することができる
4. 子どもの発達に応じて授業を構想し指導を工夫する教育の専門家である
5. 自己の学習を振り返り、理論と実践を結びつけた研修を継続的にできる
6. 保護者や地域の人等、学校外の人等と広く連携する力を身につけている
7. 日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につけている

### (2)教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

1. 広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟した人を育てる教育
2. 教育に対する使命感と情熱をもち、子どもと教育的な関係を築く力をつける教育
3. 教育の専門家として各教科の内容及び指導法を実践的に深める教育
4. 個々の子どもを理解し一人一人を生かすとともに集団を指導する力を身につける教育
5. 自己教育力をもち、セルフマネジメント能力と生涯学習能力を身につける教育
6. 学校内外の人々と連携しチームとして活動できる力を身につける教育
7. 日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につける教育

### (3)入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 教職への意欲や関心があり、教育を通して社会の未来に貢献する意欲のある人
2. 教育の専門家としての確かな力量を獲得するため積極的に学び続ける意欲のある人
3. 豊かな人間性や社会性、常識と教養をはじめ協調性や創造性を深める意欲がある人

# 人間教育学部の講義を受けるにあたって

人間教育学部は学校園の教員を養成することを第一の目的としています。そのうえもっと学修を望む人は、専修以外の免許も取得できます。

3年生と4年生で学校園に教育実習に行きます。そのためには、1年生と2年生で、教育実習に行くための必要な科目を学習していなければいけません。高校生から大学生になった解放感から、大学の1年や2年はのんびりと好きなことをして3年生から頑張れば間に合うと考えている人は、卒業ができなくなります。なぜなら、人間教育学部は所属する専修校種の免許を取得しないと卒業ができないからです。1と2年の履修状況が、4年後の大学を卒業できるかどうかまでもを左右するといっても過言ではありません。

授業に出席さえしていれば、単位はもらえるという考えも間違っています。人間教育学部では、授業中での発言や質問等の参加度を大切に授業をします。

また授業中に一方的に教えてもらうだけでなく、自分で予習、復習をすることも大切になります。そこで、講義や演習を実効性のあるものとするため、以下の講義ルールを定めます。

## (1) 授業を受けるにあたり

- ① 授業開始の時点では、学生は移動を終わり、着席しててください。
- ② 座席は、少人数の講義を除いて指定制です。科目担当教員が学生一人ひとりの名前を早く覚え、講義を双方向のものとするためです。
- ③ 授業においては毎回出席をとります。確認方法は、各担当者によります。
- ④ 携帯電話は、授業中はマナーモードにして、かばんの中に入れてください。
- ⑤ 教室の中は飲食禁止です。
- ⑥ 机の上には授業に必要なものを置かない。

## (2) 授業について

- ① 第1回目の授業で科目ごとにSA(スチューデントアシスタント)を2名決めます。

### SAの役割

・授業の開始に「規律」「例」「お願いします」、終わりに「規律」「例」「ありがとうございました」の挨拶を相互に行う際の号令をかけます。

・教員の指示で授業中に使用する教具の準備や、資料の配付を行います。

・講義が終わった後の教室のかたづけや点検をします。

・学生による授業アンケートの実施を行います。

- ② 20分以上の遅刻は欠席扱いとします。ただし、15分以内の遅刻は、正当な理由がある場合は出席扱いとします。(正当な理由には証明が必要です)
- ③ 早退は、事前に早退届を教務課からもらって、担当教員に提出してください。早退届がない場合は、緊急を要する場合以外は認めません。
- ④ 遅刻・早退は3回で欠席1回となります。
- ⑤ 前期・後期それぞれで当該科目の開講予定回数のうち3分の2の出席を下回ると、当該科目の単位習得ができません。なお、15回開講予定の場合、9回出席に加え1回以上の遅刻・早退も3分の2の出席を下回るものとみなします。
- ⑥ 各科目で成績不良の場合は、指名制の補習を行う場合があります。

## 人間教育学部 学生の公欠についての取り扱い

令和7(2025)年度後期より

大学の講義は、教員が各専門分野について計画を立て、連続的、発展的に授業を行うもので、全ての講義に出席すべきものです。

ただ、特別な理由があると認める場合には「公欠」、つまり「出席としては取り扱わないが正当な理由による授業欠席」として、通常の欠席とは別に、出席でも欠席でもないものとして扱います。

以下、公欠について説明します。

※具体的な手続きについては p.8 以降の「公欠等について」を参照してください。

## 1. 「公欠届」と「公欠願」の区別

## 〈公欠届〉

忌引きのほか、交通機関の遅延、また感染症や気象警報発表の場合等、無理に登校すると安全が確保できない場合などは、定められた手続きをすることで「公欠」となります。

また、実習などの場合も、授業・勉学の一環としての活動ですので、「公欠」が適用されます。

必ず「公欠届」を事前に提出してください。

(やむを得ず事後の提出になるときは、前もって担当教員にメール等で連絡をすること)

なお、実習にかかる公欠については、実習期間のみ公欠を認めるものとし、事前指導(打ち合わせ等)や事後指導(実習記録を取りに行く等)に関する公欠届は認められません。

(p.19「奈良学園大学公欠に関する申し合わせ」第2条)

## 〈公欠願〉

課外活動の公式試合に参加するなどの理由で欠席する場合は、その理由を前もって届け出た上で、担当教員より適宜補充指導を受けることで、「公欠」とすることができま

す。これは、欠席分の学習の補充が必要となるためです。補充指導の内容については各教員の指示に従ってください。(「公欠届」と同様、事後の届け出となる場合は、担当教員にメール等で連絡すること)

なお、「公欠願」は1科目につき原則3回まで認めるとしており、あくまでもやむを得ない場合に提出するものですので、注意してください。(p.19「奈良学園大学公欠に関する申し合わせ」第3条)

## 2. 授業回数の3分の1を超える公欠について

大学の授業は、授業回数の3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象とならない(単位修得ができない)ことになっています(p.7「出席・欠席について」)。

「公欠」は、上述の通り「正当な理由による授業欠席」であり、出席扱いとはなりません。

そこで、「公欠」が授業回数の3分の1を超えた場合、その回数分については担当教員が補充指導を行うことで出席と扱い、学生に単位修得の機会を与えることになっています。該当する場合は担当教員に申し出て、その指示に従って補充指導を受けてください。

(この場合、あくまでも「出席」扱いとするのは3分の1を超えた回数分のみです)

## 3. その他

学生として、自ら学力をつけるために、欠席分の学習内容については積極的に指導教員に質問し適宜指導を受ける、また周囲の学生にも聞くなどして、補うようにしてください。

【卒業所要単位一覧】

■人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻 1～4年次生対象

[平成31年度以降(2019年度以降)入学生以降]

共通教育科目		専 門 科 目 (注 4)				関連科目	合計
必修・選択	小計	基礎科目 必修・選択	発展科目 必修・選択	演習実習科目 必修・選択	小計	選 択	
26	26	32(注 1)	47(注 2)	19	98	(注 3)	124
		(注1)		(注2)			
		(注3)					
(注4)							
(注 1) 専門科目の基礎科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の発展科目の単位数として認められる。 (注 2) 専門科目の発展科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の演習実習科目の単位数として認められる。 (注 3) 関連科目において、修得した単位数は専門科目の単位として認められる。 (注 4) 専門科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数の8単位を限度として、共通教育科目の単位として認められる。 (注 5) 他専攻において、修得した単位数については8単位を上限として、専門科目の発展科目の単位として認められる。							

■人間教育学部 人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻 1～4年次生対象

[平成31年度以降(2019以降)入学生以降]

共通教育科目		専 門 科 目 (注 4)				関連科目	合計
必修・選択	小計	基礎科目 必修・選択	発展科目 必修・選択	演習実習科目 必修・選択	小計	選 択	
26	26	32(注 1)	47(注 2)	19	98	(注 3)	124
		(注1)		(注2)			
		(注3)					
(注4)							
(注 1) 専門科目の基礎科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の発展科目の単位数として認められる。 (注 2) 専門科目の発展科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の演習実習科目の単位数として認められる。 (注 3) 関連科目において、修得した単位数は専門科目の単位として認められる。 (注 4) 専門科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数の8単位を限度として、共通教育科目の単位として認められる。 (注 5) 他専攻において、修得した単位数については8単位を上限として、専門科目の発展科目の単位として認められる。							

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻 履修規程  
—令和8年度入学生対象—

〔 制 定 平成26年 4月 1日  
最近改正 令和 8年 4月 1日 〕

(総則)

第1条 奈良学園大学学則(以下「学則」という。)第13条第3項及び学則第26条第2項の規定に基づき、人間教育学部人間教育学科人間教育専攻(以下「本専攻」という。)における授業科目、履修、修得単位及び卒業要件等に関する事項について定める。

(卒業資格)

第2条 本専攻を卒業するためには、4年以上在学し、次条以下の規定に従い、124単位以上を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第3条 授業科目は、これを共通教育科目、専門科目及び関連科目に区分する。

- 2 共通教育科目は、これを基礎教養科目、共生教養科目、奈良・国際科目、情報教養科目及び、キャリア形成科目に区分する。
- 3 専門科目は、これを基礎科目、発展科目及び演習実習科目に区分する。
- 4 基礎科目は、これを教育学の基礎に関する理解及び人間教育学の基礎に関する理解に区分する。
- 5 発展科目は、これを現代教育・教育経営に関する理解、教育実践の理解及び教職キャリア形成に区分する。
- 6 演習実習科目は、これを教育実践演習、ゼミナールに区分する。
- 7 関連科目は、これを学校図書館司書教諭免許取得に区分する。

(授業科目の履修)

第4条 本専攻授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

- |            |        |
|------------|--------|
| (1) 共通教育科目 | 26単位以上 |
| (2) 専門科目   | 98単位以上 |
| うち基礎科目     | 32単位以上 |
| うち発展科目     | 47単位以上 |
| うち演習実習科目   | 19単位以上 |
- 2 前項の規定にかかわらず、以下の各号を適用することができる。
    - (1) 専門科目の基礎科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の発展科目の単位数として認められる。
    - (2) 専門科目の発展科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の演習実習科目の単位数として認められる。
    - (3) 関連科目において、修得した単位数は専門科目の単位数として認められる。
    - (4) 専門科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数の8単位を限度として、共通教育科目の単位数として認められる。
  - 3 前項の規定にかかわらず、本専攻以外において開講されている授業科目のうち、本専攻が指定した科目については8単位を上限として卒業要件単位として認めることができる。また、当該授業科目は、専門科目の発展科目の単位数として認められる。
  - 4 授業科目の配当年次等必要事項を表1及び表3から表13、表18、表19に定める。本専攻の学生の履修は、表1に基づくものとする。また、教諭免許を取得する場合の履修は、表3から表13、表18、表19に基づくこととする。

(教育職員免許状の授与を得るための資格)

第5条 教育職員免許状の授与を得るためには、次の各号に従い、教育職員免許法及び同法施行規則を満たすため、本専攻が定める所定の単位を修得しなければならない。

(1) 幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(国語)、高等学校教諭一種免許状(国語)又は特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)、(以下「免許状」という。)の授与を得るための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教科及び教科の指導法に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

(2) 免許状の授与を得るための「教育の基礎的理解に関する科目等」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

(3) 免許状の授与を得るための「大学が独自に設定する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

(4) 免許状の授与を得るための「特別支援教育に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

(5) 免許状の授与を得るための「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

2 教育実習を受講するには、次の各号いずれにも該当しなければならない。

(1) 卒業に必要な単位のうち、76単位以上を修得していること。

(2) 人間教育学部長及び教職・保育課程委員長が適当と認めた学生であること。

(単位)

第6条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とする。

2 各授業科目については、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、学則第17条の規定により単位数を計算する。

(配当年次)

第7条 各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

(授業科目の履修制限)

第8条 授業科目については、原則として、年間48単位を超えて履修することができない。ただし、学部長が認めた場合は、この限りではない。

2 前項の履修単位数の制限は、1年を2学期に分けて履修する場合において、1学期で30単位を超えて履修することができないものとする。ただし、学部長が認めた場合は、この限りではない。

3 第1項の規定に関わらず、優秀な成績を修めた者は、年間48単位を超えて履修することができる。

4 前項に関し、必要な事項は別に定める。

(履修登録)

第9条 履修登録は、各学期始めに年2回行わなければならない。

(履修登録の制限)

第10条 授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

2 同時限に開講される授業科目は、1科目しか登録することができない。

(再登録)

第11条 単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

2 単位を修得することができなかった授業科目は、第8条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

## (履修登録の変更)

第12条 履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

2 学部長が教授会に諮り、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

## (授業科目の開講)

第13条 授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

## (授業の組分け)

第14条 履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

## (単位の認定)

第15条 担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という。）により学修の成果を評価して単位を与える。

2 各授業への出席が授業時間の3分の2に満たない場合は再履修とする。

3 第1項に定めるほか、教育上有益と認めるときは、学部長は、教授会に諮り当該授業科目の単位を与えることができる。

## (単位認定を受ける資格)

第16条 次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

(1) 授業料その他諸納入金が未納であるとき

(2) 履修登録をしていないとき

## (試験等の成績評価)

第17条 試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

(1) 100点から90点まで 秀

(2) 89点から80点まで 優

(3) 79点から70点まで 良

(4) 69点から60点まで 可

(5) 59点以下 不可（不合格）

## (受験上の注意)

第18条 学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

## (再試験等)

第19条 試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。

2 再試験等の実施については、別に定める。

3 再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

## (追試験等)

第20条 病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。

2 追試験等の実施については、別に定める。

3 追試験等の結果の成績評価は、一割減とする。

## (改廃)

第21条 この規程の改廃は、人間教育学部教授会においてこれを行う。

## (その他の規定)

第22条 この規程に定めるもののほか、本専攻における授業科目、履修、修得単位及び卒業要件等に関する必要な事項は、人間教育学部教授会及び教務委員会の議を経て、大学評議会において別に定める。

## 附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和8年4月1日から施行する。

## 奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻 履修規程

—令和8年度入学生対象—

制	定	平成26年4月1日
最近改正		令和8年4月1日

(総則)

第1条 奈良学園大学学則(以下「学則」という。)第13条第3項及び学則第26条第2項の規定に基づき、人間教育学部人間教育学科人間教育専攻(以下「本専攻」という。)における授業科目、履修、修得単位及び卒業要件等に関する事項について定める。

(卒業資格)

第2条 本専攻を卒業するためには、4年以上在学し、次条以下の規定に従い、124単位以上を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第3条 授業科目は、これを共通教育科目、専門科目及び関連科目に区分する。

- 2 共通教育科目は、これを基礎教養科目、共生教養科目、奈良・国際科目、情報教養科目及び、キャリア形成科目に区分する。
- 3 専門科目は、これを基礎科目、発展科目及び演習実習科目に区分する。
- 4 基礎科目は、これを教育学の基礎に関する理解及び人間教育学の基礎に関する理解に区分する。
- 5 発展科目は、これを現代教育・教育経営に関する理解、教育実践の理解及び教職キャリア形成に区分する。
- 6 演習実習科目は、これを教育実践演習、ゼミナールに区分する。
- 7 関連科目は、これを学校図書館司書教諭免許取得に区分する。

(授業科目の履修)

第4条 本専攻授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

- |            |        |
|------------|--------|
| (1) 共通教育科目 | 26単位以上 |
| (2) 専門科目   | 98単位以上 |
| うち基礎科目     | 32単位以上 |
| うち発展科目     | 47単位以上 |
| うち演習実習科目   | 19単位以上 |
- 2 前項の規定にかかわらず、以下の各号を適用することができる。
    - (1) 専門科目の基礎科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の発展科目の単位数として認められる。
    - (2) 専門科目の発展科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の演習実習科目の単位数として認められる。
    - (3) 関連科目において、修得した単位数は専門科目の単位数として認められる。
    - (4) 専門科目において、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合、その超えた単位数の8単位を限度として、共通教育科目の単位数として認められる。
  - 3 前項の規定にかかわらず、本専攻以外において開講されている授業科目のうち、本専攻が指定した科目については8単位を上限として卒業要件単位として認めることができる。また、当該授業科目は、専門科目の発展科目の単位数として認められる。
  - 4 授業科目の配当年次等必要事項を表2及び表14から表18に定める。本専攻の学生の履修は、表2に基づくものとする。また、教諭免許を取得する場合の履修は、表14から表18に基づくこととする。

(教育職員免許状の授与を得るための資格)

第5条 教育職員免許状の授与を得るためには、次の各号に従い、教育職員免許法及び同法施行規則を満たすため、本専攻が定める所定の単位を修得しなければならない。

- (1) 中学校教諭一種免許状(数学)又は高等学校教諭一種免許状(数学)、中学校教諭一種免許状(音楽)又は高等学校教諭一種免許状(音楽)、(以下「免許状」という。)の授与を得るための「教科及び教科の指導法に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。
  - (2) 免許状の授与を得るための「教育の基礎的理解に関する科目等」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。
  - (3) 免許状の授与を得るための「大学が独自に設定する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。
  - (4) 免許状の授与を得るための「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。
- 2 教育実習を受講するには、次の各号いずれにも該当しなければならない。
- (1) 卒業に必要な単位のうち、76単位以上を修得していること。
  - (2) 人間教育学部長及び教職・保育課程委員長が適当と認めた学生であること。
- (単位)
- 第6条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とする。
- 2 各授業科目については、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、学則第17条の規定により単位数を計算する。
- (配当年次)
- 第7条 各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。
- (授業科目の履修制限)
- 第8条 授業科目については、原則として、年間48単位を超えて履修することができない。ただし、学部長が認めた場合は、この限りではない。
- 2 前項の履修単位数の制限は、1年を2学期に分けて履修する場合において、1学期で30単位を超えて履修することができないものとする。ただし、学部長が認めた場合は、この限りではない。
  - 3 第1項の規定に関わらず、優秀な成績を修めた者は、年間48単位を超えて履修することができる。
  - 4 前項に関し、必要な事項は別に定める。
- (履修登録)
- 第9条 履修登録は、各学期始めに年2回行わなければならない。
- (履修登録の制限)
- 第10条 授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。
- 2 同時限に開講される授業科目は、1科目しか登録することができない。
- (再登録)
- 第11条 単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。
- 2 単位を修得することができなかった授業科目は、第8条に定める履修制限内において再登録をすることができる。
- (履修登録の変更)
- 第12条 履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。
- 2 学部長が教授会に諮り、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。
- (授業科目の開講)
- 第13条 授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。
- (授業の組分け)
- 第14条 履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

(単位の認定)

第15条 担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という。）により学修の成果を評価して単位を与える。

2 各授業への出席が授業時間の3分の2に満たない場合は再履修とする。

3 第1項に定めるほか、教育上有益と認めるときは、学部長は、教授会に諮り当該授業科目の単位を与えることができる。

(単位認定を受ける資格)

第16条 次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

(1) 授業料その他諸納入金が未納であるとき

(2) 履修登録をしていないとき

(試験等の成績評価)

第17条 試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

(1) 100点から90点まで 秀

(2) 89点から80点まで 優

(3) 79点から70点まで 良

(4) 69点から60点まで 可

(5) 59点以下 不可（不合格）

(受験上の注意)

第18条 学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

(再試験等)

第19条 試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。

2 再試験等の実施については、別に定める。

3 再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

(追試験等)

第20条 病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。

2 追試験等の実施については、別に定める。

3 追試験等の結果の成績評価は、一割減とする。

(改廃)

第21条 この規程の改廃は、人間教育学部教授会においてこれを行う。

(その他の規定)

第22条 この規程に定めるもののほか、本専攻における授業科目、履修、修得単位及び卒業要件等に関する必要な事項は、人間教育学部教授会及び教務委員会の議を経て、大学評議会において別に定める。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和8年4月1日から施行する。

【表1】

人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目							
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	幼 稚園	小 学 校	中 国 語	高 国 語	特 別 支 援			
共通 教育 科目	英語 I	1・2・3・4前		1			○									
	英語 II	1・2・3・4後		1			○									
	英会話 I	1・2・3・4前	1				○		●	●	●	●				
	英会話 II	1・2・3・4後	1				○		●	●	●	●				
	中国語基礎	1・2・3・4前		1			○									
	中国語会話	1・2・3・4前後		1			○									
	スペイン語基礎	1・2・3・4前		1			○									
	スペイン語会話	1・2・3・4前後		1			○									
	日本語 I	1・2・3・4前		1			○									
	日本語 II	1・2・3・4後		1			○									
	日本語表現 I	1・2・3・4前		1				○								
	日本語表現 II	1・2・3・4後		1				○								
	日本語表現 III	1・2・3・4前		1				○								
	日本語表現 IV	1・2・3・4後		1				○								
	文学	1・2・3・4前後		2			○					●	●			
	哲学	1・2・3・4前後		2			○									
	倫理学	1・2・3・4前後		2			○									
	心理学	1・2・3・4前後		2			○									
	文化人類学	1・2・3・4前後		2			○									
	音楽の世界	1・2・3・4前後		2			○									
	社会学	1・2・3・4前後		2			○									
	日本国憲法	1・2・3・4後		2			○			●	●	●	●			
	歴史学	1・2・3・4前後		2			○									
	地理学	1・2・3・4前後		2			○									
	数学の世界	1・2・3・4前後		2			○									
	自然科学の基礎	1・2・3・4前後		2			○									
	環境化学の基礎	1・2・3・4前後		2			○									
	健康スポーツ(理論)	1・2・3・4前		1			○			●	●	●	●			
	健康スポーツ(実技)	1・2・3・4後		1					○	●	●	●	●			
	パラスポーツ指導論	1・2・3・4前後		1				○								
	スポーツ実技 I	1・2・3・4前		1					○							
	スポーツ実技 II	1・2・3・4後		1					○							
	共生 教養 科目	共生と社会	1・2・3・4前後		2			○								
		人権論	1・2・3・4前後		2			○								
		ボランティア活動	1・2・3・4前後		2			○								
		生活と環境	1・2・3・4前後		2			○								
		暮らしと地域社会 地域と安全	1後 2後		2 1			○ ○								
	国際 科目 奈良・ 国際 科目	奈良学	1・2・3・4前後		2			○								
		けいはんな学研都市学	1・2・3・4前		1			○								
		異文化コミュニケーション	1・2・3・4前後		2			○								
		国際事情	1・2・3・4前後		2			○								
	情報 教養 科目	情報機器の操作	1・2・3・4前		2			○			●	●	●	●		
		情報倫理とセキュリティ	1・2・3・4前後		2			○								
		データの世界	1・2・3・4前後		2			○								
		CGの基礎と演習 情報と分析	1・2・3・4前後 1・2・3・4前後		2 2			○ ○								
キャ リア 科目 形成	キャリアデザイン	2前		1				○								
	キャリアディベロップメント	2後		1				○								
	キャリアスキルアップ I	3前		1				○								
	キャリアスキルアップ II	3後		1				○								
	インターンシップ	3後		2					○							
共通教育科目小計 (52科目)				8	71	0		-								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	幼稚園	小学校	中国語	高国語	特別支援
専門科目 基礎科目	発達・教育心理学	2前		2		○			●	●	●	●	
	保育の心理学	2後		2		○							
	子どもの理解と援助	3後		1			○						
	子ども家庭支援の心理学	3後		2		○							
	教育行政学	2前		2		○			◎	◎	◎	◎	
	教育社会学	2後		2		○			◎	◎	◎	◎	
	教職入門	1前		2		○			●	●	●	●	
	社会福祉	1前		2		○							
	幼児理解	1前		2		○			●				
	保育者論	1後		2		○							
	教育原理	1後		2		○			●	●	●	●	
	保育原理	2前		2		○							
	幼児教育課程総論	1後		2		○			●				
	保育の計画と評価	2後		2		○							
	保育内容総論	1前		2			○		●				
	子どもと健康	1後		2			○	○	●	●	●	●	
	子どもと人間関係	1後		2			○	○	●	●	●	●	
	子どもと環境	1前		2			○	○	●	●	●	●	
	子どもと言葉	1前		2			○	○	●	●	●	●	
	子どもと表現 (体育)	1前		2			○	○	●	●	●	●	
	子どもと表現 (図工)	1後		2			○	○	●	●	●	●	
	子どもと表現 (音楽)	1後		2			○	○	●	●	●	●	
	言葉の理解	1後		2		○				●			
	社会の理解	1後		2		○				●	●	●	
	数の理解	1後		2		○				●	●	●	
	自然の理解	1前		2		○				●	●	●	
	生活の理解	1後		2		○				●	●	●	
	音楽の理解	1前		2		○				●	●	●	
	美術の理解	1前		2		○				●	●	●	
	衣食住の理解	1前		2		○				○			
	運動・健康の理解	1後		2		○				●			
	外国語の理解	1前		2		○				●			
	書写演習(小)	2後		2				○		○			
	器楽演習 I (鍵盤楽器)	1前		2				○	○	○			
	器楽演習 II (鍵盤楽器)	2後		2				○	○	○			
	食の心理	2後		2		○							
	国語学入門	1前		2		○					●	●	
	国語学 I	1後		2		○					●	●	
	国文学入門	1前		2		○					●	●	
	国文学 I	1後		2		○					●	●	
	漢文学入門	1前		2		○					●	●	
	漢文学 I	1後		2		○					●	●	
	書写・書道入門	1後		2		○					●		
	書写・書道 I	2前		2		○					○		
小計 (44科目)			0	87	0								
人間教育 学基礎に 関する 科目	人間教育学	1前	2			○							
	ことばとコミュニケーション	1後		2		○					●	●	
	教育と日本の伝統文化	2後		2		○							
	英米文学	2後		2		○							
	言語学概論	4前		2		○							
	社会言語学	3後		2		○							
	日本事情	3前		2		○							
小計 (7科目)			—	2	12	0							
基礎科目小計 (51科目)			2	99	0								

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目						
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	幼 稚園	小 学 校	中 国 語	高 国 語	特 別 支 援		
専 門 科 目	現 代 教 育 ・ 教 育 経 営 に 関 す る 理 解	現代教育課題A(不登校・いじめ)		2		○									
		現代教育課題B(特別支援)	3前	2		○									
		現代教育課題C(学校と安全)	3前	2		○									
		現代教育課題D(学校における異文化理解)	3後	2		○									
		幼児教育相談支援	3前	2			○		●						
		子ども家庭支援論	3前	2			○								
		子育て支援	3前	1				○							
		子ども家庭福祉	3前	2			○								
		社会的養護 I	2前	2			○								
		教育相談の理論と方法	3後	2			○				●	●	●		
	小計(10科目)			0	19	0	-			-					
	発 展 科 目	教 育 実 践 の 理 解	社会的養護 II	2後	1			○							
			乳児保育 I	2前	2		○								
			乳児保育 II	2後	1			○							
			障害児保育	3前	2			○							
			子どもの保健	3前	2			○							
			子どもの健康と安全	3後	1				○						
			子どもの食と栄養	2後	2				○						
			特別支援	1後	2			○			●	●	●	●	
			教育課程論	3前	2			○				●	●	●	●
			道徳教育の指導法	3前	2			○				●	●	○	
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3後	2			○				●	●	●	●
			教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	1後	2			○			●	●	●	●	
			I C T教材研究	2後	2				○						
			生徒指導・進路指導論	2後	2			○				●	●	●	
			子どもと健康の指導法	2前	2			○			●				
			子どもと人間関係の指導法	2後	2			○			●				
			子どもと環境の指導法	3前	2			○			●				
			子どもと言葉の指導法	3前	2			○			●				
			子どもと表現の指導法	3後	2			○			●				
			国語科指導法	3前	2			○				●			
			社会科指導法	2前	2			○				●			
			算数科指導法	2前	2			○				●			
			理科指導法	3前	2			○				●			
生活科指導法			2後	2			○				●				
音楽科指導法	2後	2			○				●						
器楽・歌唱の指導法	3後	2				○									
図工科指導法	2後	2			○				●						
家庭科指導法	2前	2			○				●						
体育科指導法	3前	2			○				●						
体育実技の指導法	3後	2				○									
外国語科指導法	2後	2				○			●						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	幼稚園	小学校	中国語	高国語	特別支援	
専門科目	教育実践の理解	国語学Ⅱ		2		○					●	●		
		国語学特論	4前	2		○					○	○		
		語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)	2後	2			○				●	●		
		国文学Ⅱ	2前	2		○					●	●		
		国文学特論	3前	2		○					○	○		
		語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)	2後	2			○				●	●		
		漢文学Ⅱ	2前	2		○					●	●		
		漢文学特論	3前	2		○					○	○		
		語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)	2後	2				○			●	●		
		書写・書道Ⅱ	3前	2				○			○			
		国語科教育法Ⅰ	1後	2			○				●	●		
		国語科教育法Ⅱ	2前	2			○				●	●		
		国語科教育法Ⅲ	2後	2			○				●	○		
		国語科教育法Ⅳ	4前	2			○				●	○		
		特別支援教育総論	1前	2			○						●	
		知的障害者の心理	2前	2			○						●	
		知的障害者の生理・病理	2前	2			○						●	
		肢体不自由者の心理・生理・病理	2前	2			○						●	
		病弱者の心理・生理・病理	2後	2			○						●	
		知的障害者教育課程論と指導論	2後	2			○						●	
		肢体不自由者教育課程論と指導論	2後	2			○						●	
		病弱者教育課程論と指導論	3前	2			○						●	
		障害の検査と評価	3前	2			○						●	
		重度・重複障害者教育課程論と指導論	3後	2			○						●	
		視覚障害者教育総論	3前	2			○						●	
		聴覚障害者教育総論	3後	2			○						●	
		発達障害者教育総論	3後	2			○						●	
		発達障害者の心理	2後	2			○						○	
	小計(59科目)	—	0	117	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	専門科目	教育実践の理解	教職表現力演習	1通年	2			○						
			保育表現力演習	2通年	2			○						
			国語表現力演習	2通年	2			○						
			人間教育実践力開発演習Ⅰ	1通年	2			○						
人間教育実践力開発演習Ⅱ			2通年	2			○							
人間教育実践力開発演習Ⅲ			3通年	2			○							
人間教育実践力開発演習Ⅳ			4通年	2			○							
小計(7科目)		—	0	14	0	—	—	—	—	—	—	—		
発展科目小計(76科目)	—	0	150	0	—	—	—	—	—	—	—			
専門科目	教育実践演習	保育所実習Ⅰ	3前	2				○						
		保育所実習指導Ⅰ	3前	1				○						
		施設実習Ⅰ	2後	2					○					
		施設実習指導Ⅰ	2後	1					○					
		保育所実習Ⅱ	3後	2					○					
		保育所実習指導Ⅱ	3後	1					○					
		施設実習Ⅱ	4後	2					○					
		施設実習指導Ⅱ	4後	1					○					
		教育実習事前事後指導(幼・小)	3通年	1					○		●	●		
		教育実習Ⅰ(幼・小)	3前	2					○		●	●		
		教育実習Ⅱ(幼・小)	3前	2					○		●	●		
		教育実習事前事後指導(中・高)	3通年	1					○		●	●		
		教育実習Ⅰ(中・高)	3前	2					○		●	●		
		教育実習Ⅱ(中)	3前	2					○		●	○		
		特別支援教育実習(事前事後指導1単位含む)	4通年	3					○				●	
		保育実践演習	4後	2					○		●	●		
		教職実践演習	4後	2					○		●	●		
小計(17科目)	—	0	29	0	—	—	—	—	—	—	—			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	幼 稚園	小 学 校	中 国 語	高 国 語	特 別 支 援	
専 門 科 目	ゼ ミ ナ ー ル	基礎ゼミナールⅠ	1通年	2				○						
		基礎ゼミナールⅡ	2通年	2				○						
		人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)	3通年	4				○						
		人間教育学ゼミナールⅡ(応用)	4通年	4				○						
		卒業研究	4後		4			○						
	小計(5科目)	—	12	4	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	演習実習科目小計(22科目)	—	12	33	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	専門科目小計(小計149科目)	—	14	282	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
関 連 科 目	学 校 図 書 館 司 書 教 諭 取 得 論	学校経営と学校図書館	4前		2		○							
		学校図書館メディアの構成	4前		2		○							
		学習指導と学校図書館	4後		2		○							
		読書と豊かな人間性	4後		2		○							
		情報メディアの活用	4前		2		○							
	関連科目小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	—	—	—	—		
	合計(206科目)	—	22	363	0	—	—	—	—	—	—	—		

「資格要件科目」欄の「●」は免許必修科目、「◎」は免許選択必修科目、「○」は免許選択科目を表す。

註1：下記「教育実践実習」区分の授業科目①～③のいずれかを選択必修科目とする。

- ① 教育実習事前事後指導(幼)、教育実習Ⅰ(幼)、教育実習Ⅱ(幼)、教職実践演習(幼・小)
- ② 教育実習事前事後指導(小)、教育実習Ⅰ(小)、教育実習Ⅱ(小)、教職実践演習(幼・小)
- ③ 教育実習事前事後指導(中・高)、教育実習Ⅰ(中・高)、教育実習Ⅱ(中)、教職実践演習(中・高)

【表2】

人間教育学部 人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻													
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	中数学	高数学	中音楽	高音楽	
共通教育科目	英語 I	1・2・3・4前		1		○							
	英語 II	1・2・3・4後		1		○							
	英会話 I	1・2・3・4前	1				○		●	●	●	●	
	英会話 II	1・2・3・4後	1				○		●	●	●	●	
	中国語基礎	1・2・3・4前		1		○							
	中国語会話	1・2・3・4前後		1			○						
	スペイン語基礎	1・2・3・4前		1		○							
	スペイン語会話	1・2・3・4前後		1			○						
	日本語 I	1・2・3・4前		1			○						
	日本語 II	1・2・3・4後		1			○						
	日本語表現 I	1・2・3・4前		1				○					
	日本語表現 II	1・2・3・4後		1				○					
	日本語表現 III	1・2・3・4前		1				○					
	日本語表現 IV	1・2・3・4後		1				○					
	文学	1・2・3・4前後		2			○				●	●	
	哲学	1・2・3・4前後		2			○						
	倫理学	1・2・3・4前後		2			○						
	心理学	1・2・3・4前後		2			○						
	文化人類学	1・2・3・4前後		2			○						
	音楽の世界	1・2・3・4前後		2			○						
	社会学	1・2・3・4前後		2			○						
	日本国憲法	1・2・3・4後		2			○			●	●	●	
	歴史学	1・2・3・4前後		2			○						
	地理学	1・2・3・4前後		2			○						
	数学の世界	1・2・3・4前後		2			○						
	自然科学の基礎	1・2・3・4前後		2			○						
	環境化学の基礎	1・2・3・4前後		2			○						
	健康スポーツ(理論)	1・2・3・4前		1			○			●	●	●	
	健康スポーツ(実技)	1・2・3・4後		1					○	●	●	●	
	バラスポーツ指導論	1・2・3・4前後		1				○					
	スポーツ実技 I	1・2・3・4前		1					○				
	スポーツ実技 II	1・2・3・4後		1					○				
共生 教養 科目	共生と社会	1・2・3・4前後		2			○						
	人権論	1・2・3・4前後		2			○						
	ボランティア活動	1・2・3・4前後		2			○						
	生活と環境	1・2・3・4前後		2			○						
	暮らしと地域社会	1後		2			○						
	地域と安全	2後		1			○						
国際 科目 奈良・ 京都	奈良学	1・2・3・4前後		2			○						
	けいはんな学研都市学	1・2・3・4前		1			○						
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4前後		2			○						
	国際事情	1・2・3・4前後		2			○						
情報 教養 科目	情報機器の操作	1・2・3・4前		2			○			●	●	●	
	情報倫理とセキュリティ	1・2・3・4前後		2			○						
	データの世界	1・2・3・4前後		2			○						
	CGの基礎と演習	1・2・3・4前後		2			○						
	情報と分析	1・2・3・4前後		2			○						
キャ リア 形成 科目	キャリアデザイン	2前		1				○					
	キャリアディベロップメント	2後		1				○					
	キャリアスキルアップ I	3前		1				○					
	キャリアスキルアップ II	3後		1				○					
	インターンシップ	3後		2					○				
共通教育科目小計(52科目)				8	71	0		-				-	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	中数学	高数学	中音楽	高音楽
専門科目	教育学の基礎に関する理解 基礎科目	発達・教育心理学		2		○			●	●	●	●
		教育行政学	2前	2		○			◎	◎	◎	◎
		教育社会学	2後	2		○			◎	◎	◎	◎
		教職入門	1前	2		○			●	●	●	●
		教育原理	1後	2		○			●	●	●	●
		数の理解	1後	2		○						
		音楽の理解	1前	2		○						
		器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	1前	2			○					
		器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)	2後	2				○				
		食の心理	2前	2		○						
		代数学基礎	1後	2		○			●	●		
		解析学基礎	1後	2		○			●	●		
		コンピュータ基礎	1後	2		○			●	●		
		代数学A(線形写像)	2前	2		○			●	●		
		幾何学基礎	1前	2		○			●	●		
		解析学A(テーラー展開)	2前	2		○			●	●		
		確率・統計基礎	2前	2		○			●	●		
		代数学B(群論)	2後	2		○			●	●		
		幾何学A(集合と位相)	2前	2		○			●	●		
		解析学B(複素関数)	2後	2		○			●	●		
		コンピュータA(アルゴリズム論)	2後	2		○			●	●		
		楽典	1後	2		○					●	●
		ソルフェージュⅠ	2前	1			○				●	●
		ソルフェージュⅡ	2後	1				○			●	●
		キーボードハーモニーⅠ	3前	1			○				●	●
		キーボードハーモニーⅡ	3後	1				○			●	●
		音楽表現ⅠA(ピアノ・歌)	1通年	2				○			○	○
		音楽表現ⅠB(リズム&ダンス)	1通年	2					○		○	○
		音楽表現ⅡA(ピアノ・歌)	2通年	2					○		○	○
		音楽表現ⅡB(リズム&ダンス)	2通年	2						○	○	○
	小計(30科目)		0	56	0							
	人間教育に関する理解 基礎	人間教育学	1前	2		○						
		教育と日本の伝統文化	2後	2		○						
		英米文学	2後	2		○						
		数学入門	1前	2		○						
		西洋の音楽史と理論	2前	2		○				●	●	
		諸民族の音楽(日本伝統音楽を含む)	2後	2		○				●	●	
		言語学概論	4前	2		○						
	社会言語学	3後	2		○							
日本事情	3後	2		○								
小計(9科目)		2	16	0								
基礎科目小計(39科目)		2	72	0								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	中数学	高数学	中音楽	高音楽	
現代教育・教育経営に関する理解	現代教育課題A(不登校・いじめ)	3前		2		○							
	現代教育課題B(特別支援)	3前		2		○							
	現代教育課題C(学校と安全)	3前		2		○							
	現代教育課題D(学校における異文化理解)	3後		2		○							
	教育相談の理論と方法	3後		2		○			●	●	●	●	
小計(5科目)			0	10	0								
専門科目 発展科目	特別支援	1後		2		○			●	●	●	●	
	教育課程論	3前		2		○			●	●	●	●	
	道徳教育の指導法	3前		2		○			●	○	●	○	
	教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	1後		2		○			●	●	●	●	
	生徒指導・進路指導論	2後		2		○			●	●	●	●	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3後		2		○			●	●	●	●	
	代数学Ⅰ(数論)	3前		2		○			○	○			
	幾何学B(位相空間)	2後		2		○			●	●			
	確率・統計応用	3前		2		○			○	●			
	代数学Ⅱ(環と体)	3後		2		○			○	○			
	解析学Ⅰ(ルベグ積分)	3後		2		○			○	○			
	コンピュータB(統計データ分析)	3後		2		○			●	●			
	応用数学Ⅰ(位相幾何)	4前		2		○			○	○			
	解析学Ⅱ(関数解析)	4前		2		○			○	○			
	応用数学Ⅱ(応用代数学)	4後		2		○			○	○			
	応用数学Ⅲ(微分方程式)	4後		2		○			○	○			
	数学科教育法Ⅰ	1後		2		○			●	●			
	数学科教育法Ⅱ	2前		2		○			●	●			
	数学科教育法Ⅲ	2後		2		○			●	○			
	数学科教育法Ⅳ	4前		2		○			●	○			
	合唱Ⅰ	1後		1				○			●	●	
	合唱Ⅱ	2前		1				○			●	●	
	器楽演習ⅠA(ピアノ)	3前		1				○			○	○	
	器楽演習ⅠB(管打)	3前		1				○			○	○	
	身体表現演習Ⅰ	3前		1				○			○	○	
	声楽実技Ⅰ(日本伝統歌唱を含む)	2後		1				○			○	○	
	器楽演習ⅡA(ピアノ)	3後		1				○			○	○	
	器楽演習ⅡB(管打)	3後		1				○			○	○	
	身体表現演習Ⅱ	3後		1				○			○	○	
	声楽実技Ⅱ(日本伝統歌唱を含む)	3前		1				○			○	○	
	器楽特殊演習ⅠA(ピアノ)	4前		1				○			○	○	
	器楽特殊演習ⅠB(管打)	4前		1				○			○	○	
	身体表現特殊演習Ⅰ	4前		1				○			○	○	
	声楽演奏法演習Ⅰ	3後		1				○			○	○	
	器楽特殊演習ⅡA(ピアノ)	4後		1				○			○	○	
	器楽特殊演習ⅡB(管打)	4後		1				○			○	○	
	身体表現特殊演習Ⅱ	4後		1				○			○	○	
	声楽演奏法演習Ⅱ	4前		1				○			○	○	
	器楽合奏Ⅰ(和楽器を含む)	1通年		2				○			●	●	
	器楽合奏Ⅱ	2通年		2				○					
	器楽合奏Ⅲ	3通年		2				○					
	器楽合奏Ⅳ	4通年		2				○					
	指揮法	3前		2		○					●	●	
	作曲法基礎(編曲法を含む)	3後		2		○							
	作曲法応用(編曲法を含む)	4前		1				○					
	音楽科教育法Ⅰ	1後		2				○			●	●	
	音楽科教育法Ⅱ	2前		2				○			●	●	
	音楽科教育法Ⅲ	2後		2				○			●	○	
	音楽科教育法Ⅳ	4前		2				○			●	○	
小計(49科目)			0	79	0								
教職キャリア形成	教職表現力演習	1通年		2				○					
	数学表現力演習	2通年		2				○					
	音楽表現力演習	2通年		2				○					
	人間教育実践力開発演習Ⅰ	1通年		2				○					
	人間教育実践力開発演習Ⅱ	2通年		2				○					
	人間教育実践力開発演習Ⅲ	3通年		2				○					
	人間教育実践力開発演習Ⅳ	4通年		2				○					
小計(7科目)			0	14	0								
発展科目小計(61科目)			0	103	0								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格要件に関する科目				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	中数学	高数学	中音楽	高音楽	
専門科目	教育実践実習	教育実習事前事後指導(中・高)	3通年	1				○		●	●	●	●
		教育実習Ⅰ(中・高)	3前	2					○	●	●	●	●
		教育実習Ⅱ(中)	3前	2						●	○	●	○
		教職実践演習	4後	2				○	●	●	●	●	●
	小計(4科目)		—	7	0	0	—	—	—	—	—	—	—
	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	1通年	2				○					
		基礎ゼミナールⅡ	2通年	2				○					
		人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)	3通年	4				○					
		人間教育学ゼミナールⅡ(応用)	4通年	4				○					
		卒業研究	4後	4	4			○					
小計(5科目)		—	12	4	0	—	—	—	—	—	—	—	
演習実習科目小計(9科目)		—	19	4	0	—	—	—	—	—	—	—	
専門科目小計(小計109科目)		—	21	179	0	—	—	—	—	—	—	—	
関連科目	学校図書館司書	学校経営と学校図書館	4前		2		○						
		学校図書館メディアの構成	4前		2		○						
		学習指導と学校図書館	4後		2		○						
		読書と豊かな人間性	4後		2		○						
		情報メディアの活用	4前		2		○						
関連科目小計(5科目)		—	0	10	0	—	—	—	—	—	—	—	
合計(166科目)		—	29	260	0	—	—	—	—	—	—	—	

「資格要件科目」欄の「●」は免許必修科目、「◎」は免許選択必修科目、「○」は免許選択科目を表す。

註 声楽実技Ⅰ(日本伝統歌唱を含む)、器楽演習ⅠA(ピアノ)、器楽演習ⅠB(管打)の3科目から最低1科目1単位選択必修

註 声楽実技Ⅱ(日本伝統歌唱を含む)、器楽演習ⅡA(ピアノ)、器楽演習ⅡB(管打)の3科目から最低1科目1単位選択必修

註 声楽演奏法演習Ⅰ、器楽特殊演習ⅠA(ピアノ)、器楽特殊演習ⅠB(管打)の3科目から最低1科目1単位選択必修

註 声楽演奏法演習Ⅱ、器楽特殊演習ⅡA(ピアノ)、器楽特殊演習ⅡB(管打)の3科目から最低1科目1単位選択必修

【表3】 幼一種免を取得するために必要な領域及び保育内容の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する 開設授業科目	単位数		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数		必修	選択	
領域及び 保育内容 の指導法 に関する 科目	領域に関 する専門 的事項	健康	子どもと健康	2		
		人間関係	子どもと人間関係	2		
		環境	子どもと環境	2		
		言葉	子どもと言葉	2		
		表現	子どもと表現(体育)	2		
			子どもと表現(図工)	2		
	子どもと表現(音楽)		2			
領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		保育内容総論	2			

【表4】 幼一種免を取得するために必要な領域及び保育内容の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する 開設授業科目	単位数		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	
領域及び保育内容の 指導法に関する科目	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	子どもと健康の指導法	2		
		子どもと人間関係の指導法	2		
		子どもと環境の指導法	2		
		子どもと言葉の指導法	2		
		子どもと表現の指導法	2		

【表5】 幼一種免を取得するために必要な教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する 開設授業科目	単位数		備考	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数		必修	選択		
教育の基礎的 理解に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学 教育社会学		2 2		左記2科目から1科目選択必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達・教育心理学	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		幼児教育課程総論	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2			
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解	2			
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		幼児教育相談支援	2			
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前事後指導(幼・小)	1			
			教育実習Ⅰ(幼・小)	2			
			教育実習Ⅱ(幼・小)	2			
	学校体験活動						
教職実践演習	2	教職実践演習	2				

【表6】 幼一種免を取得するために必要な大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	上記領域及び保育内容の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等		14	

最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて14単位以上を修得

【表7】 小一種免を取得するために必要な教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	言語(書写を含む。)	2			
		書写演習(小)		2		
		社会	2			
		算数	2			
		理科	2			
		生活	2			
		音楽	音楽の理解	2		
			器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)		2	
			器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)		2	
		図画工作	美術の理解	2		
		家庭	衣食住の理解		2	
		体育	運動・健康の理解	2		
		外国語	外国語の理解	2		

【表8】 小一種免を取得するために必要な教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語(書写を含む。)	2		
		社会	2		
		算数	2		
		理科	2		
		生活	2		
		音楽	2		
		図画工作	2		
		家庭	2		
		体育	2		
		外国語	2		

【表9】 小一種免を取得するために必要な教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	単位数		備考	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数		必修	選択		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	10	教育原理	2			
			教職入門	2			
			教育行政学 教育社会学		2 2		左記2科目から1科目選択必修
			発達・教育心理学	2			
			特別支援	2			

	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育の指導法	2		
	総合的な学習の時間の指導法		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		
	特別活動の指導法		教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2		
	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		生徒指導・進路指導論	2		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。
	生徒指導の理論及び方法		教育相談の理論と方法	2		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法					
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前事後指導(幼・小)	1		
			教育実習Ⅰ(幼・小)	2		
			教育実習Ⅱ(幼・小)	2		
	学校体験活動					
	教職実践演習	2	教職実践演習	2		

【表10】 小一種免を取得するために必要な大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	上記教科及び教科の指導法に関する科目、 教育の基礎的理解に関する科目等		2	

最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて2単位以上を修得

【表11-1】 中一種免(国語)を取得するために必要な教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する 開設授業科目	単位数		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	国語学入門	2	
			国語学Ⅰ	2	
			国語学Ⅱ	2	
			国語学特論		2
			語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)	2	
		ことばとコミュニケーション	2		
		国文学(国文学史を含む。)	国文学入門	2	
			国文学Ⅰ	2	
			国文学Ⅱ	2	
			国文学特論		2
	語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)		2		
	漢文学	漢文学入門	2		
		漢文学Ⅰ	2		
		漢文学Ⅱ	2		
		漢文学特論		2	
		語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)	2		
	書道(書写を中心とする。)	書写・書道入門	2		
		書写・書道Ⅰ		2	
		書写・書道Ⅱ		2	

	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語科教育法Ⅰ	2		
		国語科教育法Ⅱ	2		
		国語科教育法Ⅲ	2		
	国語科教育法Ⅳ	2			

【表11-2】高一種免（国語）を取得するために必要な教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	国語学入門	2		
			国語学Ⅰ	2		
			国語学Ⅱ	2		
			国語学特論		2	
			語学・文学総合演習Ⅰ（国語学）	2		
		ことばとコミュニケーション	2			
		国文学（国文学史を含む。）	国文学入門	2		
			国文学Ⅰ	2		
			国文学Ⅱ	2		
			国文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅱ（国文学）		2			
	漢文学	漢文学入門	2			
		漢文学Ⅰ	2			
		漢文学Ⅱ	2			
		漢文学特論		2		
		語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）	2			
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語科教育法Ⅰ	2		
			国語科教育法Ⅱ	2		
			国語科教育法Ⅲ		2	
	国語科教育法Ⅳ			2		

【表12】中一種免（国語）又は高一種免（国語）を取得するために必要な教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考	
科目	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育行政学 教育社会学		2 2	左記2科目から1科目選択必修	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	発達・教育心理学	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援	2			
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2			
道徳、総合	道徳の理論及び指導法	中	道徳教育の指導法	2		中免のみ

的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法(中)	10・高8	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		
	総合的な探求の時間の指導法(高)					
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			2		
	生徒指導の理論及び方法					進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		2			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	中5・高3	教育実習事前事後指導(中・高)	1		
			教育実習Ⅰ(中・高)	2		
	教育実習Ⅱ(中)			2	中免のみ必修	
	学校体験活動					
	教職実践演習	2	2			

【表13-1】 中一種免(国語)を取得するために必要な大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	上記教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等		4	

最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得

【表13-2】 高一種免(国語)を取得するために必要な大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	道徳教育の指導法		2	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上修得

【表14-1】 中一種免(数学)を取得するために必要な教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学	代数学基礎	2	
			代数学A(線形写像)	2	
			代数学B(群論)	2	
			代数学Ⅰ(数論)		2
			代数学Ⅱ(環と体)		2
			応用数学Ⅱ(応用代数学)		2
		幾何学	幾何学基礎	2	
			幾何学A(集合と位相)	2	
			幾何学B(位相空間)	2	
			応用数学Ⅰ(位相幾何)		2
		解析学	解析学基礎	2	
			解析学A(テーラー展開)	2	
			解析学B(複素関数)	2	
			解析学Ⅰ(ルベーグ積分)		2
			解析学Ⅱ(関数解析)		2
			応用数学Ⅲ(微分方程式)		2
			「確率論、統計学」	確率・統計基礎	2

	コンピュータ	確率・統計応用	2			
		コンピュータ基礎	2			
		コンピュータA(アルゴリズム論)	2			
		コンピュータB(統計データ分析)	2			
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		数学科教育法Ⅰ	2		
			数学科教育法Ⅱ	2		
数学科教育法Ⅲ			2			
数学科教育法Ⅳ			2			

【表14-2】高一種免(数学)を取得するために必要な教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学	代数学基礎	2	
			代数学A(線形写像)	2	
			代数学B(群論)	2	
			代数学Ⅰ(数論)		2
			代数学Ⅱ(環と体)		2
		応用数学Ⅱ(応用代数学)		2	
		幾何学	幾何学基礎	2	
			幾何学A(集合と位相)	2	
			幾何学B(位相空間)	2	
			応用数学Ⅰ(位相幾何)		2
	解析学	解析学基礎	2		
		解析学A(テーラー展開)	2		
		解析学B(複素関数)	2		
		解析学Ⅰ(ルベグ積分)		2	
		解析学Ⅱ(関数解析)		2	
	「確率論、統計学」	確率・統計基礎	2		
		確率・統計応用	2		
	コンピュータ	コンピュータ基礎	2		
		コンピュータA(アルゴリズム論)	2		
		コンピュータB(統計データ分析)	2		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		数学科教育法Ⅰ	2		
		数学科教育法Ⅱ	2		
		数学科教育法Ⅲ		2	
		数学科教育法Ⅳ		2	

【表15-1】中一種免(音楽)を取得するために必要な教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1		
			ソルフェージュⅡ	1		
			キーボードハーモニーⅠ	1		
			キーボードハーモニーⅡ	1		
			音楽表現ⅠA(ピアノ・歌)		2	
		音楽表現ⅡA(ピアノ・歌)		2		
		声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	声楽実技Ⅰ(日本伝統歌唱を含む)		1	※1
			声楽実技Ⅱ(日本伝統歌唱を含む)		1	※2
			声楽演奏法演習Ⅰ		1	※3
			声楽演奏法演習Ⅱ		1	※4
	合唱Ⅰ			1		
	合唱Ⅱ			1		

	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	器楽演習ⅠA（ピアノ）		1	左記2科目と「※1」の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	
		器楽演習ⅠB（管打）		1		
		器楽演習ⅡA（ピアノ）		1		左記2科目と「※2」の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修
		器楽演習ⅡB（管打）		1		
		器楽特殊演習ⅠA（ピアノ）		1		左記2科目と「※3」の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修
		器楽特殊演習ⅠB（管打）		1		
		器楽特殊演習ⅡA（ピアノ）		1		左記2科目と「※4」の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修
		器楽特殊演習ⅡB（管打）		1		
		器楽合奏Ⅰ（和楽器を含む）	2			
		指揮法	指揮法	2		
		音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	楽典	2		
			西洋の音楽史と理論	2		
			諸民族の音楽（日本伝統音楽を含む）	2		
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	音楽科教育法Ⅰ	2				
	音楽科教育法Ⅱ	2				
	音楽科教育法Ⅲ	2				
	音楽科教育法Ⅳ	2				

【表1.5-2】高一種免（音楽）を取得するために必要な教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1			
			ソルフェージュⅡ	1			
			キーボードハーモニーⅠ	1			
			キーボードハーモニーⅡ	1			
			音楽表現ⅠA（ピアノ・歌）		2		
		声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	音楽表現ⅡA（ピアノ・歌）		2		
			声楽実技Ⅰ（日本伝統歌唱を含む）		1	※1	
			声楽実技Ⅱ（日本伝統歌唱を含む）		1	※2	
			声楽演奏法演習Ⅰ		1	※3	
			声楽演奏法演習Ⅱ		1	※4	
			合唱Ⅰ	1			
		合唱Ⅱ	1				
		器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		器楽演習ⅠA（ピアノ）		1	左記2科目と「※1」の科目を含む3科目から
				器楽演習ⅠB（管打）		1	

						最低1科目 1単位選択 必修
		器楽演習ⅡA(ピアノ)		1		左記2科目 と「※2」の 科目を含む 3科目から 最低1科目 1単位選択 必修
		器楽演習ⅡB(管打)		1		左記2科目 と「※3」の 科目を含む 3科目から 最低1科目 1単位選択 必修
		器楽特殊演習ⅠA(ピアノ)		1		左記2科目 と「※4」の 科目を含む 3科目から 最低1科目 1単位選択 必修
		器楽特殊演習ⅠB(管打)		1		左記2科目 と「※4」の 科目を含む 3科目から 最低1科目 1単位選択 必修
		器楽特殊演習ⅡA(ピアノ)		1		左記2科目 と「※4」の 科目を含む 3科目から 最低1科目 1単位選択 必修
		器楽特殊演習ⅡB(管打)		1		左記2科目 と「※4」の 科目を含む 3科目から 最低1科目 1単位選択 必修
		器楽合奏Ⅰ(和楽器を含む)	2			
	指揮法	指揮法	2			
	音楽理論・作曲法(編 曲法を含む。)・音楽 史(日本の伝統音楽 及び諸民族の音楽を 含む。)	楽典	2			
		西洋の音楽史と理論	2			
		諸民族の音楽(日本伝統音楽を含む)	2			
	教科及び教科の指導法に関する科 目における複数の事項を合わせた 内容に係る科目					
	各教科の指導法(情報通信技術の 活用を含む。)	音楽科教育法Ⅰ	2			
		音楽科教育法Ⅱ	2			
		音楽科教育法Ⅲ		2		
		音楽科教育法Ⅳ		2		

【表16-1】中一種免(数学)又は高一種免(数学)を取得するために必要な教育の基礎的理解に関する科目等

科目	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する 開設授業科目	単位数		備考	
	各科目に含めることが必要な事項	単位数		必修	選択		
教育の基礎的理解 に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学 教育社会学		2 2		左記2科目 から1科目 選択必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達・教育心理学	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2			
道徳、総合	道徳の理論及び指導法		道徳教育の指導法	2		中免のみ	

的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法(中) 総合的な探求の時間の指導法(高)	中 10 ・ 高 8	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2		
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導論	2		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談の理論と方法	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	中 5 ・ 高 3	教育実習事前事後指導(中・高)	1		
			教育実習Ⅰ(中・高)	2		
			教育実習Ⅱ(中)		2	中免のみ必修
	学校体験活動					
	教職実践演習	2	教職実践演習	2		

【表16-2】中一種免(音楽)又は高一種免(音楽)を取得するために必要な教育の基礎的理解に関する科目等

科目	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	単位数		備考	
	各科目に含めることが必要な事項	単位数		必修	選択		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学 教育社会学		2 2		左記2科目から1科目選択必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達・教育心理学	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中 10 ・ 高 8	道徳教育の指導法	2		中免のみ	
	総合的な学習の時間の指導法(中) 総合的な探求の時間の指導法(高)		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2			
	特別活動の指導法						
	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2			
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導論	2		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談の理論と方法	2			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						

教育実践に関する科目	教育実習	中 5 ・ 高 3	教育実習 事前事後指導 (中・高)	1		
			教育実習 I (中・高)	2		
			教育実習 II (中)		2	中免のみ必修
	学校体験活動					
	教職実践演習	2	教職実践演習	2		

【表17-1】 中一種免(数学)を取得するために必要な大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	上記教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等		4	

最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得

【表17-2】 高一種免(数学)を取得するために必要な大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	道德教育の指導法		2	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上修得

【表17-3】 中一種免(音楽)を取得するために必要な大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	音楽表現 I B (リズム&ダンス)		2	
	音楽表現 II B (リズム&ダンス)		2	
	身体表現演習 I		1	
	身体表現演習 II		1	
	身体表現特殊演習 I		1	
	身体表現特殊演習 II		1	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上修得

【表17-4】 高一種免(音楽)を取得するために必要な大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	道德教育の指導法		2	
	音楽表現 I B (リズム&ダンス)		2	
	音楽表現 II B (リズム&ダンス)		2	
	身体表現演習 I		1	
	身体表現演習 II		1	
	身体表現特殊演習 I		1	
	身体表現特殊演習 II		1	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上修得

【表18】特支一種免を取得するために必要な特別支援教育の基礎理論に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分		単位数	左記に対応する 開設授業科目	単位数		備考
				必修	選択	
特別支援教育の基礎理論に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2	特別支援教育総論	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育に係る社会的、制度的又は経営的事項					
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	知的障害者の心理	2		
			知的障害者の生理・病理	2		
			肢体不自由者の心理・生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		病弱者の心理・生理・病理	2		
			知的障害者教育課程論と指導論	2		
			肢体不自由者教育課程論と指導論	2		
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	障害の検査と評価	2				
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	5	重度・重複障害者教育課程論と指導論	2		
			視覚障害者教育総論	2		
	聴覚障害者教育総論		2			
	発達障害者教育総論		2			
	発達障害者の心理			2		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援教育実習	3		事前事後指導 1単位含む	

【表19】幼一種免又は小一種免又は中一種免（国語）又は中一種免（数学）又は中一種免（音楽）又は高一種免（国語）又は高一種免（数学）又は高一種免（音楽）を取得するために必要な教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則第66条の6に定める科目		左記に対応する本学の授業科目	単位数		備考
科目区分	単位数		必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体育	2	健康スポーツ(理論)	1		
		健康スポーツ(実技)	1		
外国語コミュニケーション	2	英会話Ⅰ	1		
		英会話Ⅱ	1		
情報機器の操作	2	情報機器の操作	2		

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科 保育士養成課程 履修細則  
(2021年度以降入学生対象)

(総則)

第1条 本学学則第15条第4項の規定に基づき、人間教育学部人間教育学科の学生で、保育士資格の取得を希望する者は、児童福祉法（昭和22年法律第164号）及び児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）によるほか、この細則により履修しなければならない。

(履修)

第2条 保育士資格を取得するためには、別表に定める単位を修得し、当該学科を卒業しなければならない。

(対象)

第3条 前条の履修をするためには、人間教育学部長が定める選抜基準により、選抜されなければならない。

(課程名称・定員)

第4条 選抜された者は、人間教育学部人間教育学科保育士養成課程に所属する。この保育士養成課程の定員は40名とする。

(他機関・入学前取得単位の認定)

第5条 学長は、在学中に他の指定保育士養成施設等において履修した教科目又は入学前に指定保育士養成施設等で履修した教科目について取得した単位を、30単位を超えない範囲で当該教科目に相当するものとみなし、単位を認定することができる。

(卒業単位への算入)

第6条 この課程の授業科目の履修により修得した単位のうち、人間教育学部人間教育学科履修規程により同学科の授業科目と同一と人間教育学部教授会が認めた場合は、卒業単位に算入することができる。

(雑則)

第7条 この細則に定めるものの他は、人間教育学部人間教育学科履修規程に準じる。

(改廃)

第8条 この細則の改廃は、人間教育学部教授会においてこれを行う。

附 則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

■ 2026年度入学生 人間教育学部 人間教育学科 保育士養成課程

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等				配当年次	開講時期	
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数				
						必修	選択			計
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	日本国憲法	講義	2		2	1	後期
				情報機器の操作	講義	2		2	1	前期
				文学	講義		2	2	1	前後期
				音楽の世界	講義		2	2	1	前後期
				数学の世界	講義		2	2	1	前後期
				データの世界	講義		2	2	1	前後期
				キャリアデザイン	演習		1	1	2	前期
				キャリアディベロップメント	演習		1	1	2	後期
				キャリアスキルアップⅠ	演習		1	1	3	—
				キャリアスキルアップⅡ	演習		1	1	3	—
	外国語	演習	2以上	英会話Ⅰ	演習	1		1	1	前期
				英会話Ⅱ	演習	1		1	1	後期
				中国語基礎	講義		1	1	1	前期
				中国語会話	演習		1	1	1	前後期
				スペイン語基礎	講義		1	1	1	前期
	体育	講義 実技	1 1	健康スポーツ（理論）	講義	1		1	1	前期
				健康スポーツ（実技）	実技	1		1	1	後期
	合計			10単位以上			8	16	24	
				24単位（≧10単位）						

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等				配当年次	開講時期	
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数				
						必修	選択			計
目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2	2	前期
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		2	1	後期
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2		2	3	—
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2	1	前期
	子どもと家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		2	3	—
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2		2	2	前期
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	1	後期
関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2		2	2	後期
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	3	—
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	1		1	3	—
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2		2	3	—
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2	2	後期
方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育の計画と評価	講義	2		2	2	後期
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		2	1	前期
	保育内容演習	演習	5	子どもと健康	演習	2		2	1	後期
				子どもと人間関係	演習	2		2	1	後期
				子どもと環境	演習	2		2	1	前期
				子どもと言葉	演習	2		2	1	前期
	保育内容の理解と方法	演習	4	子どもと表現（体育）	演習	2		2	1	前期
				子どもと表現（図工）	演習	2		2	1	後期
				子どもと表現（音楽）	演習	2		2	1	後期
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2		2	2	前期
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1		1	2	後期
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1		1	3	—
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		2	3	—
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1		1	2	後期	
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1		1	3	—	
保育実習	実習	4	保育所実習Ⅰ	実習	2/4		2/4	3	—	
			施設実習Ⅰ	実習	2/4		2/4	3	—	
保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育所実習指導Ⅰ	演習	1		1	3	—	
			施設実習指導Ⅰ	演習	1		1	3	—	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2		2	4	—
合計			51単位			57		57		
				57単位（≧51単位）						

■ 2026年度入学生 人間教育学部 人間教育学科 保育士養成課程

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					配当年次	開講時期
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数				
						必修	選択	計		
目 保 育 的 科 目 に 関 本 質 す る ・  理 保 解 の 科 目 に 関 対 象 の  方 保 法 に 関 育 の 内 容 す る ・  保 保 育 実 習	各指定保育士養成施設において設定		15 単 位 以 上	教職入門	講義	2		2	1	前期 前期 前期
				教育行政学	講義		2	2	2	
				人間教育学	講義	2		2	1	
				発達・教育心理学	講義	2		2	2	前期 前期
				幼児理解	講義	2		2	1	
				教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む。）	講義	2		2	1	— 前期 後期 — — —
				子どもと健康の指導法	講義	2		2	2	
				子どもと人間関係の指導法	講義	2		2	2	
				子どもと環境の指導法	講義	2		2	3	
				子どもと言葉の指導法	講義	2		2	3	
				子どもと表現の指導法	講義	2		2	3	
	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	[ 2 ]	保育所実習Ⅱ	実習	2		2	3	—
	保育実習指導Ⅱ	演習	[ 1 ]	施設実習Ⅱ	実習		2	2	4	—
	保育実習指導Ⅲ			保育所実習指導Ⅱ	演習	1		1	1	3
				施設実習指導Ⅱ	演習		1	1	4	—
合 計		18単位以上				23	5	28		
28単位（≥18単位）										

告示による教科目	当該養成施設における教科の開設状況等					配当年次	開講時期
	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数				
			必修	選択	計		
保育士資格取得科目ではないが、 学校独自の科目として開設されている教科目	衣食住の理解	講義		2	2	1	前期
	ことばとコミュニケーション	講義		2	2	1	後期
	生活科指導法	講義		2	2	2	後期
	家庭科指導法	講義		2	2	2	前期
	体育科指導法	講義		2	2	3	—
	合 計			0	10	10	

## 奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科 転専攻規程

〔 制 定 平成30年 1月12日 〕  
〔 最近改正 〕

(趣旨)

第1条 この規程は、奈良学園大学（以下「本学」という。）学則第41条第2項の規定に基づき、転専攻の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

2 転専攻については、学部毎に定めることとする。

(転学部の時期)

第2条 転専攻の時期は、2年次の学年始めとする。

(受入人員)

第3条 転専攻学生の受け入れは、志望先専攻における転専攻以降の学修等に支障がない場合に限り受け付けるものとする。

(資格)

第4条 転専攻は、転専攻時点において、本学に1ヶ年以上在学する見込みの者が出願できる。

(出願)

第5条 転専攻を志願する者は、次の各号に掲げる書類を所属学部の学部長（以下「所属学部長」という。）に提出しなければならない。

- (1) 転専攻願（別紙様式）
- (2) 学業成績・単位修得証明書
- (3) その他所属学部及び志望先専攻で必要と認める書類

2 転専攻の出願時期は、転専攻を志望する年度の前年度12月末日までとする。

(選考依頼)

第6条 所属学部長は、前条第1項により提出された書類及び所属学部長の承諾書を添付して、第2条に定める転専攻の時期の2ヶ月前までに志望先専攻の審査可能教員を適切且つ必要数選択し、審査を指示するものとする。

(選考)

第7条 転専攻願の審査を指示された教員は、志望動機、学業成績、面接、筆記試験等を組み合わせて審査を行わなければならない。

(許可又は不許可の決定)

第8条 学部長は、前条の審査報告を受け、転専攻の許可又は不許可を決定し、当該学生、当該学生の保証人、転専攻先該当教員等に通知する。

(既修得単位の認定)

第9条 転専攻を許可された者の本学において修得した単位（他大学等で修得した単位で本学入学時に認定された単位を含む。）については、学部教授会の議を経て、その全部又は一部を卒業に必要な単位として認定することができる。

(手続)

第10条 転専攻を許可された者は、所定の期日までに転専攻に必要な手続きをしなければならない。

(その他)

第11条 この規程に定めるもののほか、転専攻に必要な事項は別に定める。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、人間教育学部教授会においてこれを行う。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

## 12. 教職課程共通

### (1) 教職課程

人間教育学部では幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援教諭を目指す者に対して、教職課程が設けられています。

教員には次の世代の人材を育成するという重要な使命があり、そのため、十分な専門知識を持つと同時に、優れた人格や指導力が求められます。このことを踏まえ、免許取得には多くの科目の履修が求められ、履修すべき科目は、いずれも、上記の目的のために必要な科目であるとの認識を十分に持って、相当な寛悟で科目の履修に取り組んでください。

教育実習は、教員になるにふさわしい専門の学力と勉学に対する態度を身につけて、はじめて受講できるものと考えてください。

### (2) 免許状の種類と免

本学に在学している学生が取得できる免許状の種類と免許教科は次の通りです。

学科・専攻	免許状の種類	免許教科
人間教育学科・人間教育学専攻	幼稚園教諭一種免許状	—
	小学校教諭一種免許状	—
	中学校教諭一種免許状	国 語
	高等学校教諭一種免許状	国 語
	特別支援学校教諭一種免許状 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者)	—
人間教育学科・中等(数学・音楽)専攻	中学校教諭一種免許状	数 学
	中学校教諭一種免許状	音 楽
	高等学校教諭一種免許状	数 学
	高等学校教諭一種免許状	音 楽

### (3)教育実習

#### ① 評価について

『教育職員免許法』に基づき、免許状取得条件科目に「教育実習」があります。

【 幼稚園教諭 ・ 小学校教諭 ・ 中学校教諭 】

◆「教育実習」5単位の修得が必要 → 「教育実習Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)と「教育実習事前事後指導」(1単位)

【 高等学校教諭 】

◆「教育実習」3単位の修得が必要 → 「教育実習Ⅰ」(2単位)と「教育実習事前事後指導」(1単位)

【 特別支援学校教諭 】

◆「教育実習」3単位の修得が必要 → 「教育実習」(2単位)と「教育実習事前事後指導」(1単位)

※「特別支援教育実習」を受講するためには…

「教育実習Ⅰ・Ⅱ」のいずれかを修得済み又は同年度に履修済みであること。

#### ② 履修資格

a. 前年度に教職課程登録等の所定の手続きを行っている者

b. 前年度までに以下の科目の単位を修得している者

【 幼稚園教諭 ・ 小学校教諭 ・ 中学校教諭 ・ 高等学校教諭 】

◆卒業に必要な124単位のうち、76単位以上の単位を修得していること。

◆人間教育学部教育課程の授業科目のうち、教職・保育課程委員会が定める授業科目を履修していること。

【 特別支援学校教諭 】

◆人間教育学部教育課程の授業科目のうち、教職・保育課程委員会が定める授業科目を履修していること。

◆「教育実習Ⅰ・Ⅱ」を修得済み又は同年度に履修済みであること。

c. 人間教育学部長及び教職・保育課程委員長が適当と認めた者

#### ③ 教育実習校の選定

【 幼稚園教諭 ・ 小学校教諭 ・ 中学校教諭 ・ 高等学校教諭 】

「教育実習」は3年次に実施しますが、2年次から準備が必要です。

2年次の前期に、「実習校選定のための説明会」を実施します。

ここでの手続きを怠ると3年次で「教育実習」の履修登録ができませんので、実施案内に注意してください。

【 特別支援学校教諭 】

「教育実習」は4年次に実施しますが、3年次から準備が必要です。

3年次の前期に、「実習校選定のための説明会」を実施します。

ここでの手続きを怠ると4年次で「教育実習」の履修登録ができませんので、実施案内に注意してください。

#### ④ 教育実習費の納入

教育職員免許状の取得を希望する学生は教育実習費を定められた期日に納入してください。

納入方法等については別途連絡します。

※ 複数免許の取得を希望する場合は、事前に教務課で確認してください。

## (4)介護等体験 【 小学校教諭 ・ 中学校教諭 】

小・中学校の普通免許状を授与するための要件として、基礎資格及び所定の単位修得に加え介護等体験を必要とします。「小学校及び中学校教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が、平成10年4月1日から施行され、平成10年度以降大学に入学する学生で小学校または中学校の普通免許状を取得しようとする学生は、文部科学大臣が定める社会福祉施設や特別支援学校等において介護等体験を行い、施設や学校が発行する「介護等体験終了証明書」を免許状の授与申請の際に提出することが義務づけられています。

### ① 介護等体験内容

障害者、高齢者等に対する介護、介助および交流などの体験7日間  
(特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間)

### ② 介護等体験の申込資格

介護等体験を行うためには、以下の条件をすべて満たしていることが必要です。

- ◆ 介護等体験実施前年度の修得単位数が30単位以上であること。
- ◆ 「介護等体験申込書」を期限内に提出し、所定の介護等体験費を納入済みであること。
- ◆ 「介護体験に係るガイダンス」にすべて出席すること。
- ◆ 「介護等体験に係る誓約書」が提出済であること。

### ③ 注意事項

介護等体験の具体的な体験日程と派遣先は、教育委員会ならびに社会福祉協議会が調整して決定するため、希望は原則として認められません。

### ④ 介護等体験実習費の納入

教育職員免許状(小、中・高)の取得を希望する学生は介護等体験実習費を定められた期日に納入してください。納入方法等については別途連絡します。

## 13. 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

### 幼稚園教諭一種

#### ● 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。『教育職員免許法』第5条及び『教育職員免許法施行規則』第66条の6に定める「日本国憲法」(2単位)、「体育」(2単位)、「外国語コミュニケーション」(2単位)、「情報機器の操作」(2単位)が必要です。

所要資格 免許状 の種類	基礎資格	教育職員免許法に定める最低必要単位数			
		領域及び保育内容 の指導法に関する 科目	教育の基礎的理解 に関する科目等	大学が独自に設定 する科目	規則第66条の6に 定める科目
幼稚園教諭 一種免許状	学士の学位を有す ること	16	21	14	8

## 小学校教諭一種

### ● 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。『教育職員免許法』第5条及び『教育職員免許法施行規則』第66条の6に定める「日本国憲法」(2単位)、「体育」(2単位)、「外国語コミュニケーション」(2単位)、「情報機器の操作」(2単位)が必要です。

所要資格 免許状 の種類	基礎資格	教育職員免許法に定める最低必要単位数			
		領域及び保育内容 の指導法に関する 科目	教育の基礎的理解 に関する科目等	大学が独自に設定 する科目	規則第66条の6に 定める科目
小学校教諭 一種免許状	学士の学位を有す ること	30	27	2	8

## 中学校教諭一種

### ● 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。『教育職員免許法』第5条及び『教育職員免許法施行規則』第66条の6に定める「日本国憲法」(2単位)、「体育」(2単位)、「外国語コミュニケーション」(2単位)、「情報機器の操作」(2単位)が必要です。

所要資格 免許状 の種類	基礎資格	教育職員免許法に定める最低必要単位数			
		領域及び保育内容 の指導法に関する 科目	教育の基礎的理解 に関する科目等	大学が独自に設定 する科目	規則第66条の6に 定める科目
中学校教諭 一種免許状	学士の学位を有す ること	28	27	4	8

## 高等学校教諭一種

### ● 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。『教育職員免許法』第5条及び『教育職員免許法施行規則』第66条の6に定める「日本国憲法」(2単位)、「体育」(2単位)、「外国語コミュニケーション」(2単位)、「情報機器の操作」(2単位)が必要です。

所要資格 免許状 の種類	基礎資格	教育職員免許法に定める最低必要単位数			
		領域及び保育内容 の指導法に関する 科目	教育の基礎的理解 に関する科目等	大学が独自に設定 する科目	規則第66条の6に 定める科目
高等学校教諭 一種免許状	学士の学位を有す ること	24	23	12	8

## 特別支援学校教諭一種

### ● 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。特別支援学校教諭一種免許状を取得するためには、小学校、中学校・高等学校、幼稚園いずれかの免許状と併せて取得する必要があります。

2023年度以降入学生

所要資格	基礎資格	教育職員免許法に定める最低必要単位数						
		特別支援教育の基礎理論に関する科目		特別支援教育領域に関する科目			免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児・児童又は生徒についての教育実習
		・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育に係る社会的、制度的又は経営的事項	心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目	心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目	心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	
免許状の種類								
特別支援学校教諭一種免許状 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者)	・学士の学位を有すること ・小学校・中学校・高等学校・幼稚園いずれかの免許状	2	16			5	3	

# 14. 教職課程の科目

## 幼稚園教諭一種

### ● 教職課程の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)

#### ■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分等	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	
施行規則第66条の6に定める科目	2	日本国憲法	2	○ 日本国憲法	2	1	1
	2	体育	2	○ 健康スポーツ (理論)	1	1	1
	2	外国語コミュニケーション	2	○ 健康スポーツ (実技)	1	1	1
	2	情報機器の操作	2	○ 英会話 I	1	1	1
	2		2	○ 英会話 II	1	1	1
	2		2	○ 情報機器の操作	2	1	1
	8		8		8		

\* 授業科目の○印は必修科目

(領域及び保育内容の指導法) ①

#### ■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (領域及び保育内容の指導法に関する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分等	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	26	領域に関する専門的事項	16	健康	○ 子どもと健康	2	1
				人間関係	○ 子どもと人間関係	2	1
		領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	16	環境	○ 子どもと環境	2	1
				言葉	○ 子どもと言葉	2	1
		領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	16	表現	○ 子どもと表現 (体育)	2	1
				表現	○ 子どもと表現 (園工)	2	1
				表現	○ 子どもと表現 (音楽)	2	1
	26		16	○ 保育内容総論	2	1	1

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の単位修得において、16単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(領域及び保育内容の指導法) ②

#### ■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (領域及び保育内容の指導法に関する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分等	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	26	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	16	○ 子どもと健康の指導法	2	2	
				○ 子どもと人間関係の指導法	2	2	
		保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	16	○ 子どもと環境の指導法	2	3	
				○ 子どもと言葉の指導法	2	3	
	26		16	○ 子どもと表現の指導法	2	3	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の単位修得において、16単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教育の基礎的理解に関する科目等)

#### ■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2026年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (教育の基礎的理解に関する科目等)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目	単位数	科目区分等	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	
教育の基礎的理解に関する科目	12	各科目に含めることが必要な事項	10	○ 教育原理	2	1	
				○ 教職入門	2	1	
				※ 教育行政学 →左記2科目から	2	2	
				※ 教育社会学 →1科目選択必修	2	2	
				○ 発達・教育心理学	2	2	
				○ 特別支援	2	1	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	6	教育の方法及び技術	4	○ 教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。)	2	1	
				○ 幼児理解	2	1	
教育実践に関する科目	5	教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	5	○ 幼児教育相談支援	2	3	
				○ 教育実習	1	3	
				○ 教育実習 I (幼・小)	2	3	
				○ 教育実習 II (幼・小)	2	3	
	2	学校体験活動	2	4			
	2	教職実践演習	2	4			
	25		21		23	4	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位修得において、21単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(大学が独自に設定する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(大学が独自に設定する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	
大学が独自に設定する科目	14	大学が独自に設定する科目	14	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」	14		

\* 最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて14単位以上を修得

# 小学校教諭一種

## ● 教職課程の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)

### ■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
単位数	科目区分	単位数	科目区分	授業科目	単位数	必修/選択	
2	日本国憲法	2	○ 日本国憲法	2	1	1	
2	体育	2	○ 健康スポーツ (理論)	1	1	1	
			○ 健康スポーツ (実技)	1	1	1	
2	外国語コミュニケーション	2	○ 英会話 I	1	1	1	
			○ 英会話 II	1	1	1	
2	情報機器の操作	2	○ 情報機器の操作	2	1	1	
8		8		8			

\* 授業科目の○印は必修科目

(教科及び教科の指導法に関する科目) ①

### ■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (教科及び教科の指導法に関する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
単位数	科目区分	単位数	科目区分	授業科目	単位数	必修/選択	
38	教科に関する専門的事項	30	各科目に含めることが必要な事項	○ 言葉の理解	2	1	
				書写演習 (小)	2	2	
				○ 社会の理解	2	1	
				○ 数の理解	2	1	
				○ 自然の理解	2	1	
				○ 生活の理解	2	1	
				○ 音楽の理解	2	1	
				器楽演習 I (鍵盤楽器)	2	1	
				器楽演習 II (鍵盤楽器)	2	2	
				○ 美術の理解	2	1	
				衣食住の理解	2	1	
				○ 運動・健康の理解	2	1	
				○ 外国語の理解	2	1	
				38		30	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得において、30単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教科及び教科の指導法に関する科目) ②

### ■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2022年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (教科及び教科の指導法に関する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
単位数	科目区分	単位数	科目区分	授業科目	単位数	必修/選択	
38	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	30	各科目に含めることが必要な事項	○ 国語科指導法	2	3	
				○ 社会科指導法	2	2	
				○ 算数科指導法	2	2	
				○ 理科指導法	2	3	
				○ 生活科指導法	2	2	
				○ 音楽科指導法	2	2	
				○ 図工科指導法	2	2	
				○ 家庭科指導法	2	2	
				○ 体育科指導法	2	3	
				○ 外国語科指導法	2	2	
				38		30	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得において、30単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教育の基礎的理解に関する科目等)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2026年度以降入学生

学部・学科等の教育課程 (教育の基礎的理解に関する科目等)						
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数 科目	単位数	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		配当年次
		各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数 必修   選択	
教育の基礎的理解に関する科目	12	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	○ 教育原理	2	1
				○ 教職入門	2	1
				※ 教育行政学 →左記2科目から	2	2
				※ 教育社会学 1科目選択必修	2	2
				○ 発達・教育心理学	2	2
				○ 特別支援	2	1
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	10	○ 道徳教育の指導法	2	3
				○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	3
				○ 教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。)	2	1
				○ 生徒指導・進路指導論	2	2
				○ 教育相談の理論と方法	2	3
				○ 教育実習事前事後指導 (幼・小)	1	3
教育実践に関する科目	5	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	5	○ 教育実習 I (幼・小)	2	3
				○ 教育実習 II (幼・小)	2	3
				○ 教職実践演習	2	4
	29		27		27	4

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教育の基礎的理解に関する科目」の単位修得において、27単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(大学が独自に設定する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

学部・学科等の教育課程 (大学が独自に設定する科目)						
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数 科目区分	単位数	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		配当年次
		科目区分	単位数	授業科目	単位数 必修   選択	
大学が独自に設定する科目	2	大学が独自に設定する科目	2	「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」	2	

\* 最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」

「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて2単位以上を修得

(a) 中学校教諭一種 [国語]

● 教職課程の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目			配当
科目	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	年次
施行規則第66条の6に定める科目	2	日本国憲法	2	○ 日本国憲法	2		1
	2	体育	2	○ 健康スポーツ(理論)	1		1
				○ 健康スポーツ(実技)	1		1
	2	外国語コミュニケーション	2	○ 英会話Ⅰ	1		1
	2	情報機器の操作	2	○ 英会話Ⅱ	1		1
				○ 情報機器の操作	2		1
	8		8		8		

\* 授業科目の○印は必修科目

(教科及び教科の指導法に関する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2022年度以降入学生

必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目			配当
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	年次
教科及び教科の指導法に関する科目	38	教科に関する専門的事項	28	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	○ 国語学入門	2	1
					○ 国語学Ⅰ	2	1
					○ 国語学Ⅱ	2	2
					○ 国語学特論	2	4
					○ 語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)	2	2
					○ ことばとコミュニケーション	2	1
					○ 国文学入門	2	1
					○ 国文学Ⅰ	2	1
					○ 国文学Ⅱ	2	2
					○ 国文学特論	2	3
	○ 語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)	2	2				
	○ 文学	2	1				
	○ 漢文学入門	2	1				
	○ 漢文学Ⅰ	2	1				
	○ 漢文学Ⅱ	2	2				
	○ 漢文学特論	2	3				
	○ 語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)	2	2				
	○ 書写・書道入門	2	1				
	○ 書写・書道Ⅰ	2	2				
	○ 書写・書道Ⅱ	2	3				
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			○ 国語科教育法Ⅰ	2	2	
				○ 国語科教育法Ⅱ	2	3	
				○ 国語科教育法Ⅲ	2	3	
				○ 国語科教育法Ⅳ	2	4	
	38		28		38	10	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得において、28単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教育の基礎的理解に関する科目等)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2026年度以降入学生

必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目			配当
科目	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	年次
教育の基礎的理解に関する科目	12	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	○ 教育原理	2	1	
				○ 教職入門	2	1	
				※ 教育行政学 一左記2科目から ※ 教育社会学 1科目選択必修	2	2	
				○ 発達・教育心理学	2	2	
				○ 特別支援	2	1	
				○ 教育課程論	2	3	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	10	○ 道徳教育の指導法	2	3	
				○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	3	
				○ 教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2	1	
				○ 生徒指導・進路指導論	2	2	
				○ 教育相談の理論と方法	2	1	
教育実践に関する科目	5	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	5	○ 教育実習事前事後指導(中・高)	1	3	
				○ 教育実習Ⅰ(中・高)	2	3	
				○ 教育実習Ⅱ(中)	2	3	
				○ 教職実践演習	2	4	
	2		2		27	4	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位修得において、27単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(大学が独自に設定する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (大学が独自に設定する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数 必修   選択		
大学が独自に設定する科目	4	大学が独自に設定する科目	4	「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」	4		

\* 最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位数以上を修得

(b) 中学校教諭一種 [数学]

● 教職課程の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2019年度以降入学生

学部・学科等の教育課程(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)					
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		
	科目	単位数	授業科目	単位数	配当年次
施行規則第66条の6に定める科目	2	日本国憲法	○ 日本国憲法	2	1
	2	体育	○ 健康スポーツ(理論)	1	1
			○ 健康スポーツ(実技)	1	1
	2	外国語コミュニケーション	○ 英会話Ⅰ	1	1
			○ 英会話Ⅱ	1	1
	2	情報機器の操作	○ 情報機器の操作	2	1
	8			8	

\* 授業科目の○印は必修科目

(教科及び教科の指導法に関する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2022年度以降入学生

学部・学科等の教育課程(教科及び教科の指導法に関する科目等)						
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目			
	科目区分	単位数	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数	配当年次
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	36	代数学	○ 代数学基礎	2	1
				○ 代数学A(線形写像)	2	2
				○ 代数学B(群論)	2	2
				○ 代数学Ⅰ(数論)	2	3
				○ 代数学Ⅱ(環と体)	2	3
				○ 応用数学Ⅱ(応用代数学)	2	4
				○ 幾何学基礎	2	1
				○ 幾何学A(集合と位相)	2	2
				○ 幾何学B(位相空間)	2	2
				○ 応用数学Ⅰ(位相幾何)	2	4
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	36	28	解析学	○ 解析学基礎	2	1
				○ 解析学A(テラー展開)	2	2
				○ 解析学B(複素関数)	2	2
				○ 解析学Ⅰ(ルベーグ積分)	2	3
				○ 解析学Ⅱ(関数解析)	2	4
				○ 応用数学Ⅲ(微分方程式)	2	4
				○ 確率・統計基礎	2	2
				○ 確率・統計応用	2	3
				○ コンピュータ基礎	2	1
				○ コンピュータA(アルゴリズム論)	2	2
○ コンピュータB(統計データ分析)	2	3				
教科及び教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	36	28	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	○ 数学科教育法Ⅰ	2	1
				○ 数学科教育法Ⅱ	2	2
				○ 数学科教育法Ⅲ	2	2
				○ 数学科教育法Ⅳ	2	4
				36	14	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教科及び教科の指導法に関する科目等」の単位修得において、28単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教育の基礎的理解に関する科目等)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2026年度以降入学生

学部・学科等の教育課程(教育の基礎的理解に関する科目等)						
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目			
	科目	単位数	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数	配当年次
教育の基礎的理解に関する科目	12	10	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	○ 教育原理	2	1
				○ 教職入門	2	1
				※ 教育行政学 一左記2科目から	2	2
				※ 教育社会学 1科目選択必修	2	2
				○ 発達・教育心理学	2	2
				○ 特別支援	2	1
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	10	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○ 道徳教育の指導法	2	3
				○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	3
				○ 教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2	1
				○ 生徒指導・進路指導論	2	2
				○ 教育相談の理論と方法	2	3
				○ 教育実習事前事後指導(中・高)	1	3
教育実践に関する科目	5	5	教育実習 学校体験活動	○ 教育実習Ⅰ(中・高)	2	3
				○ 教育実習Ⅱ(中)	2	3
				○ 教職実践演習	2	4
	2	2	2	2	4	
	29	27		27	4	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位修得において、27単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(大学が独自に設定する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等 (数学・音楽) 専攻] 2019年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (大学が独自に設定する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数		
					必修	選択	
大学が独自に設定する科目	4	大学が独自に設定する科目	4	「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」	4		

\* 最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得

(c) 中学校教諭一種 [音楽]

● 教職課程の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2019年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数	必修	選択
施行規則第66条の6に定める科目	2	日本国憲法	2	○ 日本国憲法	2		1
	2	体育	2	○ 健康スポーツ(理論)	1		1
	2	外国語コミュニケーション	2	○ 健康スポーツ(実技)	1		1
	2	情報機器の操作	2	○ 英会話Ⅰ	1		1
				○ 英会話Ⅱ	1		1
				○ 情報機器の操作	2		1
	8		8		8		

\* 授業科目の○印は必修科目

(教科及び教科の指導法に関する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2022年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(教科及び教科の指導法に関する科目等)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数	必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	32	ソルフェージュ	28	○ ソルフェージュⅠ	1		2
				○ ソルフェージュⅡ	1		2
		○ キーボードハーモニーⅠ		1		3	
		○ キーボードハーモニーⅡ		1		3	
		音楽表現ⅠA(ピアノ・歌)		2		1	
		音楽表現ⅡA(ピアノ・歌)		2		2	
		音楽実技Ⅰ(日本伝統歌唱を含む)※1		1		2	
		音楽実技Ⅱ(日本伝統歌唱を含む)※2		1		3	
		音楽演奏法演習Ⅰ※3		1		3	
		音楽演奏法演習Ⅱ※4		1		4	
		○ 合唱Ⅰ		1		1	
		○ 合唱Ⅱ		1		2	
		○ 器楽演習ⅠA(ピアノ)		1	左記2科目と「※1」の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	3	
		○ 器楽演習ⅠB(管打)		1		3	
○ 器楽演習ⅡA(ピアノ)	1	左記2科目と「※2」の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	3				
○ 器楽演習ⅡB(管打)	1		3				
○ 器楽特殊演習ⅠA(ピアノ)	1	左記2科目と「※3」の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	4				
○ 器楽特殊演習ⅠB(管打)	1		4				
○ 器楽特殊演習ⅡA(ピアノ)	1	左記2科目と「※4」の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	4				
○ 器楽特殊演習ⅡB(管打)	1		4				
○ 音楽合奏Ⅰ(和楽器を含む)	2		1				
○ 指揮法	2		3				
○ 楽典	2		1				
○ 西洋の音楽史と理論	2		2				
○ 諸民族の音楽(日本伝統音楽を含む)	2		2				
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)					
	32		28		24		16

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教科及び教科の指導法に関する科目等」の単位修得において、28単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教育の基礎的理解に関する科目等)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等 (数学・音楽) 専攻] 2026年度以降入学生

学部・学科等の教育課程 (教育の基礎的理解に関する科目等)						
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数 科目	単位数	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		
		各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数 必修 選択	配当年次
教育の基礎的理解に関する科目	12	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 教育原理	2	1
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		○ 教職入門	2	1
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		※ 教育行政学 一左記2科目から ※ 教育社会学 1科目選択必修	2	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 発達・教育心理学	2	2
		特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援	2	1
教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		○ 教育課程論	2	3		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	道徳の理論及び指導法	10	○ 道徳教育の指導法	2	3
		総合的な学習の時間の指導法		○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	3
		特別活動の指導法				
		教育の方法及び技術		○ 教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。)	2	1
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		○ 生徒指導・進路指導論	2	2
		生徒指導の理論及び方法		○ 教育相談の理論と方法	2	3
教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法						
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
教育実践に関する科目	5	教育実習	5	○ 教育実習事前事後指導 (中・高)	1	3
				○ 教育実習Ⅰ (中・高)	2	3
				○ 教育実習Ⅱ (中)	2	3
	2	学校体験活動				
	2	教職実践演習	2	4		
	29		27	4		

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位修得において、27単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(大学が独自に設定する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等 (数学・音楽) 専攻] 2019年度以降入学生

学部・学科等の教育課程 (大学が独自に設定する科目)						
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数 科目区分	単位数	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		
		科目区分	単位数	授業科目	単位数 必修 選択	配当年次
大学が独自に設定する科目	4	大学が独自に設定する科目	4	音楽表現ⅠB (リズム&ダンス)	2	1
				音楽表現ⅡB (リズム&ダンス)	2	2
				身体表現演習Ⅰ	1	3
				身体表現演習Ⅱ	1	3
				身体表現特殊演習Ⅰ	1	4
				身体表現特殊演習Ⅱ	1	4

\* 「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は

「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上

(a) 高等学校教諭一種 [国語]

● 教職課程の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	授業科目	単位数	必修   選択	
施行規則第66条の6に定める科目	2	日本国憲法	2	○ 日本国憲法	2	1	1
	2	体育	2	○ 健康スポーツ（理論） ○ 健康スポーツ（実技）	1	1	1
	2	外国語コミュニケーション	2	○ 英会話Ⅰ ○ 英会話Ⅱ	1	1	1
	2	情報機器の操作	2	○ 情報機器の操作	2	1	1
	8		8		8		

\* 授業科目の○印は必修科目

(教科及び教科の指導法に関する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2022年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程（教科及び教科の指導法に関する科目等）		左記に対応する開設授業科目			配当年次					
科目区分	単位数	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	必修   選択						
教科及び教科の指導法に関する科目	32	教科に関する専門的事項	24	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	○ 国語学入門	2	1					
				国文学（国文学史を含む。）	○ 国語学Ⅰ ○ 国語学Ⅱ ○ 国語学特論	2	2	2				
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	漢文学	○ 語学・文学総合演習Ⅰ（国語学）	2	2	2					
				○ ことばとコミュニケーション ○ 国文学入門 ○ 国文学Ⅰ ○ 国文学Ⅱ ○ 国文学特論	2	2	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	○ 国文学特論 ○ 語学・文学総合演習Ⅱ（国文学） ○ 文学 ○ 漢文学入門 ○ 漢文学Ⅰ ○ 漢文学Ⅱ ○ 漢文学特論 ○ 語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	32		24			32	10					

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得において、24単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教育の基礎的理解に関する科目等)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2026年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程（教育の基礎的理解に関する科目等）		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目	単位数	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	必修   選択	
教育の基礎的理解に関する科目	12	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	10	○ 教育原理	2	1	
				○ 教職入門	2	1	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	総合的な探究の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	8	※ 教育行政学 一左記2科目から ※ 教育社会学 1科目選択必修	2	2	
				○ 発達・教育心理学	2	2	
				○ 特別支援	2	1	
				○ 教育課程論	2	3	
教育実践に関する科目	3	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	3	○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	3	
				○ 教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む。）	2	1	
				○ 生徒指導・進路指導論	2	2	
	2		2		2	3	
	25		23		23	4	

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位修得において、23単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(大学が独自に設定する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2019年度以降入学生

本学における免許状取得に 必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程 (大学が独自に設定する科目)		左記に対応する開設授業科目		
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数 必修   選択	配当 年次
大学が独自に設定する科目	12	大学が独自に設定する科目	12	道徳教育の指導法B (中等)	2	3

\* 「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位数以上を修得

(b) 高等学校教諭一種 [数学]

● 教職課程の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2019年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)		左記に対応する開設授業科目		配当年次
科目	単位数	免状法施行規則に定める科目区分等	単位数	授業科目	単位数	
施行規則第66条の6に定める科目	2	日本国憲法	2	○ 日本国憲法	2	1
	2	体育	2	○ 健康スポーツ(理論)	1	1
	2	外国語コミュニケーション	2	○ 健康スポーツ(実技)	1	1
	2	情報機器の操作	2	○ 英会話Ⅰ	1	1
				○ 英会話Ⅱ	1	1
				○ 情報機器の操作	2	1
	8		8		8	

\* 授業科目の○印は必修科目

(教科及び教科の指導法に関する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2022年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(教科及び教科の指導法に関する科目等)		左記に対応する開設授業科目		配当年次
科目区分	単位数	免状法施行規則に定める科目区分等	単位数	授業科目	単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	32	教科に関する専門的事項	24	○ 代数学基礎	2	1
				○ 代数学A(線形写像)	2	2
				○ 代数学B(群論)	2	2
				代数学Ⅰ(数論)	2	3
				代数学Ⅱ(環と体)	2	3
				応用数学Ⅱ(応用代数学)	2	4
				○ 幾何学基礎	2	1
				○ 幾何学A(集合と位相)	2	2
				○ 幾何学B(位相空間)	2	2
				○ 幾何学Ⅰ(位相幾何)	2	4
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	32	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	24	○ 解析学基礎	2	1
				○ 解析学A(テラー展開)	2	2
				○ 解析学B(複素関数)	2	2
				解析学Ⅰ(ルベグ積分)	2	3
				解析学Ⅱ(関数解析)	2	4
				応用数学Ⅲ(微分方程式)	2	4
				○ 確率・統計基礎	2	2
				○ 確率・統計応用	2	3
				○ コンピュータ基礎	2	1
				○ コンピュータA(アルゴリズム論)	2	2
○ コンピュータB(統計データ分析)	2	3				
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	32	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	24	○ 数学科教育法Ⅰ	2	1
				○ 数学科教育法Ⅱ	2	2
				○ 数学科教育法Ⅲ	2	2
				○ 数学科教育法Ⅳ	2	4
					32	18

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教科及び教科の指導法に関する科目等」の単位修得において、24単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教育の基礎的理解に関する科目等)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [人間教育学専攻] 2026年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(教育の基礎的理解に関する科目等)		左記に対応する開設授業科目		配当年次
科目	単位数	免状法施行規則に定める科目区分等	単位数	授業科目	単位数	
教育の基礎的理解に関する科目	12	各科目に含めることが必要な事項	10	○ 教育原理	2	1
				○ 教職入門	2	1
				※ 教育行政学 →左記2科目から	2	2
				※ 教育社会学 1科目選択必修	2	2
				○ 発達・教育心理学	2	2
				○ 特別支援	2	1
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	総合的な探究の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	8	○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	3
				○ 教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2	1
				○ 生徒指導・進路指導論	2	2
				○ 教育相談の理論と方法	2	3
教育実践に関する科目	3	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	3	○ 教育実習事前事後指導(中・高)	1	3
				○ 教育実習Ⅰ(中・高)	2	3
				○ 教職実践演習	2	4
					25	23

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位修得において、23単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(大学が独自に設定する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2019年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(大学が独自に設定する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数		
					必修	選択	
大学が独自に設定する科目	12	大学が独自に設定する科目	12	道徳教育の指導法B(中等)		2	3

\* 「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位数以上を修得

(c) 高等学校教諭一種 [音楽]

● 教職課程の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2019年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)		左記に対応する開設授業科目		単位数	必修	選択	配当年次
単位数	科目区分	単位数	科目区分	授業科目	単位数				
2	日本国憲法	2	2	○ 日本国憲法	2	1			1
				○ 健康スポーツ(理論)	1	1		1	
				○ 健康スポーツ(実技)	1	1		1	
				○ 英会話Ⅰ	1	1		1	
2	外国語コミュニケーション	2	2	○ 英会話Ⅱ	1	1		1	
				○ 情報機器の操作	2	2		1	
8		8			8				

\* 授業科目の○印は必修科目

(教科及び教科の指導法に関する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2022年度以降入学生

必要最低単位数		学部・学科等の教育課程(教科及び教科の指導法に関する科目等)		左記に対応する開設授業科目		単位数	必修	選択	配当年次
単位数	科目区分	単位数	科目区分	授業科目	単位数				
28	教科に関する専門的事項	28	24	ソルフェージュ	○ ソルフェージュⅠ	1			2
					○ ソルフェージュⅡ	1			2
					○ キーボードハーモニーⅠ	1			3
					○ キーボードハーモニーⅡ	1			3
					音楽表現ⅠA(ピアノ・歌)	2			1
					音楽表現ⅡA(ピアノ・歌)	2			2
					音楽実技Ⅰ(日本伝統歌唱を含む)※1	1			2
					音楽実技Ⅱ(日本伝統歌唱を含む)※2	2			1
					音楽演奏法演習Ⅰ※3	1			3
					音楽演奏法演習Ⅱ※4	1			4
					○ 合唱Ⅰ	1			1
					○ 合唱Ⅱ	1			2
					音楽演習ⅠA(ピアノ) 左記2科目と1※1の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	1			3
					音楽演習ⅠB(電打) 左記2科目と1※2の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	1			3
	音楽演習ⅡA(ピアノ) 左記2科目と1※3の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	1			3				
	音楽演習ⅡB(電打) 左記2科目と1※4の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	1			3				
	音楽特殊演習ⅠA(ピアノ) 左記2科目と1※3の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	1			4				
	音楽特殊演習ⅠB(電打) 左記2科目と1※4の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	1			4				
	音楽特殊演習ⅡA(ピアノ) 左記2科目と1※3の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	1			4				
	音楽特殊演習ⅡB(電打) 左記2科目と1※4の科目を含む3科目から最低1科目1単位選択必修	1			4				
	○ 音楽合奏Ⅰ(和楽器を含む)	2			1				
	○ 指揮法	2			3				
	○ 楽典	2			1				
	○ 西洋の音楽史と理論	2			2				
	○ 諸民族の音楽(日本伝統音楽を含む)	2			2				
	○ 音楽科教育法Ⅰ	2			1				
	○ 音楽科教育法Ⅱ	2			2				
	音楽科教育法Ⅲ				2				
	音楽科教育法Ⅳ				4				
28		28	24		20	20			

\* 授業科目の○印は必修科目

\* 「教科及び教科の指導法に関する科目等」の単位修得において、24単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(教育の基礎的理解に関する科目等)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2026年度入学生

本学における免許状取得に必要な最低単位数		学部・学科等の教育課程(教育の基礎的理解に関する科目等)		左記に対応する開設授業科目			配当年次	
科目	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数	必修/選択		
教育の基礎的理解に関する科目	12	各科目に含めることが必要な事項	10	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	○ 教育原理	2	1	
				教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	○ 教職入門	2	1	
				教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	※ 教育行政学 一左記2科目から		2	2
				幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	※ 教育社会学 1科目選択必修		2	2
				特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解	○ 発達・教育心理学	2	2	
				教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを)	○ 特別支援	2	1	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	総合的な探究の時間の指導法 特別活動の指導法	8	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	3	
				情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	○ 教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2	1	
				生徒指導の理論及び方法	○ 生徒指導・進路指導論	2	2	
				教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	○ 教育相談の理論と方法	2	3	
				進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
教育実践に関する科目	3	教育実習	3	○ 教育実習事前事後指導(中・高)	1	3		
		学校体験活動		○ 教育実習Ⅰ(中・高)	2	3		
		教職実践演習	2	○ 教職実践演習	2	4		
	25		23		23	4		

- \* 授業科目の○印は必修科目
- \* 「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位修得において、2.3単位を超えた単位数は、「大学が独自に設定する科目」に含めることができる

(大学が独自に設定する科目)

■ 人間教育学部 人間教育学科 [中等(数学・音楽)専攻] 2019年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な最低単位数		学部・学科等の教育課程(大学が独自に設定する科目)		左記に対応する開設授業科目			配当年次
科目区分	単位数	科目区分	単位数	授業科目	単位数	必修/選択	
大学が独自に設定する科目	12	大学が独自に設定する科目	12	道徳教育の指導法B(中等)		2	3
				音楽表現ⅠB(リズム&ダンス)		2	1
				音楽表現ⅡB(リズム&ダンス)		2	2
				身体表現演習Ⅰ		1	3
				身体表現演習Ⅱ		1	3
				身体表現特殊演習Ⅰ		1	4
				身体表現特殊演習Ⅱ		1	4

- \* 「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて1.2単位以上修得



## 15. 保育士養成課程

### (1) 保育士養成課程の概要

本学の保育士養成課程は、人間教育学部人間教育学科に定員20名の課程として2016年度に設置されました。本学の保育士養成課程を修了し、都道府県知事より保育士証の交付を受け、かつ保育士登録事務処理センターで登録申請し、保育士として登録されることにより、保育士として活躍することができます。本学保育士養成課程では、保育士として働く意志を持ち、乳幼児を保育・教育する人としてふさわしい教養や人的資質を、一生を通じて養っていくことができる資質を育成することを目指していきます。

### (2) 保育士資格の取得要件

- ・学士の学位を有すること。
- ・保育士資格取得に必要な必修科目51単位、選択必修科目18単位以上、教養科目10単位以上を修得すること。

### (3) 保育士養成課程の科目の履修要件

1年次の後期期間中に保育士養成課程志願書を提出してください。登録希望者が40名を超えた場合は選考の上、登録許可者を決定します。尚、40名以下であっても面談は行います。

保育士養成課程に関する説明会、保育士養成課程志願書の提出期間及び選考や面談に関する日時等は、別途案内します。

保育士養成課程の科目は保育士養成課程を登録許可された学生に限り履修することができますが、保育実習科目及び保育実践演習を除いて、支障のない限り、保育士養成課程登録を行っていない人間教育学部生でも履修することができます。

### (4) 保育士養成課程登録者の選考方法

選考が行われる場合の選考方法は、以下の2点です。

- ① 1年次の累積GPA。ただし1年次履修単位が30単位未満の学生は、対象外とします。
- ② 面接

### (5) 保育実習について

#### ①実習科目

##### a. 必修科目

- ・「保育所実習Ⅰ」は原則として3年次の8月～9月上旬に、保育所において12日間（80時間以上）実施される観察実習です。
- ・「施設実習Ⅰ」は原則として3年次の11月～12月に、保育所以外の児童福祉施設等において10日間（80時間）実施される観察実践実習です。
- ・「保育所実習Ⅱ」は原則として3年次の2月～3月に、保育所において行われる実践実習です。

##### b. 選択科目

- ・「施設実習Ⅱ」は、保育所以外の児童福祉施設等で行われる実践実習です。

#### ②事前・事後指導科目

「保育所実習Ⅰ」は「保育所実習指導Ⅰ」、「施設実習Ⅰ」は「施設実習指導Ⅰ」、「保育所実習Ⅱ」は「保育所実習指導Ⅱ」、「施設実習Ⅱ」は「施設実習指導Ⅱ」において、それぞれの実習科目の事前・事後指導を行います。実習指導科目とそれに対応する実習科目はセットで履修登録する必要があります。

#### ③保育実習履修のための条件

保育実習を履修するためには、以下の条件をすべて満たしておく必要があります。

- ・当該実習科目が開講される前の期のGPAが2.0以上であること。
- ・当該実習科目が開講される前の期までに開講された保育士養成課程の科目のうち、8割以上の単位が取得できていること。

(6) 保育士養成課程の科目

(教養科目)

■ 人間教育学部人間教育学科 2025年度以降入学生

本学における必要最低単位数	告示による教科目	単位数	左記に対応する開設授業科目			配当年次
			授業科目	単位数		
			必修	選択		
外国語、体育以外の科目	外国語、体育以外の科目	6	○ 日本国憲法	2		1
			○ 情報機器の操作	2		1
			○ 文学		2	1
			○ 音楽の世界		2	1
			○ 数学の世界		2	1
			○ データの世界		2	1
			○ キャリアデザイン		1	2
			○ キャリアディベロップメント		1	2
			○ キャリアスキルアップⅠ		1	3
			○ キャリアスキルアップⅡ		1	3
外国語	外国語	2	○ 英会話Ⅰ	1		1
			○ 英会話Ⅱ	1		1
			○ 中国語基礎		1	1
			○ 中国語会話		1	1
			○ ス페인語基礎		1	1
体育	体育	2	○ 健康スポーツ (理論)	1		1
			○ 健康スポーツ (実技)	1		1
			8	16		

\* 授業科目の○印は必修科目

(告示別表第1による教科目)

■ 人間教育学部人間教育学科 2022年度以降入学生

本学における必要最低単位数	告示による教科目	単位数	左記に対応する開設授業科目			配当年次
			授業科目	単位数		
			必修	選択		
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	14	○ 保育原理	2		2
	教育原理		○ 教育原理	2		1
	子ども家庭福祉		○ 子ども家庭福祉	2		3
	社会福祉		○ 社会福祉	2		1
	子ども家庭支援論		○ 子ども家庭支援論	2		3
	社会的養護Ⅰ		○ 社会的養護Ⅰ	2		2
	保育者論		○ 保育者論	2		1
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	9	○ 保育の心理学	2		2
	子ども家庭支援の心理学		○ 子ども家庭支援の心理学	2		3
	子どもの理解と援助		○ 子どもの理解と援助	1		3
	子どもの保健		○ 子どもの保健	2		3
	子どもの食と栄養		○ 子どもの食と栄養	2		2
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	2	○ 保育の計画と評価	2		2
	保育内容総論	1	○ 保育内容総論	2		1
	保育内容演習	5	○ 子どもと健康	2		1
			○ 子どもと人間関係	2		1
			○ 子どもと環境	2		1
			○ 子どもと言葉	2		1
	保育内容の理解と方法	4	○ 子どもと表現 (体育)	2		1
			○ 子どもと表現 (図工)	2		1
			○ 子どもと表現 (音楽)	2		1
	乳児保育Ⅰ	2	○ 乳児保育Ⅰ	2		2
	乳児保育Ⅱ	1	○ 乳児保育Ⅱ	1		2
子どもの健康と安全	1	○ 子どもの健康と安全	1		3	
障害児保育	2	○ 障害児保育	2		3	
社会的養護Ⅱ	1	○ 社会的養護Ⅱ	1		2	
子育て支援	1	○ 子育て支援	1		3	
保育実習	保育実習Ⅰ	4	○ 保育所実習Ⅰ	2/4		3
	○ 施設実習Ⅰ	2/4			3	
保育実習指導Ⅰ	2	○ 保育所実習指導Ⅰ	1		3	
		○ 施設実習指導Ⅰ	1		3	
総合演習	保育実践演習	2	○ 保育実践演習	2		4
			57			

\* 授業科目の○印は必修科目

(告示別表第2による教科目)

■ 人間教育学部人間教育学科 2026年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当年次	
	単位数	科目	単位数	授業科目			
保育の本質・目的に関する科目	20	保育の本質・目的に関する科目	15	○ 教職入門	2	2	1
				○ 教育行政学	2		2
保育の対象の理解に関する科目	20	保育の対象の理解に関する科目	15	○ 人間教育学	2	2	1
				○ 発達・教育心理学	2		2
保育の内容・方法に関する科目	20	保育の内容・方法に関する科目	15	○ 幼児理解	2	2	1
				○ 教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2		1
				○ 子どもと健康の指導法	2		2
				○ 子どもと人間関係の指導法	2		2
				○ 子どもと環境の指導法	2		3
				○ 子どもと言葉の指導法	2		3
				○ 子どもと表現の指導法	2		3
保育実習	3	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	3	○ 保育所実習Ⅱ	2	2	3
		保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	3	○ 施設実習Ⅱ	1		4
	23		18	○ 保育所実習指導Ⅱ	1	1	3
				○ 施設実習指導Ⅱ			4
					23	5	

\* 授業科目の○印は必修科目

(保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目)

■ 人間教育学部人間教育学科 2020年度以降入学生

本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当年次	
	単位数	科目	単位数	授業科目			
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている科目		保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている科目		衣食住の理解	2	2	1
				ことばとコミュニケーション	2		1
				生活科指導法	2		2
				家庭科指導法	2		2
				体育科指導法	2		3
					10		

## 16. 学校図書館司書教諭

### (1) 学校図書館司書教諭の概要

学校図書館司書教諭とは、小学校、中学校及び高等学校に設置された学校図書館の専門的職務を行う、学校図書館法で定められた資格です（学校図書館法第5条）。

学校図書館司書教諭は、教科等の免許を持った教員が、さらに専門性を身につけたという付加資格であることから、この資格の修了証書取得を希望する場合は、教育職員免許状(小一種・中一種・高一種)の免許取得が前提となります。

### (2) 学校図書館司書教諭資格の取得要件

学校図書館法および学校図書館司書教諭講習規程に基づき、本学においても学校図書館司書教諭講習規程第3条に定める科目に相当する授業科目を設置しています。

学校図書館司書教諭の資格を取得するためには、次の条件を満たすことが必要です。

ただし、学校図書館司書教諭の資格は、所持する教員免許状について効力があるものなので、教員免許状を所持しなければ、資格を取得したことにはなりません。また、学校図書館司書教諭修了書は在学中に申込みを行います。取得は卒業してから1年後となります。

- ① 卒業時に教育職員免許状の授与を受けるか、大学に2年以上在学して62単位以上修得すること。
- ② 学校図書館司書教諭講習規程第3条に定める科目に相当する授業科目の単位を修得すること。
- ③ 所定の学校図書館司書教諭講習修了申請手続きを行うこと。

### (3) 学校図書館司書教諭講習規程に相当する授業科目

学校図書館司書教諭講習規程の科目	単位	左記に相当する本学授業科目	単位	配当年次
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	4
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	4
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	4
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	4
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	4
計	10	計	10	

### (4) 学校図書館司書教諭講習修了証書取得までの流れ

「修了証書」の申請は大学から一括で行います。大学から指示された申請申込書類（仮）に必要な事項を記入の上、期限内に教務課へ提出してください。

※申請手続きには手数料が必要となります。手数料等については、申請時に改めて連絡しますので、掲示等で必ず確認してください。



手続き完了後「学校図書館司書教諭講習修了書」が自宅に送付されます。

※学校図書館司書教諭講習修了書は在学中に申込みを行います。取得は卒業してから1年後となります。

# 17. 人間教育学部 人間教育学科 授業科目表

## ■ 2026年度入学生 人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻 授業科目表 <乳幼児教育専修>

### I. 共通教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許			授業形態			履修区分 卒業要件
			1年		2年		3年		4年		幼稚園	特別支援	保育士	講義	演習	実験・実習	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
共通教育科目	英語 I	1	○		○		○		○					○			26 単 位 以 上
	英語 II	1	○		○		○		○					○			
	英会話 I	1	◎		◎		◎		◎		●		▲		○		
	英会話 II	1		◎		◎		◎		◎	●		▲		○		
	中国語基礎	1	○		○		○		○					○			
	中国語会話	1	○		○		○		○					○			
	スペイン語基礎	1	○		○		○		○					○			
	スペイン語会話	1	○		○		○		○					○			
	日本語 I	1	○		○		○		○					○			
	日本語 II	1	○		○		○		○					○			
	日本語表現 I	1	○		○		○		○					○			
	日本語表現 II	1	○		○		○		○					○			
	日本語表現 III	1	○		○		○		○					○			
	日本語表現 IV	1	○		○		○		○					○			
	文学	2	○		○		○		○					○			
	哲学	2	○		○		○		○					○			
	倫理学	2	○		○		○		○					○			
	心理学	2	○		○		○		○					○			
	文化人類学	2	○		○		○		○					○			
	音楽の世界	2	○		○		○		○					○			
	社会学	2	○		○		○		○					○			
	日本国憲法	2		◎		◎		◎		◎	●		▲	○			
	歴史学	2	○		○		○		○					○			
	地理学	2	○		○		○		○					○			
	数学の世界	2	○		○		○		○					○			
	自然科学の基礎	2	○		○		○		○					○			
	環境化学の基礎	2	○		○		○		○					○			
	健康スポーツ(理論)	1	◎		◎		◎		◎		●		▲	○			
	健康スポーツ(実技)	1		◎		◎		◎		◎	●		▲	○			
	バラスポーツ指導論	1	○		○		○		○					○			
	スポーツ実技 I	1	○		○		○		○						○		
	スポーツ実技 II	1	○		○		○		○						○		
共生 教養 科目	共生と社会	2	○		○		○		○					○			
	人権論	2	○		○		○		○					○			
	ボランティア活動	2	○		○		○		○					○			
	生活と環境	2	○		○		○		○					○			
	暮らしと地域社会	2	○		○		○		○					○			
国際 科目 奈良	地域と安全	1												○			
	奈良学	2	○		○		○		○					○			
	けいはんな学研都市学	1	○		○		○		○					○			
	異文化コミュニケーション	2	○		○		○		○					○			
情報 教養 科目	国際事情	2	○		○		○		○					○			
	情報機器の操作	2	◎		◎		◎		◎	●		▲	○				
	情報倫理とセキュリティ	2	○		○		○		○					○			
	データの世界	2	○		○		○		○					○			
	CGの基礎と演習	2	○		○		○		○					○			
形 成 課 目	情報と分析	2	○		○		○		○					○			
	キャリアデザイン	1			○								△	○			
	キャリアディベロップメント	1			○								△	○			
	キャリアスキルアップ I	1				○							△	○			
	キャリアスキルアップ II	1					○						△	○			
インターンシップ	2						○						○				

II. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目			授業形態			履修区分 卒業要件	
			1年		2年		3年		4年		幼稚園 教員免許	特別 支援	保育士	講義	演習	実験・ 実習		
			前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期								通年
基礎科目	発達・教育心理学	2				○						●		▲	○			
	保育の心理学	2				○								▲	○			
	子どもの理解と援助	1								○				▲	○			
	子ども家庭支援の心理学	2								○				▲	○			
	教育行政学	2				○						◎1		△	○			
	教育社会学	2				○						◎2		○				
	教職入門	2	○									●		▲	○			
	社会福祉	2	○											▲	○			
	幼児理解	2	○									●		▲	○			
	保育者論	2		○										▲	○			
	教育原理	2		○								●		▲	○			
	保育原理	2				○								▲	○			
	幼児教育課程総論	2		○								●		▲	○			
	保育の計画と評価	2				○								▲	○			
	保育内容総論	2	○									●		▲	○			
	子どもと健康	2		○								●		▲	○			
	子どもと人間関係	2		○								●		▲	○			
	子どもと環境	2	○									●		▲	○			
	子どもと言葉	2	○									●		▲	○			
	子どもと表現(体育)	2	○									●		▲	○			
	子どもと表現(図工)	2		○								●		▲	○			
	子どもと表現(音楽)	2		○								●		▲	○			
	衣食住の理解	2	○											△	○			
	器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	2	○												○			
	器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)	2				○									○			
食の心理	2				○									○				
人間教育 する学 の基礎に 関する理 解	人間教育学	2	◎											▲	○			
	ことばとコミュニケーション	2		○										△	○			
	教育と日本の伝統文化	2				○								○				
	英米文学	2				○								○				
	言語学概論	2								○				○				
	社会言語学	2								○				○				
	日本事情	2						○						○				
教育経営・ 現代教育・ に関する理 解	現代教育課題A(不登校・いじめ)	2						○						○				
	現代教育課題B(特別支援)	2						○						○				
	現代教育課題C(学校と安全)	2						○						○				
	現代教育課題D(学校における異文化理解)	2						○						○				
	幼児教育相談支援	2						○				●		○				
	子ども家庭支援論	2						○						▲	○			
	子育て支援	1						○						▲	○			
	子ども家庭福祉	2						○						▲	○			
	社会的養護Ⅰ	2				○								▲	○			
	社会的養護Ⅱ	1				○								▲	○			
	乳児保育Ⅰ	2				○								▲	○			
	乳児保育Ⅱ	1				○								▲	○			
	障害児保育	2						○						▲	○			
	子どもの保健	2						○						▲	○			
	子どもの健康と安全	1							○					▲	○			
	子どもの食と栄養	2					○							▲	○			
	特別支援	2		○								●		○				
	教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2		○								●		▲	○			
	教育実践 の理解	ICT教材研究	2				○								○			
		子どもと健康の指導法	2				○						●		○			
子どもと人間関係の指導法		2				○						●		○				
子どもと環境の指導法		2						○				●		○				
子どもと言葉の指導法		2						○				●		○				
子どもと表現の指導法		2						○				●		○				
生活科指導法		2					○							△	○			
器楽・歌唱の指導法		2							○						○			
家庭科指導法		2				○								△	○			
体育科指導法		2						○						△	○			
体育実技の指導法		2							○						○			

II. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目			授業形態			履修区分 卒業要件	
			1年		2年		3年		4年		幼稚園	特別支援	保育士	講義	演習	実験・実習		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
専門科目 発展科目	特別支援教育総論	2	○											○				
	知的障害者の心理	2			○									○				
	知的障害者の生理・病理	2			○									○				
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2			○									○				
	病弱者の心理・生理・病理	2				○								○				
	発達障害者の心理	2				○								○				
	知的障害者教育課程論と指導論	2				○								○				
	肢体不自由者教育課程論と指導論	2				○								○				
	病弱者教育課程論と指導論	2					○							○				
	障害の検査と評価	2					○							○				
	重度・重複障害者教育課程論と指導論	2						○						○				
	視覚障害者教育総論	2						○						○				
	聴覚障害者教育総論	2							○					○				
	発達障害者教育総論	2								○				○				
専門科目 キャリア教育	教職表現力演習	2		○											○			
	保育表現力演習	2			○										○			
	人間教育実践力開発演習Ⅰ	2		○											○			
	人間教育実践力開発演習Ⅱ	2			○										○			
専門科目 演習実習科目	保育所実習Ⅰ	2						○						▲			○	
	保育所実習指導Ⅰ	1						○						▲			○	
	施設実習Ⅰ	2						○						▲			○	
	施設実習指導Ⅰ	1						○						▲			○	
	保育所実習Ⅱ	2						○						▲			○	
	保育所実習指導Ⅱ	1						○						▲			○	
	施設実習Ⅱ	2							○					△			○	
	施設実習指導Ⅱ	1							○					△			○	
	教育実習事前事後指導(幼・小)	1								◎								○
	教育実習Ⅰ(幼・小)	2								◎								○
	教育実習Ⅱ(幼・小)	2								◎								○
	特別支援教育実習(事前事後指導1単位含む)	3									○			●				○
	保育実践演習	2									○			▲				○
	教職実践演習	2									◎							○
専門科目 ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2		◎														○
	基礎ゼミナールⅡ	2			◎													○
	人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)	4								◎								○
	人間教育学ゼミナールⅡ(応用)	4									◎							○
	卒業研究	4										○						○
関連科目 学校図書館司書	学校経営と学校図書館	2							○					○				
	学校図書館メディアの構成	2							○					○				
	学習指導と学校図書館	2							○					○				
	読書と豊かな人間性	2							○					○				
	情報メディアの活用	2						○						○				

※「器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)」は「器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)」を修得又は履修した者のみが履修できる。

註1 「配当年次」欄の「◎」は卒業必修科目、「○」は卒業選択科目を表す。

註2 「資格要件科目」欄の「●」は免許必修科目、「◎」は免許選択必修科目、「○」は免許選択科目を表す。

註3 「資格要件科目」欄の「▲」は保育士資格必修科目、「△」は保育士資格選択科目を表す。

註4 【卒業要件単位 124単位】

- ① 共通教育科目26単位以上(必修8単位を含む)
- ② 専門科目のうち、基礎科目32単位以上
- ③ 専門科目のうち、発展科目47単位以上
- ④ 専門科目のうち、演習実習科目19単位以上

■ 2026年度入学生 人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻 授業科目表 <小学校専修>

I. 共通教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件	
			1年		2年		3年		4年		小学校	特別支援	講義	演習	実験・実習		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
共通教育科目	英語 I	1	○		○		○		○					○			26 単 位 以 上
	英語 II	1		○		○		○					○				
	英会話 I	1	◎		◎		◎		◎		●			○			
	英会話 II	1		◎		◎		◎		◎	●			○			
	中国語基礎	1	○		○		○		○				○				
	中国語会話	1	○	○	○	○	○	○	○	○				○			
	スペイン語基礎	1	○		○		○		○				○				
	スペイン語会話	1	○	○	○	○	○	○	○	○				○			
	日本語 I	1	○		○		○		○				○				
	日本語 II	1		○		○		○		○			○				
	日本語表現 I	1	○		○		○		○					○			
	日本語表現 II	1		○		○		○		○				○			
	日本語表現 III	1	○		○		○		○					○			
	日本語表現 IV	1		○		○		○		○				○			
	文学	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	哲学	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	倫理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	心理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	文化人類学	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	音楽の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	社会学	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	日本国憲法	2		◎		◎		◎		◎	●		○				
	歴史学	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	地理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	数学の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	自然科学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	環境化学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	健康スポーツ(理論)	1	◎		◎		◎		◎		●		○				
	健康スポーツ(実技)	1		◎		◎		◎		◎	●			○			
	バラスポーツ指導論	1	○	○	○	○	○	○	○	○				○			
スポーツ実技 I	1	○		○		○		○						○			
スポーツ実技 II	1		○		○		○		○					○			
共生 教育 科目	共生と社会	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
	人権論	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
	ボランティア活動	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
	生活と環境	2	○	○	○	○	○	○	○								
	暮らしと地域社会	2		○		○		○		○							
地域と安全	1				○		○		○			○					
国際 科目 奈良 学	奈良学	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
	けいはんな学研都市学	1	○		○		○		○			○					
	異文化コミュニケーション	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
	国際事情	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
情報 教育 科目	情報機器の操作	2	◎		◎		◎		◎	●		○					
	情報倫理とセキュリティ	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
	データの世界	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
	CGの基礎と演習	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
	情報と分析	2	○	○	○	○	○	○	○			○					
形 成 課 目 ア	キャリアデザイン	1			○								○				
	キャリアディベロップメント	1			○								○				
	キャリアスキルアップ I	1				○							○				
	キャリアスキルアップ II	1					○						○				
	インターンシップ	2					○						○				

II. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件	
			1年		2年		3年		4年		小学校	特別支援	講義	演習	実験・実習		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎科目	発達・教育心理学	2			○						●		○				32 単 位 以 上
	教育行政学	2			○						◎1		○				
	教育社会学	2			○						◎2		○				
	教職入門	2	○								●		○				
	教育原理	2		○							●		○				
	言葉の理解	2		○							●		○				
	社会の理解	2		○							●		○				
	数の理解	2		○							●		○				
	自然の理解	2	○								●		○				
	生活の理解	2		○							●		○				
	音楽の理解	2	○								●		○				
	美術の理解	2	○								●		○				
	衣食住の理解	2	○								○		○				
	運動・健康の理解	2		○							●		○				
	外国語の理解	2	○								●		○				
	書写演習(小)	2				○					○			○			
	器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	2	○								○				○		
	器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)	2				○					○				○		
	食の心理	2				○							○				
	人間教育 する学 の基礎 に	人間教育学	2	◎										○			
教育と日本の伝統文化		2			○								○				
言語学概論		2							○				○				
社会言語学		2						○					○				
日本事情		2				○							○				
英米文学		2				○							○				
専門科目	現代教育課題A(不登校・いじめ)	2						○					○				47 単 位 以 上
	現代教育課題B(特別支援)	2						○					○				
	現代教育課題C(学校と安全)	2						○					○				
	現代教育課題D(学校における異文化理解)	2								○			○				
	教育相談の理論と方法	2								○			○				
	特別支援	2		○							●		○				
	教育課程論	2						○			●		○				
	道徳教育の指導法	2						○			●		○				
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2							○		●		○				
	教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2		○							●		○				
	ICT教材研究	2				○									○		
	生徒指導・進路指導論	2				○					●		○				
	国語科指導法	2					○				●		○				
	社会科指導法	2				○					●		○				
	算数科指導法	2				○					●		○				
	理科指導法	2						○			●		○				
	生活科指導法	2					○				●		○				
	音楽科指導法	2					○				●		○				
	器楽・歌唱の指導法	2							○					○			
	図工科指導法	2									●		○				
	家庭科指導法	2				○					●		○				
	体育科指導法	2						○			●		○				
	体育実技の指導法	2							○					○			
	外国語科指導法	2					○				●		○				
	特別支援教育総論	2	○									●	○				
	知的障害者の心理	2			○							●	○				
	声楽実技Ⅱ(日本伝統歌唱を含む)	2			○							●	○				
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2			○							●	○				
	病弱者の心理・生理・病理	2				○						●	○				
	発達障害者の心理	2										○	○				
	知的障害者教育課程論と指導論	2					○					●	○				
	肢体不自由者教育課程論と指導論	2					○					●	○				
	病弱者教育課程論と指導論	2						○				●	○				
	障害の検査と評価	2							○			●	○				
	重度・重複障害者教育課程論と指導論	2								○		●	○				
	視覚障害者教育総論	2							○			●	○				
聴覚障害者教育総論	2								○		●	○					
発達障害者教育総論	2								○		●	○					
キャリア 教育 形成	教職表現力演習	2		○										○			
	人間教育実践力開発演習Ⅰ	2		○										○			
	人間教育実践力開発演習Ⅱ	2				○								○			
	人間教育実践力開発演習Ⅲ	2						○						○			
	人間教育実践力開発演習Ⅳ	2								○				○			

Ⅱ. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件	
			1年		2年		3年		4年		小学校	特別支援	講義	演習	実習・実験		
			前	後	前	後	前	後	前	後							
専門科目 演習実習科目	教育実習事前事後指導(幼・小)	1									●				○	19 単 位 以 上	
	教育実習Ⅰ(幼・小)	2					◎				●				○		
	教育実習Ⅱ(幼・小)	2					◎				●				○		
	特別支援教育実習(事前事後指導1単位含む)	3										●			○		
	教職実践演習	2								◎	●			○			
	基礎ゼミナールⅠ	2		◎											○		
	基礎ゼミナールⅡ	2				◎									○		
	人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)	4						◎							○		
	人間教育学ゼミナールⅡ(応用)	4									◎				○		
	卒業研究	4								○					○		
関連科目	学校経営と学校図書館	2							○					○			
	学校図書館メディアの構成	2							○					○			
	学習指導と学校図書館	2							○					○			
	読書と豊かな人間性	2							○					○			
	情報メディアの活用	2							○					○			

※「器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)」は「器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)」を修得又は履修した者のみが履修できる。

註1 「配当年次」欄の「◎」は卒業必修科目、「○」は卒業選択科目を表す。

註2 「資格要件科目」欄の「●」は免許必修科目、「◎」は免許選択必修科目、「○」は免許選択科目を表す。

註3 【卒業要件単位 124単位】

- ① 共通教育科目26単位以上(必修8単位を含む)
- ② 専門科目のうち、基礎科目32単位以上
- ③ 専門科目のうち、発展科目47単位以上
- ④ 専門科目のうち、演習実習科目19単位以上

■ 2026年度入学生 人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻 授業科目表 <国語専修>

I. 共通教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件		
			1年		2年		3年		4年		中高 国語	特別 支援	講義	演習	実験・ 実習			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
基礎 教養科目	英語 I	1	○		○		○		○					○				26 単 位 以 上
	英語 II	1		○		○		○		○				○				
	英会話 I	1	◎		◎		◎		◎		●				○			
	英会話 II	1		◎		◎		◎		◎		●			○			
	中国語基礎	1	○		○		○		○					○				
	中国語会話	1	○	○	○	○	○	○	○	○					○			
	スペイン語基礎	1	○		○		○		○					○				
	スペイン語会話	1	○	○	○	○	○	○	○	○					○			
	日本語 I	1	○		○		○		○					○				
	日本語 II	1	○		○		○		○					○				
	日本語表現 I	1	○		○		○		○						○			
	日本語表現 II	1	○		○		○		○						○			
	日本語表現 III	1	○		○		○		○						○			
	日本語表現 IV	1	○		○		○		○						○			
	文学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	●			○				
	哲学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	倫理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	心理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	文化人類学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	音楽の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	社会学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	日本国憲法	2		◎		◎		◎		◎		●		○				
	歴史学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	地理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	数学の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	自然科学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
環境化学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○					
健康スポーツ(理論)	1	◎		◎		◎		◎		●			○					
健康スポーツ(実技)	1		◎		◎		◎		◎		●				○			
バラスポーツ指導論	1	○	○	○	○	○	○	○	○					○				
スポーツ実技 I	1	○		○		○		○							○			
スポーツ実技 II	1	○		○		○		○							○			
共生 教養科目	共生と社会	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
	人権論	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
	ボランティア活動	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
	生活と環境	2	○	○	○	○	○	○	○									
	暮らしと地域社会	2	○	○	○	○	○	○	○									
	地域と安全	1			○		○		○					○				
国際 科目 奈良・	奈良学	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
	けいはんな学研都市学	1	○		○		○		○					○				
	異文化コミュニケーション	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
	国際事情	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
情報 教養 科目	情報機器の操作	2	◎		◎		◎		◎		●			○				
	情報倫理とセキュリティ	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
	データの世界	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
	CGの基礎と演習	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
	情報と分析	2	○	○	○	○	○	○	○					○				
形 成 課 目 ア	キャリアデザイン	1			○										○			
	キャリアディベロップメント	1			○										○			
	キャリアスキルアップ I	1				○									○			
	キャリアスキルアップ II	1					○								○			
	インターンシップ	2						○							○			

Ⅱ. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次												資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件
			1年			2年			3年			4年			中高 国語	特別 支援	講義	演習	実務・ 実習	
			前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年						
基礎科目	発達・教育心理学	2													●		○			32 単 位 以 上
	教育行政学	2				○									◎1	○				
	教育社会学	2					○								◎2	○				
	教職入門	2	○												●	○				
	教育原理	2		○											●	○				
	器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	2	○														○			
	器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)	2				○											○			
	食の心理	2					○									○				
	国語学入門	2	○												●	○				
	国語学Ⅰ	2		○											●	○				
	国文学入門	2	○												●	○				
	国文学Ⅰ	2		○											●	○				
	漢文学入門	2	○												●	○				
	漢文学Ⅰ	2		○											●	○				
	書写・書道入門	2		○											●	○				
	書写・書道Ⅰ	2				○									○	○				
	人間教育 する学 理解の 基礎に	人間教育学	2	◎												●	○			
		ことばとコミュニケーション	2		○											●	○			
		教育と日本の伝統文化	2					○									○			
		英米文学	2					○									○			
言語学概論		2									○					○				
社会言語学		2									○					○				
日本事情		2								○						○				
専門科目	現代教育課題A(不登校・いじめ)	2								○						○			47 単 位 以 上	
	現代教育課題B(特別支援)	2								○						○				
	現代教育課題C(学校と安全)	2								○						○				
	現代教育課題D(学校における異文化理解)	2								○						○				
	教育相談の理論と方法	2								○					●	○				
	特別支援	2		○											●	○				
	教育課程論	2								○					●	○				
	道徳教育の指導法	2								○					●	○				
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2								○					●	○				
	教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2		○							○				●	○				
	ICT教材研究	2								○								○		
	生徒指導・進路指導論	2								○					●	○				
	器楽・歌唱の指導法	2								○							○			
	体育実技の指導法	2								○							○			
	国語学Ⅱ	2				○									●	○				
	国語学特論	2									○				○	○				
	語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)	2					○								●		○			
	国文学Ⅱ	2					○								●	○				
	国文学特論	2								○					○	○				
	語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)	2						○							●		○			
	漢文学Ⅱ	2					○								●	○				
	漢文学特論	2								○					○	○				
	語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)	2						○							●		○			
	書写・書道Ⅱ	2								○					○		○			
	国語科教育法Ⅰ	2		○											●	○				
	国語科教育法Ⅱ	2					○								●	○				
	国語科教育法Ⅲ	2						○							●	○				
	国語科教育法Ⅳ	2									○				●	○				
	特別支援教育総論	2		○											●		○			
	知的障害者の心理	2					○								●	○				
	知的障害者の生理・病理	2					○								●	○				
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2					○								●	○				
	病弱者の心理・生理・病理	2						○							●	○				
	発達障害者の心理	2									○				○	○				
	知的障害者教育課程論と指導論	2						○							○	○				
	肢体不自由者教育課程論と指導論	2							○						○	○				
	病弱者教育課程論と指導論	2								○					○	○				
	障害の検査と評価	2									○				○	○				
	重度・重複障害者教育課程論と指導論	2									○				○	○				
	視覚障害者教育総論	2									○				○	○				
聴覚障害者教育総論	2									○				○	○					
発達障害者教育総論	2									○				○	○					
キャリア 教育 形成	教職表現力演習	2															○			
	国語表現力演習	2															○			
	人間教育実践力開発演習Ⅰ	2					○										○			
	人間教育実践力開発演習Ⅱ	2						○									○			
	人間教育実践力開発演習Ⅲ	2									○						○			
	人間教育実践力開発演習Ⅳ	2										○					○			

Ⅱ. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件
			1年		2年		3年		4年		中高 国語	特別 支援	講義	演習	実 習	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期						
専門科目 演習実習科目	教育実習事前事後指導(中・高)	1									●			○		19 単 位 以 上
	教育実習Ⅰ(中・高)	2					◎				●				○	
	教育実習Ⅱ(中)	2					◎				●				○	
	特別支援教育実習(事前事後指導1単位含む)	3								○	●				○	
	教職実践演習	2							◎		●				○	
	基礎ゼミナールⅠ	2		◎										○		
	基礎ゼミナールⅡ	2				◎								○		
	人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)	4						◎						○		
	人間教育学ゼミナールⅡ(応用)	4								◎				○		
	卒業研究	4								○				○		
関連科目	学校経営と学校図書館	2							○				○			
	学校図書館メディアの構成	2							○				○			
	学習指導と学校図書館	2							○				○			
	読書と豊かな人間性	2							○				○			
	情報メディアの活用	2							○				○			

※「器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)」は「器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)」を修得又は履修した者のみが履修できる。

註1 「配当年次」欄の「◎」は卒業必修科目、「○」は卒業選択科目を表す。

註2 「資格要件科目」欄の「●」は免許必修科目、「◎」は免許選択必修科目、「○」は免許選択科目を表す。

註3 「日本語教師資格」欄の「◆」は日本語教師資格必修科目を表す。

註3 【卒業要件単位 124単位】

- ① 共通教育科目26単位以上(必修8単位を含む)
- ② 専門科目のうち、基礎科目32単位以上
- ③ 専門科目のうち、発展科目47単位以上
- ④ 専門科目のうち、演習実習科目19単位以上

■ 2026年度入学生 人間教育学部 人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻 授業科目表 <数学専修>

I. 共通教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件		
			1年		2年		3年		4年		中高 数学	講義	演習	実習・ 実験				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
共通教育科目	英語 I	1	○		○		○		○			○						26 単 位 以 上
	英語 II	1		○		○		○		○			○					
	英会話 I	1	◎		◎		◎		◎		◎	●		○				
	英会話 II	1		◎		◎		◎		◎		●		○				
	中国語基礎	1	○		○		○		○				○					
	中国語会話	1	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	スペイン語基礎	1	○		○		○		○		○			○				
	スペイン語会話	1	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	日本語 I	1	○		○		○		○		○			○				
	日本語 II	1		○		○		○		○				○				
	日本語表現 I	1	○		○		○		○		○			○				
	日本語表現 II	1		○		○		○		○				○				
	日本語表現 III	1	○		○		○		○		○			○				
	日本語表現 IV	1		○		○		○		○				○				
	文学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	哲学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	倫理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	心理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	文化人類学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	音楽の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	社会学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	日本国憲法	2		◎		◎		◎		◎		●		○				
	歴史学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	地理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	数学の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	自然科学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	環境化学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
	健康スポーツ(理論)	1	◎		◎		◎		◎		◎	●		○				
健康スポーツ(実技)	1		◎		◎		◎		◎		●		○					
バラスポーツ指導論	1	○	○	○	○	○	○	○	○				○					
スポーツ実技 I	1	○		○		○		○		○				○				
スポーツ実技 II	1		○		○		○		○					○				
共生 教育 科目	共生と社会	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	人権論	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	ボランティア活動	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	生活と環境	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	暮らしと地域社会	2	○		○		○		○		○		○					
地域と安全	1			○		○		○				○						
国際 科目 奈良・ 京都	奈良学	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	けいはんな学研都市学	1	○		○		○		○				○					
	異文化コミュニケーション	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	国際事情	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
情報 教育 科目	情報機器の操作	2	◎		◎		◎		◎		●		○					
	情報倫理とセキュリティ	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	データの世界	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	CGの基礎と演習	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
	情報と分析	2	○	○	○	○	○	○	○				○					
形 成 課 目 ア	キャリアデザイン	1			○									○				
	キャリアディベロップメント	1			○									○				
	キャリアスキルアップ I	1				○								○				
	キャリアスキルアップ II	1					○							○				
	インターンシップ	2						○						○				

Ⅱ. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件
			1年		2年		3年		4年		中高 数学	講義	演習	実務・ 実習		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
基礎科目	発達・教育心理学	2				○					●	○				32 単 位 以 上
	教育行政学	2				○					◎1	○				
	教育社会学	2					○				◎2	○				
	教職入門	2	○								●	○				
	教育原理	2		○							●	○				
	数の理解	2		○								○				
	器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	2	○										○			
	器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)	2				○							○			
	食の心理	2				○						○				
	代数学基礎	2		○							●	○				
	解析学基礎	2		○							●	○				
	コンピュータ基礎	2		○							●	○				
	代数学A(線形写像)	2				○					●	○				
	幾何学基礎	2		○							●	○				
	解析学A(テラー展開)	2				○					●	○				
	確率・統計基礎	2				○					●	○				
	代数学B(群論)	2					○				●	○				
	幾何学A(集合と位相)	2				○					●	○				
	解析学B(複素関数)	2					○				●	○				
	コンピュータA(アルゴリズム論)	2					○				●	○				
人間教育 する理解の 基礎に	人間教育学	2		◎								○				
	教育と日本の伝統文化	2				○						○				
	英米文学	2				○						○				
	数学入門	2		○								○				
	言語学概論	2							○			○				
	社会言語学	2							○			○				
	日本事情	2						○				○				
現代教育 理解に 関する 理解に	現代教育課題A(不登校・いじめ)	2										○			47 単 位 以 上	
	現代教育課題B(特別支援)	2										○				
	現代教育課題C(学校と安全)	2										○				
	現代教育課題D(学校における異文化理解)	2							○			○				
	教育相談の理論と方法	2							○		●	○				
	教育実践の 理解	特別支援	2		○							●	○			
		教育課程論	2						○			●	○			
		道徳教育の指導法	2						○			●	○			
		教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2		○				○			●	○			
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2						○			●	○			
		生徒指導・進路指導論	2				○					●	○			
		代数学Ⅰ(数論)	2					○				○	○			
		幾何学B(位相空間)	2				○					●	○			
		確率・統計応用	2					○				●	○			
		代数学Ⅱ(環と体)	2						○			○	○			
		解析学Ⅰ(ルベーグ積分)	2						○			○	○			
		コンピュータB(統計データ分析)	2						○			●	○			
		応用数学Ⅰ(位相幾何)	2							○		○	○			
	解析学Ⅱ(関数解析)	2							○		○	○				
	応用数学Ⅱ(応用代数学)	2							○		○	○				
応用数学Ⅲ(微分方程式)	2								○	○	○					
数学科教育法Ⅰ	2		○							●	○					
数学科教育法Ⅱ	2				○					●	○					
数学科教育法Ⅲ	2				○					●	○					
数学科教育法Ⅳ	2					○				●	○					
キャリア 教育 形成	教職表現力演習	2			○								○			
	数学表現力演習	2					○						○			
	人間教育実践力開発演習Ⅰ	2			○								○			
	人間教育実践力開発演習Ⅱ	2				○							○			
	人間教育実践力開発演習Ⅲ	2						○					○			
人間教育実践力開発演習Ⅳ	2							○				○				
教育実践 演習	教育実習事前事後指導(中・高)	1							◎		●		○			
	教育実習Ⅰ(中・高)	2							◎		●		○			
	教育実習Ⅱ(中)	2									●		○			
	教職実践演習	2								◎	●		○			
	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2			◎								○		
基礎ゼミナールⅡ		2					◎						○			
人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)		4						◎					○			
人間教育学ゼミナールⅡ(応用)		4								◎			○			
卒業研究		4								○			○			
関連科目	司書取得 図書館 免許	2							○			○				
	学校経営と学校図書館	2							○			○				
	学校図書館メディアの構成	2							○			○				
	学習指導と学校図書館	2							○			○				
	読書と豊かな人間性 情報メディアの活用	2							○			○				

※「器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)」は「器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)」を修得又は履修した者のみが履修できる。

註1 「配当年次」欄の「◎」は卒業必修科目、「○」は卒業選択科目を表す。

註2 「資格要件科目」欄の「●」は免許必修科目、「◎」は免許選択必修科目、「○」は免許選択科目を表す。

註3 【卒業要件単位 124単位】

- ① 共通教育科目26単位以上(必修8単位を含む)
- ② 専門科目のうち、基礎科目32単位以上
- ③ 専門科目のうち、発展科目47単位以上
- ④ 専門科目のうち、演習実習科目19単位以上

■ 2026年度入学生 人間教育学部 人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻 授業科目表 <音楽専修>

I. 共通教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件			
			1年		2年		3年		4年		中高音楽	講義	演習	実習					
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
基礎 教養科目	英語 I	1	○		○		○		○				○				26 単 位 以 上		
	英語 II	1		○		○		○		○			○						
	英会話 I	1	◎		◎		◎		◎		◎		●		○				
	英会話 II	1		◎		◎		◎		◎		◎		●		○			
	中国語基礎	1	○		○		○		○		○			○					
	中国語会話	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	スペイン語基礎	1	○		○		○		○		○			○					
	スペイン語会話	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	日本語 I	1	○		○		○		○		○			○					
	日本語 II	1		○		○		○		○				○					
	日本語表現 I	1	○		○		○		○		○				○				
	日本語表現 II	1		○		○		○		○					○				
	日本語表現 III	1	○		○		○		○		○				○				
	日本語表現 IV	1		○		○		○		○					○				
	文学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	哲学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	倫理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	心理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	文化人類学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	音楽の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	社会学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	日本国憲法	2		◎		◎		◎		◎		◎		●		○			
	歴史学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	地理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	数学の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	自然科学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	環境化学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	健康スポーツ(理論)	1	◎		◎		◎		◎		◎		●		○				
	健康スポーツ(実技)	1		◎		◎		◎		◎		◎		●		○			
	バラスポーツ指導論	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	スポーツ実技 I	1	○		○		○		○		○					○			
	スポーツ実技 II	1		○		○		○		○		○				○			
共生 教養科目	共生と社会	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	人権論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	ボランティア活動	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	生活と環境	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	暮らしと地域社会	2	○		○		○		○		○		○						
地域と安全	1			○		○		○		○			○						
国際 科目	奈良学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	けいはんな学研都市学	1	○		○		○		○		○		○						
	異文化コミュニケーション	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	国際事情	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
情報 教養科目	情報機器の操作	2	◎		◎		◎		◎		◎		●		○				
	情報倫理とセキュリティ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	データの世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	CGの基礎と演習	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
	情報と分析	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
形 成 課 目	キャリアデザイン	1			○										○				
	キャリアディベロップメント	1			○										○				
	キャリアスキルアップ I	1					○								○				
	キャリアスキルアップ II	1						○							○				
	インターンシップ	2							○						○				

Ⅱ. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件
			1年		2年		3年		4年		中高音楽	講義	演習	実務・実験		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
基礎科目	発達・教育心理学	2				○					●	○			32 単 位 以 上	
	教育行政学	2				○					◎1	○				
	教育社会学	2				○					◎2	○				
	教職入門	2	○								●	○				
	教育原理	2		○							●	○				
	音楽の理解	2		○								○				
	器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	2		○									○			
	器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)	2				○							○			
	食の心理	2				○						○				
	楽典	2		○							●	○				
	ソルフェージュⅠ	1				○					●		○			
	ソルフェージュⅡ	1				○					●		○			
	キーボードハーモニーⅠ	1					○				●		○			
	キーボードハーモニーⅡ	1						○			●		○			
	音楽表現ⅠA(ピアノ・歌)	2			○						◎1	○				
	音楽表現ⅠB(リズム&ダンス)	2			○						◎2	○				
	音楽表現ⅡA(ピアノ・歌)	2					○				◎1	○				
	音楽表現ⅡB(リズム&ダンス)	2					○				◎2	○				
	人間教育 する学 理の基 礎に	人間教育学	2	◎									○			47 単 位 以 上
		教育と日本の伝統文化	2				○						○			
英米文学		2				○						○				
西洋の音楽史と理論		2				○					●	○				
諸民族の音楽(日本伝統音楽を含む)		2				○					●	○				
言語学概論		2							○			○				
社会言語学		2							○			○				
日本事情		2					○					○				
現代教育 に関する 理解に 関する 理解に	現代教育課題A(不登校・いじめ)	2						○				○		47 単 位 以 上		
	現代教育課題B(特別支援)	2						○				○				
	現代教育課題C(学校と安全)	2						○				○				
	現代教育課題D(学校における異文化理解)	2							○			○				
	教育相談の理論と方法	2							○		●	○				
	特別支援	2		○							●	○				
	教育課程論	2					○				●	○				
	道徳教育の指導法	2					○				●	○				
	教育方法・技術論(情報通信技術の活用を含む。)	2		○							●	○				
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2						○			●	○				
	生徒指導・進路指導論	2				○					●	○				
	合唱Ⅰ	1		○							●		○			
	合唱Ⅱ	1			○						●		○			
	器楽演習ⅠA(ピアノ)	1					○				◎1	○				
	器楽演習ⅠB(管打)	1					○				◎2	○				
	身体表現演習Ⅰ	1					○				●	○				
	声楽実技Ⅰ(日本伝統歌唱を含む)	1				○					◎3	○				
	器楽演習ⅡA(ピアノ)	1						○			◎1	○				
	器楽演習ⅡB(管打)	1							○		◎2	○				
	身体表現演習Ⅱ	1						○			●	○				
	声楽実技Ⅱ(日本伝統歌唱を含む)	1					○				◎3	○				
	器楽特殊演習ⅠA(ピアノ)	1							○		◎1	○				
	器楽特殊演習ⅠB(管打)	1							○		◎2	○				
	身体表現特殊演習Ⅰ	1							○		●	○				
	声楽演奏法演習Ⅰ	1						○			◎3	○				
	器楽特殊演習ⅡA(ピアノ)	1							○		◎1	○				
	器楽特殊演習ⅡB(管打)	1							○		◎2	○				
	身体表現特殊演習Ⅱ	1							○		●	○				
	声楽演奏法演習Ⅱ	1							○		◎3	○				
	器楽合奏Ⅰ(和楽器を含む)	2			○						●	○				
	器楽合奏Ⅱ	2				○						○				
	器楽合奏Ⅲ	2					○					○				
器楽合奏Ⅳ	2						○				○					
指揮法	2					○				●	○					
作曲法基礎(編曲法を含む)	2						○				○					
作曲法応用(編曲法を含む)	1							○			○					
音楽科教育法Ⅰ	2		○							●	○					
音楽科教育法Ⅱ	2			○						●	○					
音楽科教育法Ⅲ	2				○					●	○					
音楽科教育法Ⅳ	2							○		●	○					
キャリア 教育 形成	教職表現力演習	2		○								○		47 単 位 以 上		
	音楽表現力演習	2				○						○				
	人間教育実践力開発演習Ⅰ	2			○							○				
	人間教育実践力開発演習Ⅱ	2				○						○				
	人間教育実践力開発演習Ⅲ	2					○					○				
人間教育実践力開発演習Ⅳ	2							○			○					

Ⅱ. 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次								資格要件科目 教員免許		授業形態			履修区分 卒業要件
			1年		2年		3年		4年		中高音楽	講義	演習	実務・実習		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門科目	教育実践実習	教育実習事前事後指導(中・高)	1									●		○		19 単 位 以 上
		教育実習Ⅰ(中・高)	2					◎				●			○	
		教育実習Ⅱ(中)	2					◎				●			○	
		教職実践演習	2							◎		●		○		
	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2		◎									○		
		基礎ゼミナールⅡ	2				◎							○		
		人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)	4						◎					○		
		人間教育学ゼミナールⅡ(応用)	4								◎			○		
		卒業研究	4								○			○		
														○		
関連科目	学校教諭 図書館 免許 取得 司書	学校経営と学校図書館	2							○			○			
		学校図書館メディアの構成	2							○			○			
		学習指導と学校図書館	2								○			○		
		読書と豊かな人間性	2								○			○		
		情報メディアの活用	2								○			○		

※「器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)」は「器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)」を修得又は履修した者のみが履修できる。

※「合唱Ⅱ」は「合唱Ⅰ」を修得又は履修した者のみが履修できる。

※「声楽実技Ⅱ(日本伝統歌唱を含む)」は「声楽実技Ⅰ(日本伝統歌唱を含む)」を修得又は履修した者のみが履修できる。

※「声楽演奏法演習Ⅱ」は「声楽演奏法演習Ⅰ」を修得又は履修した者のみ履修できる。

※「音楽表現ⅡB(リズム&ダンス)」は「音楽表現ⅠB(リズム&ダンス)」を修得した者のみが履修できる。

※「身体表現演習Ⅱ」は「身体表現演習Ⅰ」を修得した者のみが履修できる。

※「身体表現特殊演習Ⅰ」は「身体表現演習Ⅱ」を修得した者のみが履修できる。

※「身体表現特殊演習Ⅱ」は「身体表現特殊演習Ⅰ」を修得した者のみが履修できる。

註1 「配当年次」欄の「◎」は卒業必修科目、「○」は卒業選択科目を表す。

註2 「資格要件科目」欄の「●」は免許必修科目、「◎」は免許選択必修科目、「○」は免許選択科目を表す。

註3 【卒業要件単位 124単位】

- ① 共通教育科目26単位以上(必修8単位を含む)
- ② 専門科目のうち、基礎科目32単位以上
- ③ 専門科目のうち、発展科目47単位以上
- ④ 専門科目のうち、演習実習科目19単位以上

# 18. 人間教育学部 人間教育学科 専攻間相互に履修を認める専門科目表

2022年度以降入学生対象

人間教育学部 人間教育学科 人間教育学専攻					人間教育学部 人間教育学科 中等(数学・音楽)専攻				
中等(数学・音楽)専攻の科目で履修可能な科目(隣接する校種に関する科目)					人間教育学専攻の科目で履修可能な科目(隣接する校種に関する科目)				
授業科目の名称	配当年次	選択	授業形態		授業科目の名称	配当年次	選択	授業形態	
			講義	演習・実験・実習				講義	演習・実験・実習
代数学基礎	1後	2	○		言葉の理解	1後	2	○	
解析学基礎	1後	2	○		社会の理解	1後	2	○	
コンピュータ基礎	1後	2	○		自然の理解	1前	2	○	
代数学A(線形写像)	2前	2	○		生活の理解	1後	2	○	
幾何学基礎	2前	2	○		美術の理解	1前	2	○	
解析学A(テラー展開)	2前	2	○		衣食住の理解	1前	2	○	
確率・統計基礎	2前	2	○		運動・健康の理解	1後	2	○	
代数学B(群論)	2後	2	○		外国語の理解	1前	2	○	
幾何学A(集合と位相)	2後	2	○		書写演習(小)	2後	2		○
解析学B(複素関数)	2後	2	○		国語学入門	1前	2	○	
コンピュータA(アルゴリズム論)	2後	2	○		国語学I	1後	2	○	
楽典	1後	2	○		国文学入門	1前	2	○	
ソルフェージュI	2前	1		○	国文学I	1後	2	○	
ソルフェージュII	2後	1		○	漢文学入門	1前	2	○	
キーボードハーモニーI	3前	1		○	漢文学I	1後	2	○	
キーボードハーモニーII	3後	1		○	書写・書道入門	1後	2	○	
音楽表現IA(ピアノ・歌)	1通年	2		○	書写・書道I	2前	2	○	
音楽表現IB(リズム&ダンス)	1通年	2		○	ことばとコミュニケーション	1後	2	○	
音楽表現IIA(ピアノ・歌)	2通年	2		○	器楽・歌唱の指導法	3後	2		○
音楽表現IIB(リズム&ダンス)	2通年	2		○	体育実技の指導法	3後	2		○
数学入門	1前	2	○		国語学II	2前	2	○	
西洋の音楽史と理論	2前	2	○		国語学特論	4前	2	○	
諸民族の音楽(日本伝統音楽を含む)	2後	2	○		語学・文学総合演習I(国語学)	2後	2		○
代数学I(数論)	3前	2	○		国文学II	2前	2	○	
幾何学B(位相空間)	3前	2	○		国文学特論	3前	2	○	
確率・統計応用	3前	2	○		語学・文学総合演習II(国文学)	2後	2		○
代数学II(環と体)	3後	2	○		漢文学II	2前	2	○	
解析学I(ルベーグ積分)	3後	2	○		漢文学特論	3前	2	○	
コンピュータB(統計データ分析)	3後	2	○		語学・文学総合演習III(漢文学)	2後	2		○
応用数学I(位相幾何)	4前	2	○		書写・書道II	3前	2		○
解析学II(関数解析)	4前	2	○		特別支援教育総論	1前	2	○	
応用数学II(応用代数学)	4後	2	○						
応用数学III(微分方程式)	4後	2	○						
合唱I	2前	1		○					
合唱II	2後	1		○					
器楽演習IA(ピアノ)	3前	1		○					
器楽演習IB(管打)	3前	1		○					
身体表現演習I	3前	1		○					
声楽実技I(日本伝統歌唱を含む)	3前	1		○					
器楽演習IIA(ピアノ)	3後	1		○					
器楽演習IIB(管打)	3後	1		○					
身体表現演習II	3後	1		○					
声楽実技II(日本伝統歌唱を含む)	3後	1		○					
器楽特殊演習IA(ピアノ)	4前	1		○					
器楽特殊演習IB(管打)	4前	1		○					
身体表現特殊演習I	4前	1		○					
声楽演奏法演習I	4前	1		○					
器楽特殊演習IIA(ピアノ)	4後	1		○					
器楽特殊演習IIB(管打)	4後	1		○					
身体表現特殊演習II	4後	1		○					
声楽演奏法演習II	4後	1		○					
器楽合奏I(和楽器を含む)	1通年	2		○					
器楽合奏II	2通年	2		○					
器楽合奏III	3通年	2		○					
器楽合奏IV	4通年	2		○					
指揮法	3前	2	○						
作曲法基礎(編曲法を含む)	4前	2	○						
作曲法応用(編曲法を含む)	4後	1		○					

- (注1) 本専攻以外において開講されている授業科目のうち、本専攻が指定した科目については8単位を上限として卒業要件単位として認めることができる。  
また、当該授業科目は、専門科目の発展科目の単位数として認められる。(履修規程第4条3項)
- (注2) 副登録者については、登録している校種の授業科目を履修することができる。
- (注3) 履修者数に制限がある科目については所属専修学生を優先とする。

## 19. 「育成したい学生像」能力指標一覧

人間教育学部（以下、本学部）では、「アドミッション・ポリシー」（以下、AP）、「カリキュラム・ポリシー」（以下、CP）、「ディプロマ・ポリシー」（以下、DP）および本学部で使用している履修カルテより、キャリア形成に関する諸能力「Education2030」（2018）を参考として能力項目を抽出し、本学部が育成したい学生像として、「豊かな人間力」（以下、人間力）、「柔軟な教育力」（以下、教育力）、「高度な実践力」（以下、実践力）の3基軸を考えています。

さらに、「人間力」には“基礎的知識・技能”，“自己理解・自己管理能力”，“人間関係形成・社会形成能力”が、「教育力」に“論理的思考力・創造力”，“課題対応能力”が、「実践力」に“専門的知識・技能”，“キャリア形成能力”が構成要素としてそれぞれ位置づいています。

以下に、本学部が育成したい学生像の3基軸、構成要素とDPの関係を示した表を示します

基軸	構成要素	DPとの対応（数字はDPの項目番号）							
豊かな人間力	①基礎的知識・技能	DP1					DP5		DP7
	②自己理解・自己管理能力		DP2				DP5		
	③人間関係形成・社会形成能力	DP1	DP2					DP6	
柔軟な教育力	④論理的思考力・創造力					DP4			
	⑤課題対応能力			DP3					
高度な実践力	⑥専門的知識・技能		DP2	DP3	DP4	DP5			
	⑦キャリア形成能力	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	

また、各構成要素の細目について示した表及び注釈は、下記の通りです。

基軸	構成要素	細目
豊かな人間力	①基礎的知識・技能	日本の伝統文化
		国際的な感覚
		教科・教育課程に関する基礎知識・技能
豊かな人間力	②自己理解・自己管理能力	将来を考えることへの意欲や関心
		自己教育力のためのセルフマネジメント能力
		将来を見据えて学ぶ能力
豊かな人間力	③人間関係形成・社会形成能力	他者との協調性
		倫理的態度
柔軟な教育力	④論理的思考力・創造力	論理的思考
		創作・工夫
柔軟な教育力	⑤課題対応能力	課題探究
高度な実践力	⑥専門的知識・技能	専門分野における使命感・情熱
		専門分野における知識・技能
高度な実践力	⑦キャリア形成能力	幅広い人との連携

## ①基礎的知識・技能

### 日本の伝統文化

伝統とは、「国を主体に受け継がれてきたものや、地域社会や家を主体に受け継がれてきたものなど、さまざまな形で今日まで継承・伝承されてきたものであり、これからも普遍的な価値と精神性、歴史的な存在意義として継承・伝承されていくもの」（日本伝統文化振興機構，2013）を指す。ただ単に日本の伝統文化の知識を持っているだけでなく、その普遍的価値、精神性、歴史的な存在意義までを理解しているかが問われる。

### 国際的な感覚

海外へのあこがれにとどまらず、日本と海外の相対化をしようとしている。

### 教科・教育課程に関する基礎知識・技能

大学での学修内容に中等教育までに学んできた基礎知識・技能を活用し、新たな知識・技能の更新をしている。

## ②自己理解・自己管理能力

### 将来を考えることへの意欲や関心

自らの将来に向けて、自分事として考えようとしている。

### 自己教育力のためのセルフマネジメント能力

遅刻・欠席をせず、提出物を期限内に提出をしている。

### 将来を見据えて学ぶ能力

将来を見据えて学ぼうとしている。学ぶ動機が「単位取得」という近視眼的なものではなく、「実習」「卒業後の自分」とより遠い展望をもって学ぼうとしている。

## ③人間関係形成・社会形成能力

### 他者との協調性

グループワークに積極的に参加する、グループ内でリーダーシップをとるなどしている。

### 倫理的態度

社会生活を送る上での一般的な決まりごとや秩序を守り、善悪を正しく判断しようとしている。

## ④論理的思考力・創造力

### 論理的思考

物事を筋道立てて考えようとしている。

## **創作・工夫**

課題を安易にコピー・アンド・ペースト（コピペ）だけで済ませようとしない。さらに、課題に独自性やオリジナリティを求めようとしている。

## **⑤課題対応能力**

### **課題探究**

自ら「問い」を立てて課題を見つける、「問い」に基づき仮説を立て検証する、検証結果をまとめ明らかになったことを発表する等、リサーチクエスションの技法習得を目指そうとしている。

発表の際、他者から指摘された意見に誠実に答えようとしている。

## **⑥専門的知識・技能**

### **専門分野における使命感・情熱**

大学における専門の教育内容を究めようとしている。

### **専門分野における知識・技能**

専門分野の知識・技能を習得しようとしている。

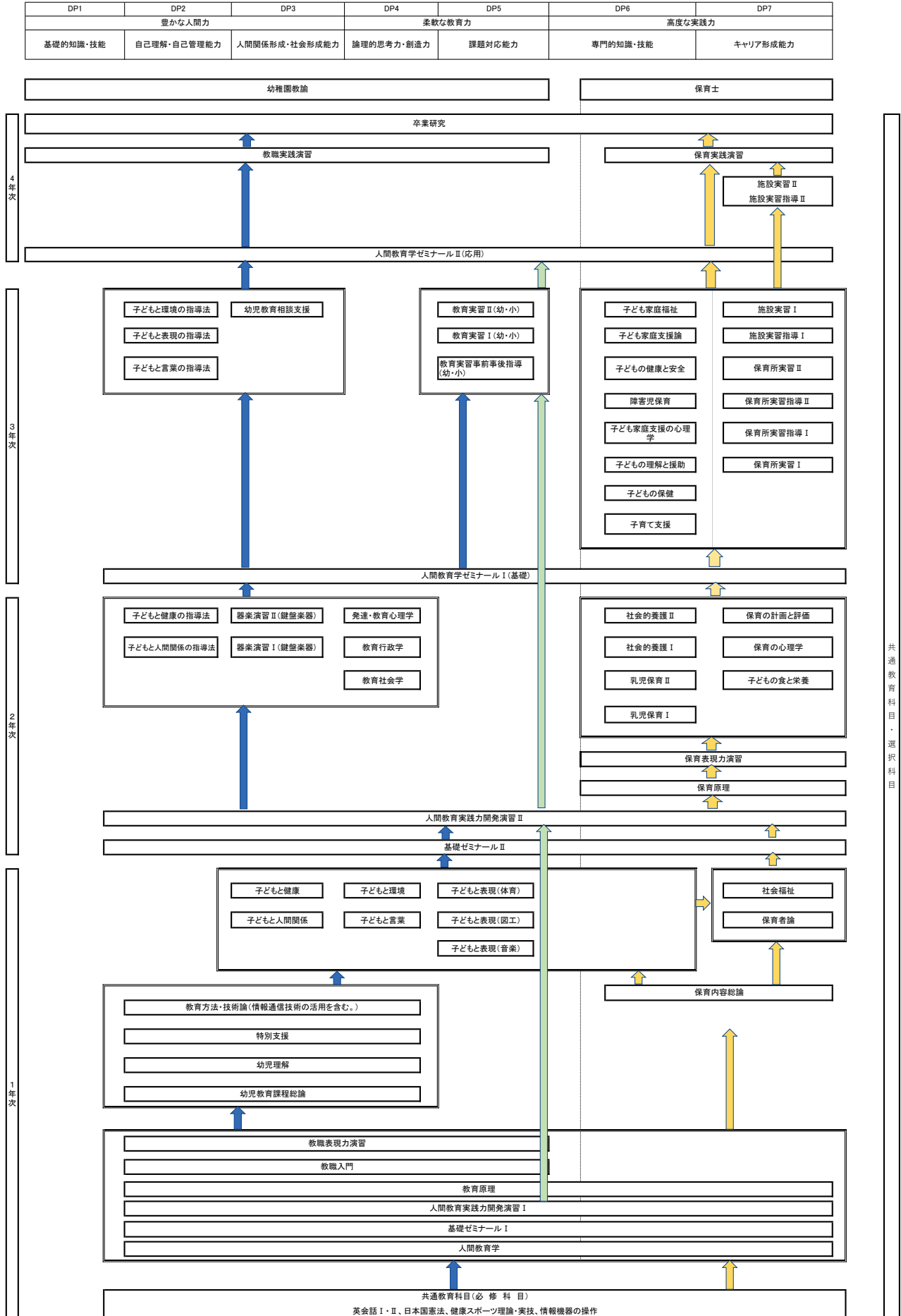
## **⑦キャリア形成能力**

### **幅広い人との連携**

大学構内の者だけにとどまらず、学外の人と大学の授業外で会おうとする、学校外で働く人に積極的に質問をしようとしている。

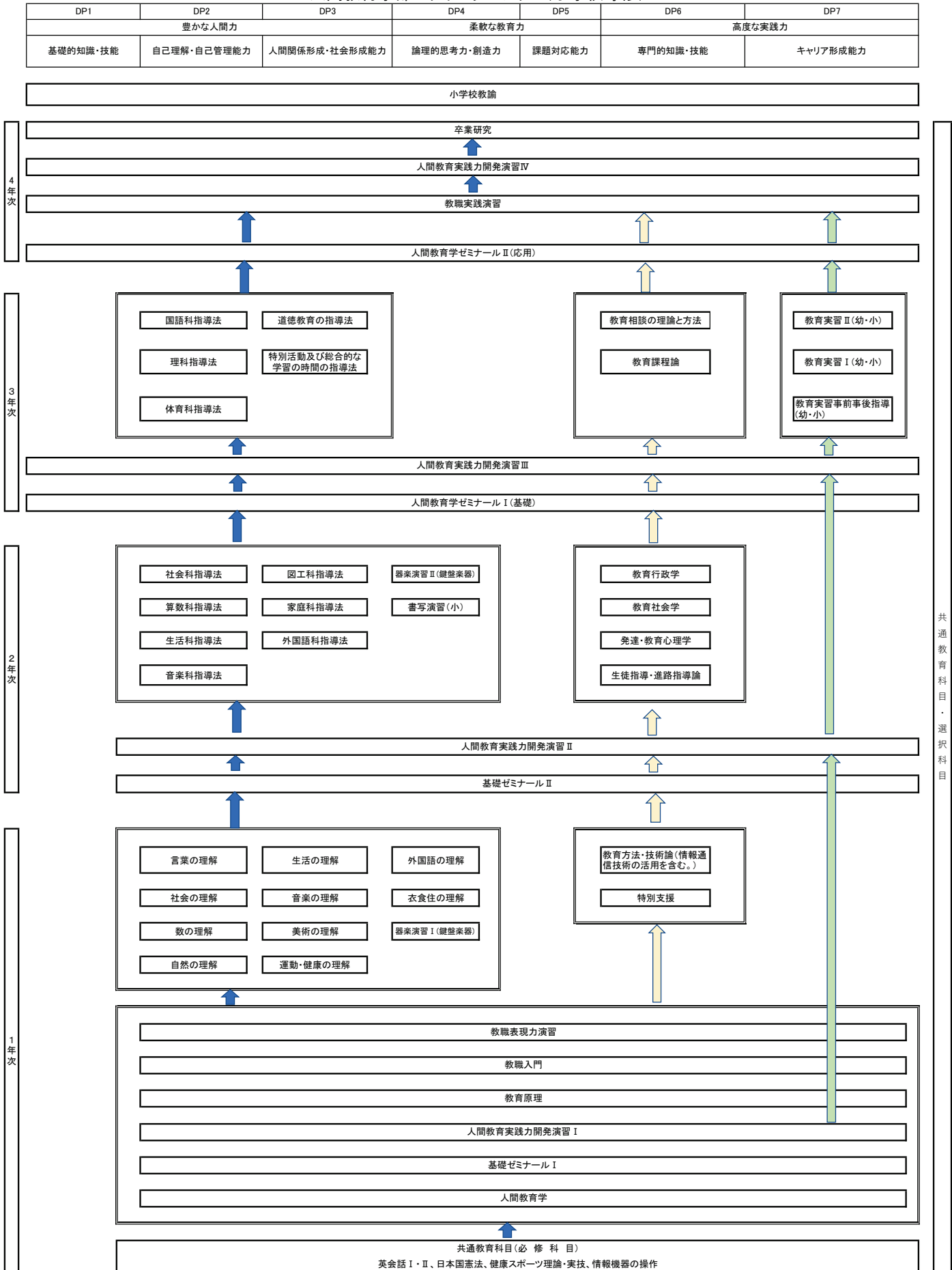
# 20. 人間教育学部 カリキュラムツリー

人間教育学部カリキュラムツリー(乳幼児教育専修)

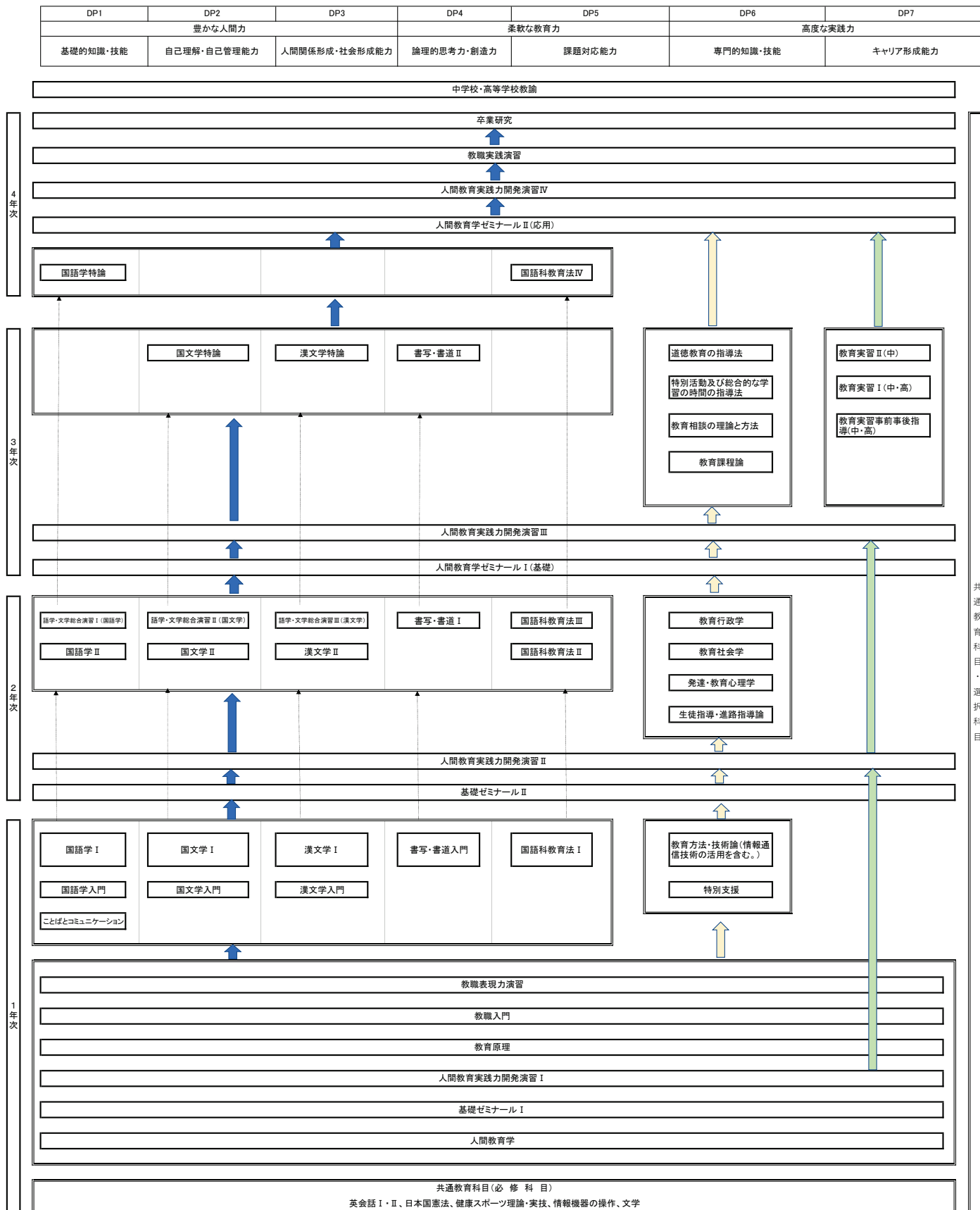


共通教育科目・選択科目

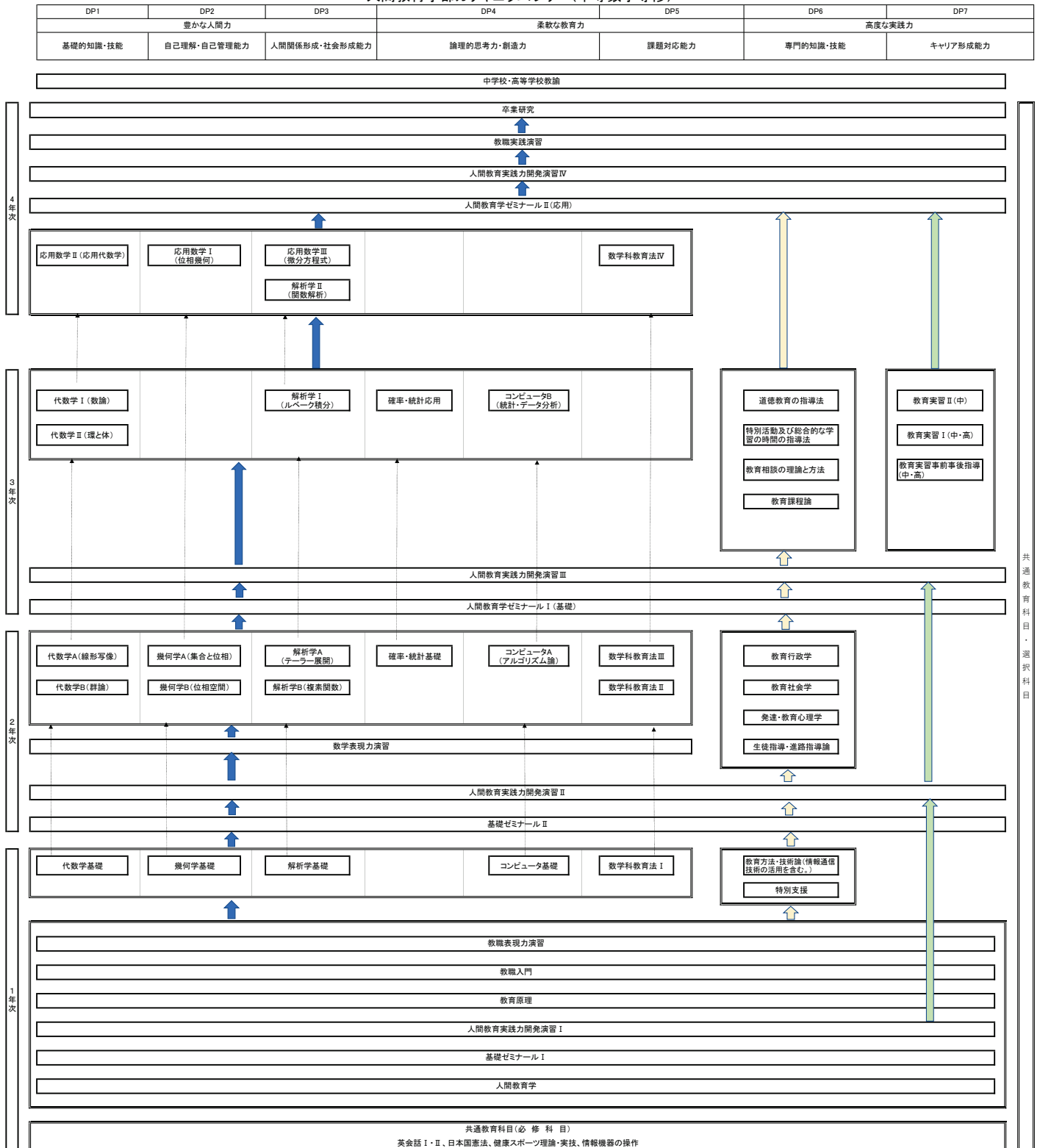
### 人間教育学部カリキュラムツリー(小学校専修)



### 人間教育学部カリキュラムツリー(中等国語専修)



人間教育学部カリキュラムツリー(中等数学専修)



人間教育学部カリキュラムツリー(中等音楽専修)

